

実施設計業務委託照査要領

北千葉広域水道企業団

令和4年10月1日

北千葉広域水道企業団実施設計業務委託照査要領

(目的)

第1条 この要領は、北千葉広域水道企業団(以下「企業団」という。)が所掌する実施設計業務委託(以下「設計業務」という。)の照査に必要な事項を定め、成果品の品質向上と設計担当技術者の資質の向上等を図ることを目的とする。

(定義)

第2条 この要領において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 照査

受託者が、設計業務の完了までに行う、発注条件、設計の考え方、構造細目等の照合及び技術計算等の検算であり、照査項目一覧表に照合することを言う。

(2) 業務委託発注時の確認

企業団が、設計業務を発注する前の段階で、特記仕様書に明示すべき事項及び打ち合わせで指示すべき事項を中心とした設計条件となるように基本的事項の一覧表(以下「発注前確認項目一覧表」という。)に基づき確認することを言う。

(3) 照査状況の把握

企業団の照査状況を把握する者が、受託者の照査技術者から照査項目一覧表に基づく照査結果の報告を受け、照査状況を的確に把握することを言う。

なお、企業団及び受託者の担当者は立ち会うものとする。

(4) 照査技術者

受託者において、照査業務に携わる者を言い、原則として技術士又はこれと同等の能力及び経験を有する技術者を言う。

なお、照査技術者は業務委託契約約款第3条に規定する業務主任技術者を兼ねることができない。

(5) 照査報告書

設計業務の最終段階で報告するもので、照査計画、各段階の照査項目一覧表及び設計調書をまとめたものをいう。

(照査の対象)

第3条 照査の対象となる設計業務は、次に掲げるものとする。

- (1) 水道管布設工事(管路)
- (2) 構造物築造工事(取水場)
- (3) 構造物築造工事(浄水場)
- (4) 設備工事(電気・機械・計装)

(照査業務等の方法)

第4条 設計業務発注時の確認、発注後の照査状況の把握及び照査は、別記様式の実施設計業務委託照査フローチャートにより実施するものとする。

2. 設計業務発注前の設計の基本的事項の確認は、別記様式の発注前確認項目一覧表により、企業団が実施するものとする。
3. 照査は、発注後の主な段階で別記様式の照査項目一覧表により、受託者が実施するものとする。
4. 照査状況の把握は、受託者から提出された照査項目一覧表により企業団は報告を受け、各項目毎に内容を把握するものとする。

(設計業務発注時の確認及び照査状況の把握を行う者)

第5条 設計業務発注時の確認及び照査状況の把握を行う者は、企業団の組織規程第二条に掲げる「主務室の長」とする。

(照査を行う者)

第6条 照査は、受託者の照査技術者が行うものとする。

(保管)

第7条 発注前確認項目一覧表及び照査項目一覧表の保管は、設計業務で実施した当該要領第3条の工事が完成するまでとする。

(その他)

第8条 受託者は、設計業務が完了に近づいた段階で、別記様式の設計調書を作成し、照査報告書に含めて企業団に提出するものとし、その保管は主務室の長が行うものとする。

2. 本要領の運用については、別途定めるものとする。

附 則 この要領は、平成9年4月1日から施行する。

附 則 この要領は、令和4年10月1日から施行する。

北千葉広域水道企業団実施設計業務委託照査要領の運用について

1. 用語の定義

(1) 条件等指示

発注前確認項目一覧表をもとに、設計条件となるような基本的事項や今後の照査業務で指示すべき事項等を取りまとめ、書面で提示することを言う。

(2) 管路

管路及び水管橋、推進等の特殊配管を言う。

(4) 照査計画

照査の体制、照査手段を始めとし、企業団から提示された照査項目一覧表の内容に受託者の保有する専門的かつ技術的な知見を加えた照査内容を具体的に整備する計画を言う。

(5) 業務計画書

設計業務を遂行する上での基本的な事項を定めるもので、その内容は業務体制、業務工程、照査計画等を言う。

2. 特記仕様書への明示

設計業務委託特記仕様書に以下の条項を明示する。

第〇〇条照査

1. 本業務における照査は、「北千葉広域水道企業団実施設計業務委託照査要領」により行うものとする。
2. 照査は、照査技術者が行うものとし、照査体制等を整備した照査計画書を作成し、業務計画書に明記するものとする。

3. 発注前確認項目一覧表の取扱い

- (1) 設計担当者が、業務内容から判断して該当対象項目を抽出し、「該当対象欄」に○印を記入し「確認欄」に日付を記入する。
- (2) 設計時に本一覧表及び準備した具体的設計条件を、主務室の長及び設計審査員（ただし、1,000万円以上の設計業務）に説明し、確認を受ける。

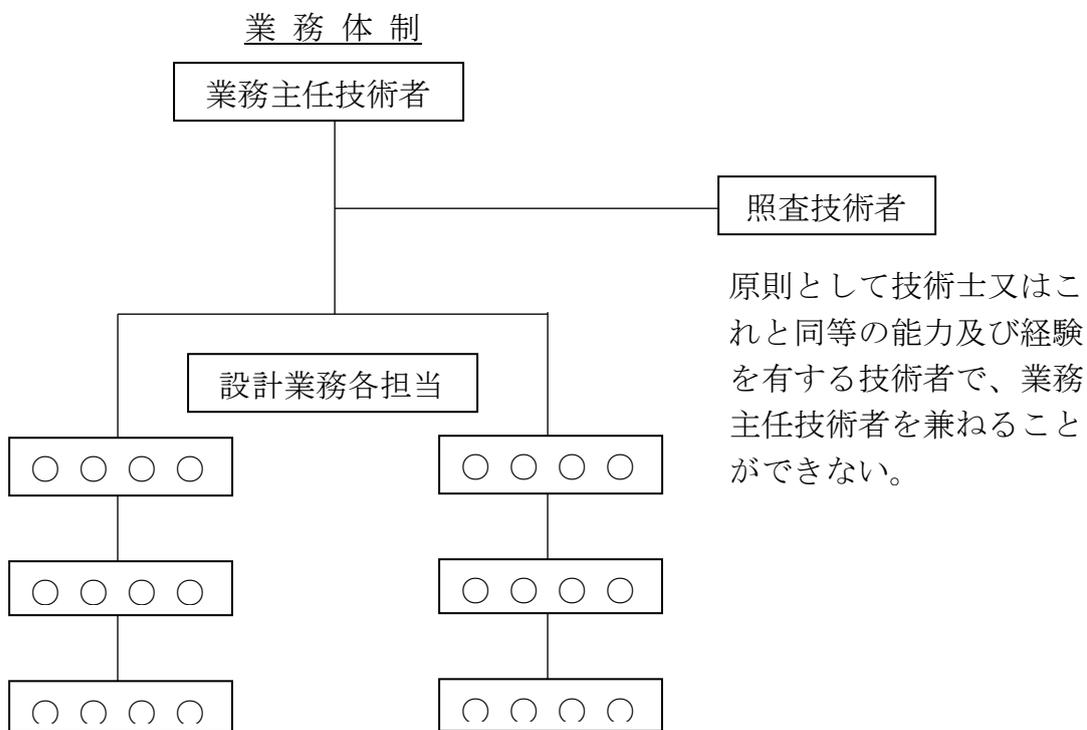
4. 照査項目一覧表の取扱い

- (1) 各照査段階において、照査の済んだ項目に○印と日付を記入し、照査された項目と照査されない項目が分別できるようにする。
- (2) 照査項目は、業務内容、規模、重要度に応じて追加又は削除することができる。なお、追加する場合は、別紙に新たな照査項目を明記するものとする。
- (3) 照査項目一覧表のみでは、把握できない照査事項がある場合においては、必要となる資料等を照査項目一覧表に併せて提出させるものとする。
この場合においては、提示資料欄に必要となる資料項目を明示するものとする。

- (4) 照査項目一覧表は、照査技術者及び業務主任技術者の氏名を明記したものを提出するものとし、主務室の長は報告を受けた項目毎に赤で照合済である旨を付し、照査状況を的確に把握したものを保管するものとする。
なお、照査資料は、受託者には返却しないものとする。

5. 設計調書の取扱い

- (1) 設計調書は、参考事例として利用できるようにするため集積するものとし、主務室の長はこれを年度末にまとめるものとする。
(2) 設計調書は、主務室の長が一元的に保管する。
業務体制の記載例(業務計画書)



実施設計業務委託照査項目一覧表

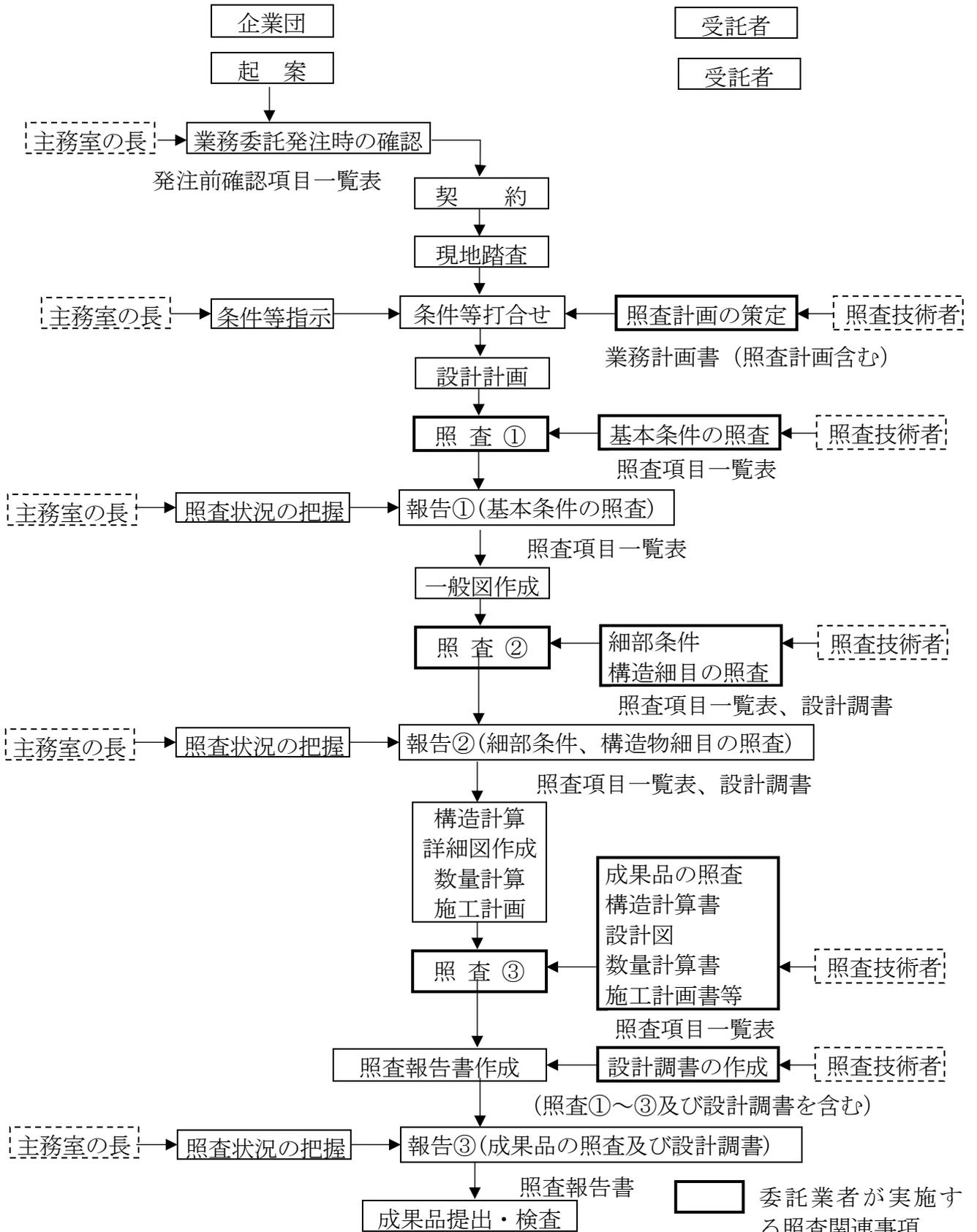
目 次

1. 水道管布設工事（管 路）
2. 構造物築造工事（取水場）
3. 構造物築造工事（浄水場）
4. 設備工事（電気・機械・計装）

1. 水道管布設工事（管路）

実施設計業務委託 照査項目一覽表

実施設計業務委託照査フローチャート



- 注記 1. 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。
 2. 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画提出時に打合せにより設定する。

基本項目一覧表 (管路)

No. 1

発注前確認	照 査 ①	照 査 ②	照 査 ③
<ul style="list-style-type: none"> 1 設計の目的、主旨 2 設計の範囲、内容、工期 3 路線選定、工事名、設計区間、工事(発注)時期 4 現地調査(予備調査) 5 関係機関との協議 6 設計基本条件 <ul style="list-style-type: none"> (1) 管径、管種、管継手の選定 (2) 管路付属設備の設置 (3) 特殊配管の選定、設置 (4) 管布設替工事の検討 7 施工上の基本条件 8 景観検討の必要性 9 イメージアップの必要性 10 貸与既往資料の確認 11 成果品 	<ul style="list-style-type: none"> 1 設計の目的、主旨、範囲、内容 2 仕様書 3 貸与資料の確認 4 現地調査結果 5 関係機関との協議 6 計基本条件 <ul style="list-style-type: none"> (1) 管の埋設位置、土被り (2) 管 経 (3) 管 種 (4) 管継手 (5) 伸縮継手 (6) 管路の付属設備 (7) 特殊配管 (8) 管布設替工事 7 地盤条件 8 耐震検討 9 使用材料 10 施工条件 11 景観検討 12 イメージアップの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 1 設計図 2 管路の各種計算 3 管路の付属設備 <ul style="list-style-type: none"> (1) バルブの設置 (2) バルブ室の設計 (3) 空気弁の設置 (4) 消火栓の設置 (5) 排水(ドレーン)設備 4 特殊配管 <ul style="list-style-type: none"> (1) 河底横断 (2) 軌道(道路)横断 (3) 水管橋、橋梁添架管 (4) 推進工法 (5) シールド工法 (6) サージタンク 5 管布設替工事 <ul style="list-style-type: none"> (1) 断水連絡工法 (2) 不断水連絡工法 (3) 仮配管、切回工事 (4) 不用管撤去、給水管切替 6 防食 <ul style="list-style-type: none"> (1) 水道用鋼管、鋼管杭等の電食防止措置 (2) 腐食防止措置 	<ul style="list-style-type: none"> 1 構造計算書 2 設計図 3 数量計算書 4 施工計画 5 設計調書 6 占用、使用、届出(工作物)等申請資料の作成 7 報告書

基本項目一覧表（管路）

No. 2

発注前確認	照査①	照査②	照査③
		7 土工 (1) 掘削工 (2) 埋戻し、締固め工 (3) 残土処理工 8 仮設工 (1) 土留工の選定 (2) 土留工の設計 (3) 水替工の選定 (4) 地下水位低下工法の選定 (5) 水替工の設計 9 路面復旧工 10 管路基礎 11 地盤改良	

発注前確認項目一覧表

業務名：

設計者所属・氏名：

発注前確認項目一覧表

No.	項 目	主 な 内 容	確認資料	該当対象	確 認	備 考
1	設計の目的、 主旨	1) 設計の目的・主旨は明確になっているか。 2) 全体事業計画との整合ととれているか。	特記仕様書 事業計画書			
2	設計の範囲、内容、工期	1) 設計の範囲は決定しているか 2) 設計の内容は決定しているか: 3) 設計の工期は決定しているか。	特記仕様書			
3	路線選定、工事名、設計区 間、工事(発注)時期	1) 路線は決定しているか。 2) 工事名は決定しているか。 3) 設計区間は決定しているか。 4) 工事(発注)時期は決定しているか。	特記仕様書			
4	現地調査(予備調査)	1) 地形状況を調査したか。 2) 沿道状況・交通状況を調査したか。 3) 河川状況を調査したか。 4) 環境状況(騒音・振動等への配慮面)を調査 したか。 5) 周辺構造物との関係を調査したか。 (近接構造物との関係、影響度等) 6) 他企業の地下埋設物(支障物件)等を調査し たか。 7) 試掘が必要な箇所があるか。 8) 当団既設管の状況を調査したか。 9) 公私有地の確認をしたか。 10) 埋蔵文化財の有無を調査したか。	調査資料 マイクロフィルム			

発注前確認項目一覧表

No.	項 目	主 な 内 容	確認資料	該当対象	確 認	備 考
5	関係機関との協議	1) 道路管理者との協議は進んでいるか。 2) 河川管理者との協議は進んでいるか。 3) 鉄道との協議は進んでいるか。 4) 警察との協議は進んでいるか。 5) 消防との協議は進んでいるか。 6) 地元及び他権者との協議は進んでいるか。 7) バス路線との協議は進んでいるか。 8) 関連企業者(電気・電話・ガス・下水道等)との協議は進んでいるか。 9) その他の関係機関との協議は進んでいるか。	関係機関との協議書			
6	設計基本条件 (1) 管径、管種、管継手の選定	1) 管径の決定 a 計画口径と整合しているか。 b 「水道施設設計指針・解説」に示す事項に留意して検討したか。 2) 管種の選定 「水道施設設計指針・解説」に示す事項に留意して検討したか。 3) 管継手の選定 「水道施設設計指針・解説」に示す事項に留意して検討したか。	事業計画書			

発注前確認項目一覧表

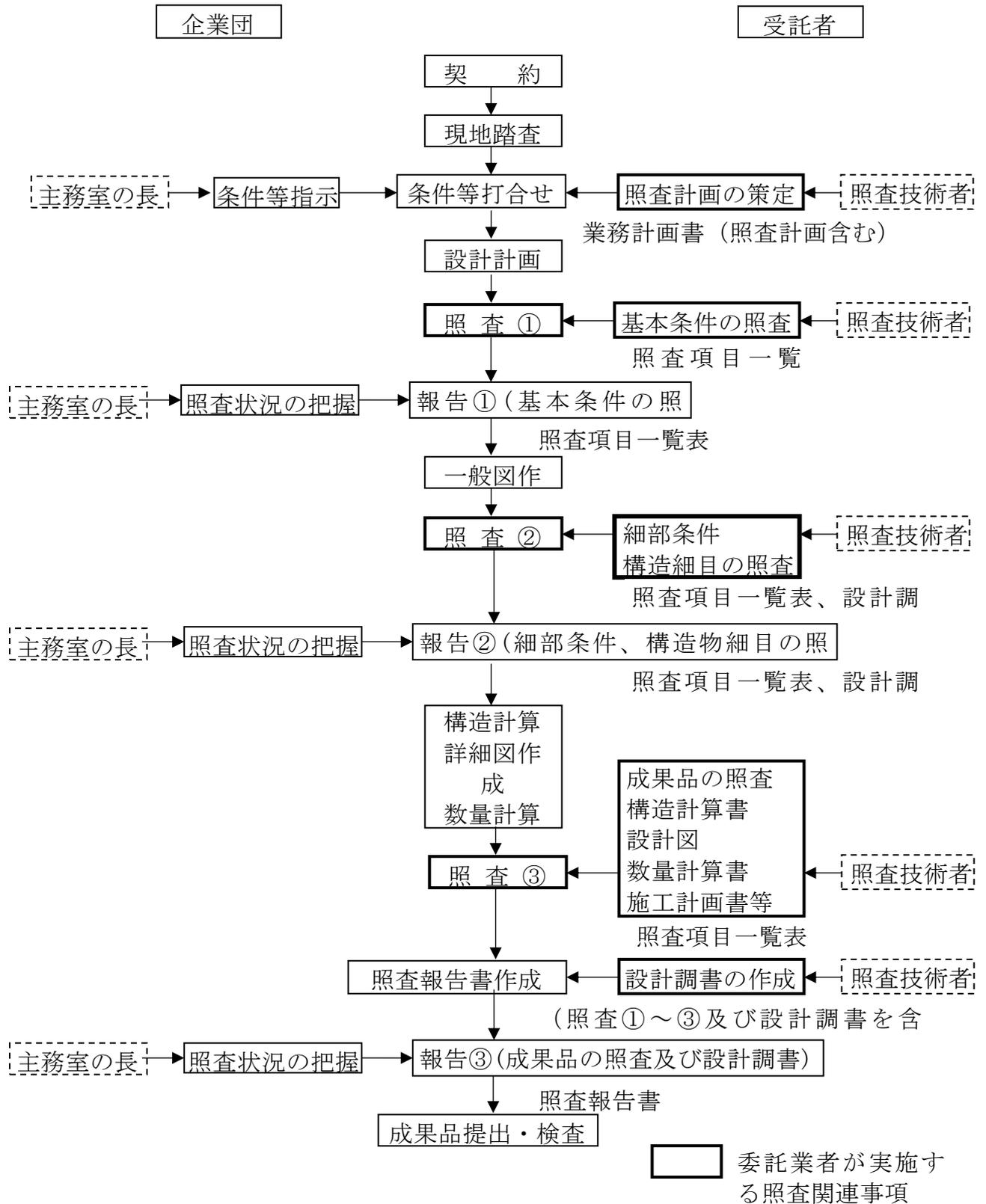
No.	項 目	主 な 内 容	確認資料	該当対象	確 認	備 考
	(4) 管布設替工事の検討	<p>6) サージタンクの設置 「水道施設設計指針・解説」に示す事項に留意して検討したか。</p> <p>1) 連絡管工事 a 断水連絡工法の採用 「水道施設設計指針・解説」に示す事項に留意して検討したか。 b 不断水連絡工法の採用 「水道施設設計指針・解説」に示す事項に留意して検討したか。</p> <p>2) 仮配管、切回し工事 「水道施設設計指針・解説」に示す事項に留意して検討したか。</p> <p>3) 給水管切替工事 「水道施設設計指針・解説」に示す事項に留意して検討したか。</p>				
7	施工上の基本条件	<p>1) 工事時期と全体工程が明確になっているか。</p> <p>2) 工区割は決定しているか。</p> <p>3) 運搬路・迂回路・ヤード確保の見通しはあるか。</p> <p>4) 土捨場は確保されているか。</p> <p>5) 工事用電力は確保できるか。</p>	<p>事業計画書</p> <p>地形図</p>			

No.	項 目	主 な 内 容	確認資料	該当対象	確 認	備 考
8	景観検討の必要性	6) 工事用水は確保できるか。 7) 洗浄時の河川・用排水路等の流末状況及び排水基準が明確になっているか。	地形図			
9	イメージアップの必要性	1) 水管橋・添架管・サージタンク等で特別景観を配慮するものがあるか。 2) 方針・内容は決定しているか。 3) 検討に必要な資料は整理されているか。	特記仕様書			
10	貸与既往資料の確認	1) 仮設備、安全施設、営繕施設等でイメージアップを考慮したか。 1) 測量成果(平面・横断・縦断)は整理されているか。 2) 地質調査報告書は整理されているか。 追加ポーリングは必要ないか。 3) その他関連資料は整理されているか。	測量成果品 地質調査報告書			
11	成果品	1) 成果品の内容(部数・サイズ等) は決定しているか。	特記仕様書			

水道管布設工事（管路）

実施設計業務委託 照査項目一覧表

実施設計業務委託照査フローチャート



- 注記 1. 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。
 2. 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画提出時に打合せにより設定する。

照査項目一覧表の記載について

- (1) 照査項目一覧表の記載は、項目の順に行い該当対象項目に○印を記入する。
- (2) 各照査段階において、照査の済んだ項目に○印と日付を記入し、照査された項目と照査されない項目が分別できるようにする。
- (3) 照査項目は、業務内容、規模、重要度に応じて追加又は削除することが出来る。
なお、追加する場合は別紙に新たな照査項目を明記する。
- (4) 照査項目一覧表のみでは、照査した内容を説明しにくい場合は、提示資料欄に必要となる検討書、図面等の資料項目を明示し、一覧表に添付して提出する。
- (5) 各段階の照査が完了したときは、照査技術者及び業務主任技術者の確認済みのものを提出する。
照査技術者及び業務主任技術者は各段階の照査完了時に、確認欄に「済」を記入する。

基本条件の照査項目一覧表

(照 査 ①)

業 務 名 :

発注者名 : 北千葉広域水道企業団

受託者名 :

照査の日付 : 令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

基本条件の照査項目一覧表(様式一1)

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
1	設計の目的、趣旨、範囲、内容	1) 設計の目的・趣旨・範囲・内容を理解したか。	業務計画書 設計計画書			
2	仕様書	1) 特記仕様書の内容を理解したか。 2) 建設工事共通仕様書の内容を確認したか。				
3	貸与資料の確認	1) 貸与資料の不足点、追加事項があるか。	貸与希望資料			
4	現地調査結果	1) 地形状況を把握したか。 2) 沿道状況、交通状況を把握したか。 3) 河川状況を把握したか。 4) 環境状況(騒音・振動等への配慮面)を把握したか。 5) 周辺構造物との関係を把握したか。 (近接構造物との関係・影響度等) 6) 他企業の地下埋設物(残置矢板等支障物件)を把握したか。 7) 試堀が必要な箇所があるか把握したか。 8) 企業団既設管との状況を把握したか。 9) 公私有地の区別を把握したか。 10) 埋蔵文化財の有無を把握したか。	現地調査調書 現地写真集			
5	関係機関との協議	1) 関係機関及びその協議内容を把握したか。				

基本条件の照査項目一覧表(様式一1)

No.	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当対照	照査	
6	設計基本条件 (1) 管の埋設位置、土被り (2) 管径 (3) 管種 (4) 管継手 (5) 伸縮継手 (6) 管路の付属設備 (7) 特殊配管	1) 管の埋設位置・土被りは適正か。 1) 管径は把握したか。又、選定は適正か。 1) 管種の選定は適正か。 (耐震検討を含む) 1) 管継手の選定は適正か。 (耐震検討を含む) 1) 伸縮継手の選定は適正か。 (耐震検討を含む) 1) バルブの設置は適正か。 2) バルブ室の設置は適正か。 3) 空気弁、消火栓の設置は適正か。 4) 排水(ドレーン)設備の設置は適正か。 1) 河底横断の選定は適正か。 2) 軌道(道路)横断の選定は適正か。 3) 水管橋・橋梁添架管の選定は適正か。 4) 推進工法の選定は適正か。 5) シールド工法の選定は適正か。 6) サージタンクの設置は適正か。	設計計画書 基本条件検討書			

基本条件の照査項目一覧表(様式一1)

No.	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当対象	照査	
7	(8) 管布設替工事 地盤条件	1) 連絡管工事 a 断水連絡工法の採用は適正か。 b 不断水連絡工法の採用は適正か。 2) 仮配管、切回し工事の方法は適正か。 3) 給水管切替工事は適正か。 1) 土質定数の設定は適正か。 2) 支持力・地盤バネ値の設定は適正か。 3) 地下水位・地下水の評価は適正か。 4) 構造物と柱状図との位置関係は適正か。 5) 液状化の判定は適正か。	地質調査成果品 及び検討書			
8	耐震検討	1) 耐震検討は適正か。(地盤種別、固有周期、水平深度等) 2) 地震応答解析の必要性を確認したか。	耐震検討書			
9	使用材料	1) 使用材料と規格・許容応力度は妥当か。 2) 特殊材料の供給条件を確認したか。				
10	施工条件	1) 工事時期と全体工程を把握したか。 2) 工区割を把握したか。 3) 運搬路・迂回路・ヤード確保の状況を把握したか。 4) 土捨場の確保の状況を把握したか。	施工条件検討書			

基本条件の照査項目一覧表(様式一1)

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
11	景観検討	5) 工事用電力の確保を把握したか。 6) 工事用水の確保を把握したか。 7) 工事用排水・管洗浄排水時の河川用排水 路の 流末状況及び排水基準を把握したか。	検討書			
12	イメージアップの検討	1) 特別に景観を配慮する必要があるか確認したか。 2) 方針・内容を把握したか。 3) 検討に必要な資料は整理されているか。 1) 仮設備、安全施設、営繕施設等でイメージアップを検討したか。	検討書			

細部条件の照査項目一覧表

(照 査 ②)

業 務 名 :

発注者名: 北千葉広域水道企業団

受託者名 :

照査の日付: 令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
1	設計図	1) 平面図・縦断図・横断図・構造図・配管詳細図等の作成は適正か。 2) 様式-1 設計基本条件との整合はとれているか。 3) 構造計算書の結果が正しく図面に反映されているか。	設計図			
2	管路の各種計算	1) 管厚計算は適正か。 2) 異型管防護計算は適正か。 3) 管路ひねり計算は適正か。	計算書			
3	管路の付属設備 (1) バルブの設置	1) 取水管・導水管 a 計画的に設置したか。 b 弁口径 500mm 以上は、バイパス弁を設置したか。 又、バルブ室内に設置(原則) 2) 送水管 a 本管からの分岐管にバルブを設置したか。 又、本管の分岐点下流にもバルブを設置 b 弁口径 500mm 以上は、バイパス弁を設置したか。 又、水圧 4.0kgf / の場所では口径 400mm のバルブにもバイパス弁設置 c 弁口径 500mm 以上は、バルブ室内に設置(原則)したか。 d 割丁字管による不断水分岐の場合、分岐管にバルブを設置(原則)したか。	細部条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
	(2) バルブ室の設計	1) バルブ室内の配管は、継輪・フランジアダプターを用いたか。又、バルブ全閉時の片水圧によるバルブ移動がないように配管したか。 2) バルブ室底部に排水ピットを設けたか。 3) 開度指示計と頂下面との間隔は、30cm 以上を確保したか。 4) 電気・計装機器を設置した場合は換気等の防湿対策を講じたか。				
	(3) 空気弁の設置	1) 急速空気弁又は、双口空気弁を設置したか。(管径 400mm 以上) 2) 概ね 500m 程度の間隔をもって要所に設置したか。 3) 水管橋・橋梁添架管等の露出する空気弁には、防凍処理を講じたか。				
	(4) 消火栓の設置	1) 設置にあたり、位置を検討したか。 2) 補修弁を設けたか。				
	(5) 排水(ドレーン)設備	1) 管径決定にあたり、本管流速を 1.0m / s 以上(原則)として検討したか。 2) 導水管及び送水管の排水管に取り付けるバルブは2個を直接に設置(原則)したか。				

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項目	主な内容	是—小資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
4	特殊配管 (1) 河底横断 (2) 軌道(道路)横断	1) 工法決定にあたり、河川状況・堤体部構造・地質状況等を十分把握して検討をしたか。 2) 河川管理者と十分協議して施工方法・位置・構造等を決定したか。 3) 埋設深さは、河床の表面から2 m以上(原則)としたか。 4) 横断箇所両端に埋設位置を示す標識を設置したか。 1) 工法・埋設位置・構造等決定にあたり、十分な検討及び施設管理者と協議をしたか。 2) 鋼管で軌道を横断する場合は、測定用ターミナルの設置又は電食防止の措置を講じ 3) 横断箇所両端に埋設位置を示す標識を設置したか。	細部条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(3) 水管橋、橋梁添架管	1) 形式・構造・施工方法の決定にあたり、河川・橋梁等の状況、経済性、周囲環境、地質条件、荷重、耐震性、将来計画等を十分調査検討し、又施設管理者と協議し、最適な構造形式を決定したか。 2) 最高位置に空気弁を設置し、空気弁には防寒箱を取り付けたか。 3) 支持構造は十分検討したか。 4) 橋台部と埋設管との間に伸縮継手を設置 5) 水管橋には管理用歩廊を設置(原則)し 6) 適切な防食措置を講じたか。 7) 落橋防止等の耐震措置を講じたか。				
	(4) 推進工法	1) 推進方式の決定にあたり、地質・障害物・周辺環境等を十分把握し関係機関とも十分協議し、安全かつ経済的で適切な工法を決定したか。(工法比較検討の実施) 2) 補助工法の選択は十分検討したか。 3) 推進管の管種は強度・耐久性・施工性を考慮し、管径・延長・深さ及び工法に最適なものを選択したか。				

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(5) シールド工法	1) シールド形式の決定にあたり、地質・掘進距離・地表地下構造物状況・地下水位・地下埋設物・工期等を十分検討し、関係機関とも十分協議して安全かつ経済的な形式を決定したか。(比較検討の実施) 2) シールド断面は、水道管口径・施工性・安全性を検討して決定したか。 3) セグメント内に引き込む水道管の管種は、現場の施工条件・経済性・安全等を検討して決定したか。 4) セグメントの選定は、安全性・施工性・経済性を考慮して選定したか。 5) 坑内換気装置は、十分検討したか。 6) 立坑内の配管については、十分検討したか。				
	(6) サージタンク	1) サージタンクの形式・設置位置・構造・水位・容量・水面積等の決定にあたり、経済性・施工性・維持管理の難易等を十分検討して決定したか。				

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
5	管布設替工事 (1) 断水連絡工法 (2) 不断水連絡工法 (3) 仮配管、切回し 工事 (4) 不要管撤去、給水 管切替工事	1) 断水連絡工法採用にあたり、下記の項目を検討したか。 a 断水区域 b 断水時期 c 地下埋設物 d 使用機材 e 確実な異形管防護 1) 不断水連絡工法採用にあたり、下記の項目を検討したか。 a 割丁字管の取付位置 b 不断水連絡箇所の防護工 c 同口径割丁字管の採用 1) 仮配管・切回し工事にあたり、下記の項目を検討したか。 a 他工事・一般通行に支障のない場所に管を移設したか。 b 仮配管工事による断水回数を極力減少するよう考慮したか。 1) 不要管は撤去(原則)したか。 2) 給水管切替は、給水工事施工基準に基づいたか。	細部条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
6	防食 (1) 水道用鋼管、鋼管杭等の電食防止措置	<p>1)電食防止措置にあたり、下記項目(原則)を検討したか。</p> <p>a 埋設管路には、測定用にターミナルⅢ型を200mごとに設置したか。</p> <p>b コンクリート構造物と貫通して配管されている埋設鋼管には、コンクリート壁から10m以内にターミナルを設置したか。</p> <p>c 鋼管とダクタイル鋳鉄管等の接合箇所には、鋼管側及び鋳鉄管側にターミナルを設置したか。</p> <p>d 電気鉄道の軌道下横断箇所及び変電所付近に布設する管路にはターミナルを設置したか。</p> <p>e 鋼管杭等には、ポンドを施しターミナルを設置したか。</p> <p>f 他管路(ガス管・通信ケーブル・水道用鋼管)との交差箇所にはターミナルを設置したか。</p> <p>g 接続ボックスの設置箇所は、道路管理者の指示がない限り、歩道上又は道路端としたか。</p> <p>h 電食防止を必要とする鋳鉄管路及び鋼管管路中に、電氣的に絶縁となる継手・バルブ等がある場合にはケーブルによって接続したか。 (接続ケーブルは、単芯 CV600・14以上を使用)</p>	細部条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
7	(2) 腐食防止措置 土工 (1) 掘削工	1) 腐食土中に管等を埋設する場合、下記項目を検討したか。 a 腐食上適切な措置を講じる基準として、アメリカ国家規格 ANSI を基準としたか。 b 「腐食性土壌分布図」により、腐食上適切な措置を講じたか。 1) 管路の掘削あたり、下記項目を検討したか。 a 公道の開削工事は、施工性、経済性を十分検討し、必要最小限度の工事期間としたか。 b 原則として、掘削面積は当日中に復旧可能な面積（舗装道は復旧完了まで）としたか。 c 車道部分の掘削幅は、必要最小限度としたか。 d 宅地造成地、新設道路築造現場等で勾配をつけて掘削を行う場合は法面勾配に関する規定を参考に検討したか。 e 地下水位の高い場所、干満の影響がある地域では、水替えを検討したか。 f 市街地では、特に地域住民の生活環境等に配慮するため、基本事項として、低騒音・低振動・低騒音型建設機械の選択、作業時間帯・作業工程の設定、建設機械の配置、遮音施設の設置等について検討したか。	細部条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(2) 埋戻し、締固め工	<p>2) 建設工事公衆災害防止対策要綱に整合しているか。</p> <p>1) 管路の埋戻し・締固めにあたり下記項目を検討したか。</p> <p>a 埋戻し材は、所要の性状を有したものであるか。</p> <p>b 埋戻し材が、所定の締固め度を得られる施工方法を採用したか。</p> <p>c 大口径鋼管、ダクタイル鋳鉄管の管厚計算にあたり、大きな地盤支持角を必要とする場合は、管天端まで良質な砂質土によって埋戻しを行い、十分締固めを行えるようにしたか。</p>				
	(3) 残土処理工	<p>1) 残土処理にあたり、下記の項目を検討したか。</p> <p>a 運搬車の選定にあたり、運搬土砂量・運搬期間・運搬経路・走行頻度等について十分な検討をしたか。</p> <p>b 建設副産物で再生利用可能な物は、出来る限り再生利用としたか。</p>				

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
8	仮設工 (1) 土留工の選定 (2) 土留工の設計	<p>1) 土留工法の選定にあたり、工事の重要度・安全性・経済性等を十分検討し、周辺地域の環境に与える影響を極力抑えた工法を選択したか。</p> <p>1) 土留工の設計にあたり、下記項目を検討したか。</p> <p>a 矢板の根入れ長算定にあたり、主働土圧・受働土圧は、ランキン・レザールの土圧式によったか。</p> <p>b 鋼矢板断面、切梁・腹起し用H形鋼の断面算定をする場合の主働土圧は、テルツアギーベック及びチェボタリオフの土圧の土圧分布によったか。</p> <p>c 切梁・腹起し・土留壁は、施工性・安全性を考慮して、位置・断面等を決定したか。</p> <p>d 鋼材の許容応力度及び断面性能の取り方を検討したか。</p> <p>2) 矢板の根入れ長算定にあたり、下記項目による必要長を検討し、その最大値を採用したか。</p> <p>a 掘削よって生ずる矢板の土圧に対する安定</p> <p>b ヒービングに対する安定</p> <p>c ボイリングに対する安定</p> <p>3) 建設工事公衆災害防止対策要綱に整合しているか。</p>	細部条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
	(3) 水替工の選定	1) 水替工の選定にあたり、下記のとおりとしたか。 a 地下水位面より浅い範囲での掘削工においては、雨天水替工(釜場排水工)とする。 b 地下水位面より深い範囲での掘削工において湧水がある場合は、湧水水替工(釜場排水工)とする。 c 釜場排水が不適當な場合に地下水位低下工法を採用(原則)する。				
	(4) 地下水位低下工法の選定	1) ウエルポイント工法の採用は、下記の場合を基本として検討したか。 a ドライワークでなければ施工できない場合。 b 細砂層の掘削におけるボーリングの防止が必要な場合で、矢板等の建て込み及び根入れ長の確保が困難な場合。 c 透水係数が $1 \times 10^{-3} \sim 10^{-5} \text{cm/秒}$ 程度のシルト質砂層や砂質シルト層の場合。 d 地下水が極めて多く、他の工法では到底水替が出来ない場合。				

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(5) 水替工の設計	<p>2) デープウエル工法の採用は、下記の場合を基本として検討したか。</p> <p>a 広範囲に渡って大きい地下水位低下を必要とする場合。</p> <p>b 透水性の大きい地盤で、揚水量が非常に大きくなる場合。</p> <p>c ポイリング等の防止のため、深層地下水帯の減圧を図る必要のある場合。</p> <p>d 排水を必要とする地域の状態、或いは工事の性格によって対象地に余り近づけないため、ウエルポイント工法が採用出来ない場合。</p> <p>1) 水替工の設計にあたり、下記項目を検討したか。</p> <p>a 計算によって求められた湧水量等の水替水量には、適切な安全率を見込んで用いたか。</p> <p>b 水位低下工法の採用については、地質調査等を必ず施工場所で行い、問題点をよく認識して慎重に検討したか。</p> <p>c ポイリング等に対する安全性をチェックしたか。</p>				

細部条件の照査項目一覧表(様式-2)

No.	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
9	路面復旧工	1) 路面復旧工の設計にあたり、下記項目により実施したか。 a 舗装断面構成は、道路管理者と協議したか。 b 舗装影響範囲は、現地を十分調査した上で決定したか。 c 舗装用材料として、再生骨材及び再生加熱アスファルト混合物の利用をしたか。 d 路面表示の復旧は、原型復旧(原則)をしたか。	細部条件検討書			
10	管路基礎	1) 管路の安全性が保てない軟弱地盤等を施工する場合、適正な管路基礎を選定したか。	細部条件検討書			
11	地盤改良	1) 下記条件の場合、地盤改良を検討したか。 a 軟弱地盤により生じる沈下が、管路の安全性に支障となる場合。 b 軟弱地盤や地下水の影響で、安全な掘削が困難である場合。 c 構築物に近接して管の埋設を行う時、出来る限り掘削の影響を少なくする場合。 2) 地盤改良工法の選定にあたり、十分に事前調査を行い、最適な工法を選定したか。	細部条件検討書			

成果品の照査項目一覧表

(照 査 ③)

業 務 名 :

発注者名: 北千葉広域水道企業団

受託者名 :

照査の日付: 令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

成果品の照査項目一覧表(様式-3)

No.	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				該当対象	照査	
1	構造計算書	1) 打合わせ事項は反映されているか。 2) 管厚計算・異型管防護計算・管路ひねり計算は適正にされているか。 3) 安定計算結果は許容値を満たすか。 (タワミ量・変位量・安全度等) 4) 許容応力度の取り方は適正か。 5) 作用応力度は許容値を満たすか。 6) 荷重の組合せと割増し係数は適正か。 7) 座屈の照査はしてあるか。 8) 施工を配慮した計算となっているか。 9) 杭径、杭配置は適正か。 10) 杭頭処理、杭の継手位置は適正か。	構造計算書			
2	設計図	1) 打合わせ事項は反映されているか。 (地下埋設物の図示等) 2) 縮尺、用紙サイズ等は特記仕様書、建設工事共通仕様書と整合しているか。 3) 図面は明瞭に描かれているか。 4) 必要寸法・部材形状及び寸法等にもれはないか。 5) 各設計図がお互いに整合がとれているか。 a 一般平面図と縦・横断面図 b 構造図と配筋図、仮設図 6) 図面には必要な項目が記載されているか。(設計条件・地質条件等)	設計図			

成果品の照査項目一覧表(様式-3)

No.	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				該当対象	照査	
3	数量計算書	<p>7) 構造計算書の結果が正しく図面に反映されているか。(特に応力計算・安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合されているか。)</p> <p>a 壁厚</p> <p>b 鉄筋(径・ピッチ・使用材料・ラップ位置)</p> <p>c 鋼材形状、寸法</p> <p>d 使用材料</p> <p>e その他</p> <p>8) 付属金属は適正に配置されているか。 足りないのではないか。又、余分なものはないか。</p> <p>9) 解り易い注記が付いているか。</p> <p>1) 数量計算は適用基準及び打合わせ事項と整合しているか。(有効数字・位取り・単位・区分等)</p> <p>2) 数量計算に用いた寸法は図面と一致するか。</p> <p>3) 数量のとりまとめは種類、材料毎に打合わせ区分に合わせてまとめられているか。</p> <p>4) 転記ミスや集計ミスはないか。</p>	数量計算書			

成果品の照査項目一覧表(様式-3)

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査③		備 考
				該当対象	照 査	
4	施工計画	1) 施工法及び全体工程は妥当か。 2) 安全確保が十分配慮されているか。 3) 工事時の環境面が配慮されているか。 4) 施工時の迂回路等の計画は妥当か。 5) 工事用道路、運搬路計画は妥当か。 6) 施工ヤード、施工スペースは確保されるか。 7) サイクルタイム、工事工程は妥当か。 8) 工事用仮設備計画は妥当か。(工事中の換気・給気・排水・濁水処理・工事用電力等) 9) 洗時の河川、用排水路流末は大丈夫か。 10) 関係法令を遵守した計画になっているか。	施工計画書			
5	設計調書	1) 調書の記入は適正にされているか。 2) マクロ的に見て問題はないか。 (主要寸法、主要数量等)				
6	占用、使用、届出(工作物)等申請資料の作成	1) 必要書類を作成したか。	作成資料			
7	報告書	1) 報告書の構成は妥当か。 2) 対外機関との協議結果は、別途指示する様式により整理されているか。	報告書			

設計調書

(管路開削 1/2)

業務名：
 発注者名：
 受託者名：
 作成年月日：

	氏名
照査技術者	
業務主任技術者	

路線名												工区											
設計条件	口径	延長	管内水圧		土圧		管種	管厚	継手	伸縮継手	管防護	埋設位置	土被り										
地下埋設物件	有・無	種別			対策	有・無	近接施工	有・無	種別			対策	有・無										
		離隔							離隔														
		延長							延長														
付属施設	仕切弁	口径	型式	弁室	有・無	空気弁	口径	型式	消火栓	口径	型式	排水施設	口径	延長	管種	仕切弁	その他						
土工	掘削					埋戻し					残土処理												
	機械(型式名)		機械人力併用			人力		機械(型式名)		人力			自由処分		指定処分		有効利用						
仮設	建込み	型式	矢板長																				
	打込み	鋼矢板	型式	矢板長	根入長	断面寸法	応力度	最大変位															
		支保工	腹起し					切梁					火打ち										
間隔			断面寸法		応力度		間隔		断面寸法		応力度		断面寸法		応力度								

設計調書

(管路開削 2/2)

路線名							工区			
水替工	雨水水替工			湧水水替工			地下水位低下工法		その他	
	有		無	有		無	有		無	
連絡方法	断水連絡			不断水連絡			耐震検討			
	有		無	有		無				
	有		無	有		無				
路面復旧						管路基礎				
						地盤改良				
防食	電飾防止	被防食施設	防食施設(型式)	腐食防止			その他			
(標準断面図)						(横断面図)				

設計調書

(管路水管橋 1/4)

業務名
発注者名
受託者名
作成年月日

	氏名
照査技術者	
業務主任技術者	

路線名										工区									
設計条件諸元	基本条件	構造型式	橋長	支間長	支間割	管種	管厚	継手	口径	許容撓度	設計内圧	架設方法	設計震度	その他					
	付属施設	仕切弁	口径型式		弁室	有・無	空気弁	口径	型式	排水施設	口径	延長	管種	仕切弁	電食防止	落橋防止			
			斜角	支承													伸縮継手	歩廊	
その他	鋼重	総重量		材質															
主桁設計	支間中央		中間支点	側径間中央		主要材料	鋼重	総重量		材質									
	曲げモーメント(tf・m)						塗装	工場塗装	面積	仕様									
	剪断力(tf)							現場塗装	面積	仕様									
	応力度(Kgf/cm ²)							塩害対策											
交差物件	河川条件	河川名		級河川		川(川水系)		交差物件	種別	道路	鉄道	その他							
		河川管理者		河川改修計画		路線名等													
		河川幅				桁下余裕高													
		計画高水量				側方余裕高													
その他																			

設計調書

(管路水管橋 2/4)

路線名						
設計 条件	下部工 No.					
	下部工形式					
	横座幅	S (cm)				
		SE (cm)				
	支承形式 (Fix. Move)					
	地盤種別					
	設計水平震度					
	液化の判定					
	上部 反力	鉛直力	常時			
			地震時			
		地震時 水平長力	橋軸方向			
	直角方向					
	背面土 (橋台)	γ (tf/cm ³)				
		ϕ (°)				
K h						
保有水平 耐力 (pa/p)	橋軸方向					
	直角方向					
その他						

設計調書

(管路水管橋 3/4)

路線名						
安 定 計 算 材 料	下部工 No.					
	直 接 基 礎	常 時 地 震 時	決定ケース			
			支 持 力			
			転 倒			
			滑 動			
	基 礎	地 震 時	決定ケース			
			支 持 力			
			転 倒			
			滑 動			
	杭 基 礎	常 時	決定ケース			
			杭 反 力			
			杭 頭 変 位			
		地 震 時	決定ケース			
			杭 反 力			
			杭 頭 変 位			
			杭 頭 処 理			
鉄 筋 材 質						
コンクリート強度						
コンクリート体積						
鉄 筋 重 量						
杭 種						
杭径 × 杭長 × 本数						

設計調書

(管路水管橋 4/4)

(平面図)

(縦断面図)

(横断面図)

設計調書

(管路推進)

直進 1/3

業務名

発注者名

受託者名

作成年月日

	氏名
照査技術者	
業務主任技術者	

路線名										工区						
基本 条件	口径	延長	工法	管種	管厚	継手	地質	地下埋設物件		立杭 配管	管種	管厚	継手	伸縮継手	防護	
交差 物件 条件	河川名	級河川					川(川水系)		交差 条件	種別	鉄道	道路	その他	
	河川管理者						河川改修計画					路線名等				
	河川幅											土被り				
	河底からの被り											その他				
坑内 設備								坑外 設備								
発進 立坑	仮設	掘削深	補助工法	地下埋設物件		水替		到達 立坑	仮設	掘削深	補助工法	地下埋設物件	水替			
付属 施設	仕切 弁	口径	型式	弁 室	有 無	排水 施設	口径	延長	管種	仕切弁	その他	電食 防止	被防食施設		防食施設(形式)	
土工	掘削					埋民し					残土処理					
	機械(型式名)			機械人力併用		人力		機械(型式名)			人力		自由処分		指定処分	有効利用
路面 復旧																

設計調書

(管路推進)

さや管推進 1/3

業務名

発注者名

受託者名

作成年月日

	氏名
照査技術者	
業務主任技術者	

路線名										工区																	
基本 条件	外形	内径	材質・構造		延長	工法	地質	土被り	平面線形	縦断勾配	地下埋設物件	その他															
二次 覆工	口径	管種	管厚継手		充填材	立坑 配管	延長	管種	管厚	継手	伸縮継手	管防護	その他														
交差 条件	河川 条件	河川名		級河川			川(川水系)		交差 条件	種別		鉄道		道路		その他											
		河川管理者		河川改修計画						路線名等																	
		河川幅								土被り																	
		河底からの被り								その他																	
坑内 設備												坑外 設備															
発進 立坑	仮設	掘削深	補助工法		地下埋設物件	水替	到達 立坑	仮設	掘削深	補助工法	地下埋設物件	水替															
附属 施設	仕切 弁	口径	型式	弁 室	有 無	排水 施設	口径	延長	管種	仕切弁	その他	電食 防止	被防食施設		防食施設(形式)												
土工	掘削				埋民し				残土処理																		
	機械(型式名)		機械人力併用		人力		機械(型式名)		人力		自由処分		指定処分		有効利用												
路面復 旧																											

設計調書

(管路推進 2/3)

(平面図)

(縦断面図)

(横断面図)

(横断面図)

設計調書

(管路推進 3/3)

(立坑詳細図)

(立坑詳細図)

(各種構造図)

設計調書

(管路シールド)

1/4

業務名

発注者名

受託者名

作成年月日

	氏名
照査技術者	
業務主任技術者	

路線名											工区					
基本 条件	口径	延長	工法		地質	平面線形(最小R)			土被り	縦断勾配	地下埋設物件	近接構造物	その他			
一次 覆工	セグメント	外径	内径	材質・構造		裏込め材										
二次 覆工	管種	管厚	継手	充填材	立坑 配管	管種	管厚	継手	伸縮継手	管防護	砂室 配管	管種	管厚	継手		
坑内 設備								坑外 設備								
発進 立坑	仮設	掘削深	補助工法	地下埋設物件	水替	到達 立坑	仮設	掘削深	補助工法	地下埋設物件	水替					
土工	掘削				埋戻し			残土処理								
	機械(型式名)		機械人力併用		人人力		機械(型式名)		人カ		自由処分		指定処分		有効利用	
付属 施設	仕切弁	口径	型式	弁 室	有 無	排 水 設 施	口径	延長	管種	仕切弁	その他	電食 防止	被防食施設		防食施設(形式)	
路面 復旧																

設計調書

(管路シールド) 2/4

(平面図)

(縦断面図)

(土質柱状図)

(横断面図)

設計調書

(管路シールド) 3/4

(セグメント図)

(立坑詳細図)

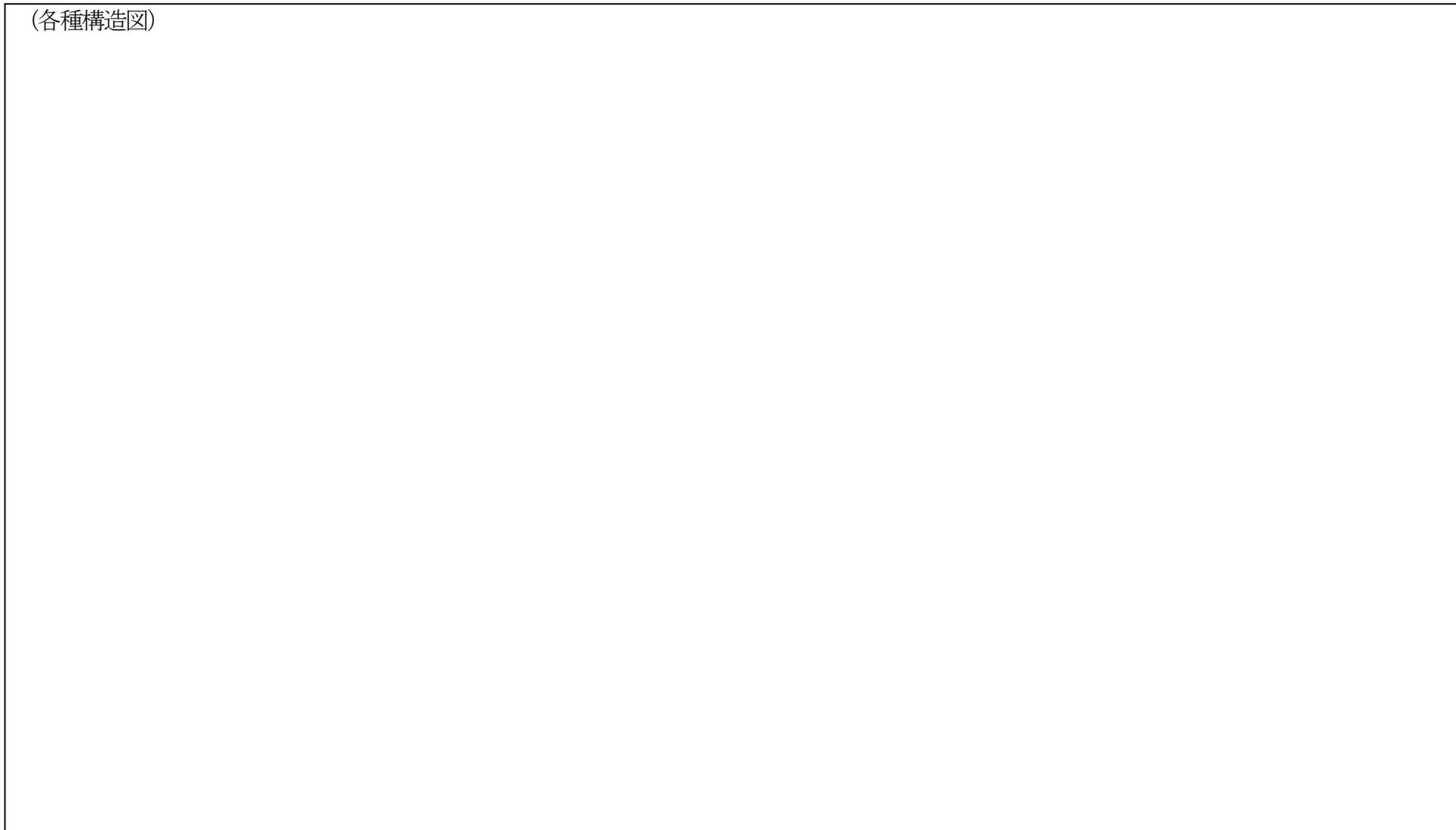
(立坑詳細図)

(立坑基地図)

設計調書

(管路シールド) 4/4

(各種構造図)



設計調書

(サージタンク) 2/2

(配置図)

(平面図)

(正面図)

仮設工(共通)

(平面図)

区分	層厚	N	γ	C	ϕ	種類
I						
II						
III						
IV						
V						

(注) 1. 土の種類

①砂質土

②粘性土 $N > 5$

③粘性土 $N \leq 5$

2. ポーリング図の出典
を記入する

3. 水位を明示する

(ポーリング図)

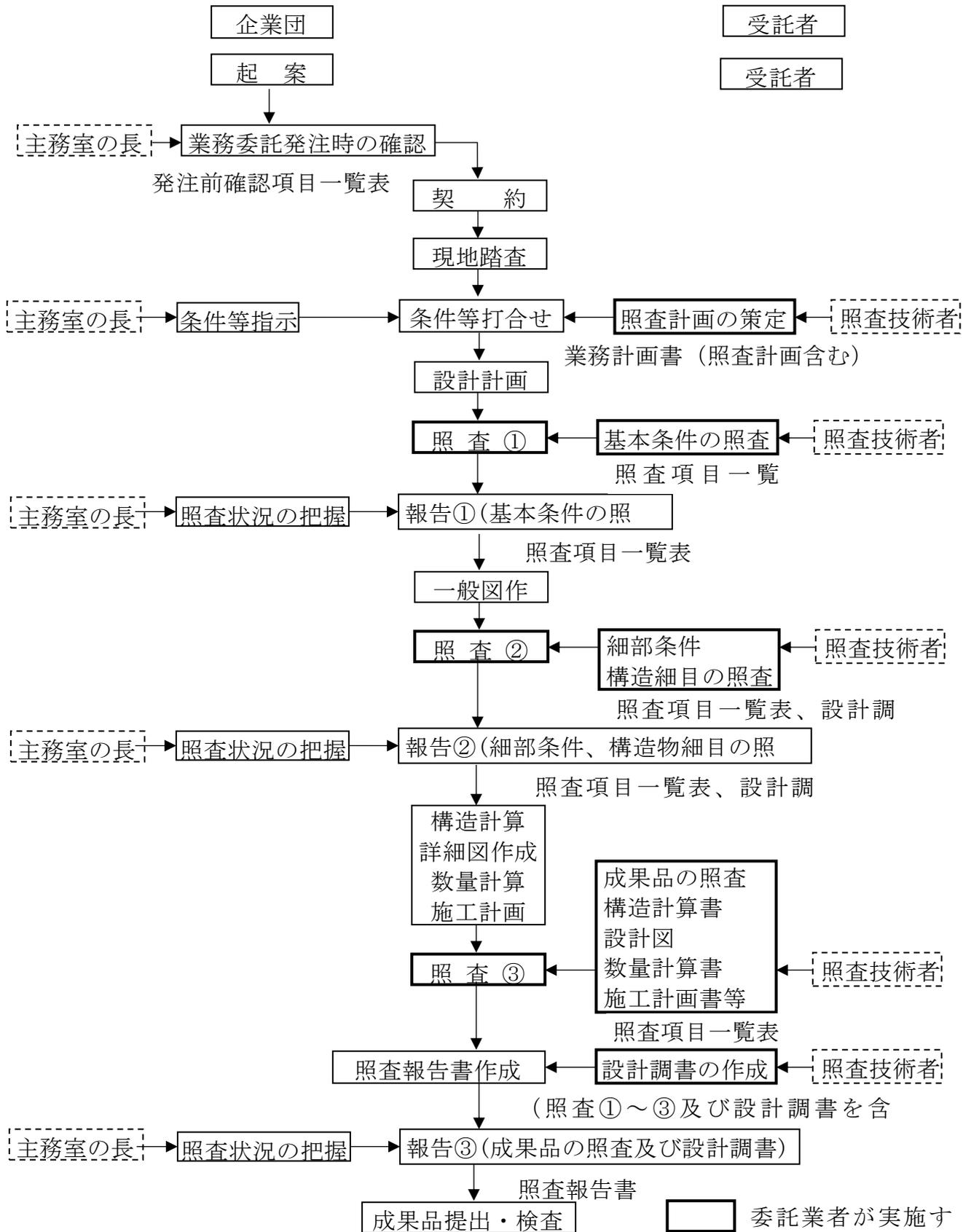
(断面図)

項 目			設計結果（計算値と使用値）	備 考	
土 留 工	親 杭 方 式	土 留 杭	根 入 長		<p>(注)</p> <p>※ 1 : 次の計算ケースにより決定されたものを選ぶ。</p> <p>① 掘削完了時</p> <p>② 最下段切梁設置直前</p> <p>③ 撤去時</p> <p>④ 盛替時</p> <p>※ 2 : 次の計算ケースにより決定されたものを選ぶ。</p> <p>① (つりあい深さ) x 1. 2 以上</p> <p>② ポイリングに対する必要長</p> <p>③ ヒーピングに対する必要長</p> <p>④ 30m以上</p> <p>※ 3 : 「建設工事公衆災害防止対策要綱」による。</p>
			断 面 寸 法		
			応 力 度		
			支 持 カ		
			最 大 変 位		
	鋼矢板方式 (連続地中壁)	土 留 板	断 面 寸 法		
			応 力 度		
			根 入 長		
			断 面 寸 法		
支 保 工	腹起し 段目	間 隔			
		断 面 寸 法			
		応力度及び安全度			
	切梁 段目	間 隔			
		断 面 寸 法			
		応力度及び安全度			
	火 打 ち	断 面 寸 法			
		応 力 度			
	中 間 杭	間 隔			
		断 面 寸 法			
支 持 カ					
補 助 工 法					

2. 構築物築造工事（取水場）

実施設計業務委託
照査項目一覧表

実施設計業務委託照査フローチャート



注記 1. 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。
 2. 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画提出時に打合せにより設定する。

基本項目一覧表（取水場）

No. 1

発注前確認	照 査 ①	照 査 ②	照 査 ③
<ol style="list-style-type: none"> 1. 設計の目的・主旨 2. 設計の範囲・内容・数量・工程 (工期) 3. 取水場名（施設名、施設・構造 物名、機場名） 設計区間（計画部分） 工事期間(工事時期、発注時期) 4. 設計条件 設計基本条件、 計画取水量 5. 使用材料 6. 施工上の基本条件(施工条件) 7. 維持管理条件(維持管理) 8. 関連機関との調整 9. 資料の確認 (既存資料・貸与資料) 10. 環境・景観検討の必要性 (環境保全) 11. イメージアップの必要性 12. 現地調査結果 13. 成果品 14. その他 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 設計の目的・設計範囲 2. 仕様書(特記仕様書) 3. 取水場名（施設名・設計区間・ 工事期間) 4. 設計基本条件 計画年次別取水量 5. 地盤条件・地質条件 6. 設計震度・耐震検討 7. 使用材料 8. 地形条件（敷地境界面積） 9. 施工条件 10. 関連機関との調整 11. 貸与資料の確認・問題点 12. 環境・景観検討 13. イメージアップの検討 14. 現地調査結果 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 取水塔 <ol style="list-style-type: none"> (1) 位置 (2) 形状 (3) 構造 (4) 設計図 (5) 水理計算(容量を含む) (6) 荷重条件 (7) 本體工 (8) 基礎工 (9) 取水口 (10) 上屋 (11) 管理橋 (12) 付帯設備 (13) 仮設工 (14) 施工計画 2. 取水門 <ol style="list-style-type: none"> (1) 位置 (2) 構造 (3) 設計図 (4) 水理計算(容量を含む) (5) 荷重条件 (6) 本體工 (7) 基礎工 (8) ゲート式水門 (9) 砂溜り (10) 護岸工 (11) 上屋 (12) 管理橋 (13) 付帯設備 (14) 設工 (15) 施工計画 3. 取水管渠 <ol style="list-style-type: none"> (1) 設計図 (2) 位置 (3) 取水口 (4) 管渠 (5) 本體工 (6) 基礎工 (7) ゲート (8) 砂溜り 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 設計報告書 2. 設計図 3. 数量計算書 4. 設計調書

基本項目一覧表（取水場）

No. 2

発注前確認	照 査 ①	照 査 ②	照 査 ③
		<p>(9) 護岸工 (10) 胸 壁 (11) 翼 壁 (12) 水叩き (13) 護床工 (14) 遮水工 (15) 付帯設備 (16) 仮設工 (17) 施工計画</p> <p>4. 接合井 (1) 位 置 (2) 容 量 (3) 構 造 (4) 設計図 (5) 本体工 (6) 基礎工 (7) 付帯設備 (8) 仮双工 (9) 施工計画</p> <p>5. 沈砂池 (1) 位 置 (2) 形 状 (3) 構 造 (4) 設計図 (5) 本体工 (6) 基礎工 (7) 付帯設備 (8) 仮設工 (9) 施工計画</p> <p>6. ポンプ井 (1) 位 置 (2) 形 状 (3) 構 造 (4) 容 量 (5) 設計図 (6) 本体工 (7) 基礎工 (8) 換気装置 (9) 付帯設備 (10) 仮設工 (11) 施工計画</p>	

基本項目一覧表（取水場）

発注前確認	照 査 ①	照 査 ②	照 査 ③
		<p>7. 場内連絡管</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 配置・構造 (2) 口径・流速 (3) 管種・配管 (4) 施工計画 <p>8. 場内整備</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 場内排水設備 (2) 管理用道路 (3) 外構施設 (4) 場内植栽 (5) その他の施設 (6) 施工計画 <p>9. 共同溝</p> <p>10. 仮設構造物</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 設計の目的・範囲 (2) 現地調査 (3) 設計基本条件 (4) 施工上の基本条件 (5) 関連機関との調整 (6) 貸与資料 (7) 仮設工法の選定 (8) 設計計算 	

発注前確認項目一覧表

業務名：

設計者所属・氏名：

発注前確認項目一覧表

No.	項 目	主 な 内 容	確認資料	該当対象	確 認	備 考
1	設計の目的・主旨	1) 設計の目的・主旨(基本計画・基本設計) は明確になっているか。	特記仕様書			
2	設計の範囲・内容・数量・工程(工期)	1) 設計の範囲、内容、数量、工程(工期) は決定しているか。	特記仕様書			
3	取水場名 (施設名、施設・構造物名) 設計区間 (計画部分) 工事期間 (工事時期、工事発注時期)	1) 取水場名は決定しているか。 2) 施設・構造物名は決定しているか。 3) 計画区間(部分)は決定しているか。 4) 工事の発注時期及び施工時期は決定しているか。	特記仕様書			
4	設計条件 設計基本条件計画 取水量	1) 基本フローは決定しているか。 2) 取水施設は選定されているか。 3) 構造・形式は決定しているか。 4) 位置及び高さ(高水位、低水位)は決定しているか。 5) 設計荷重及び外力は決定しているか。 6) 排水の処理方法及び排除方法・排出先の基本方針はあるか。 7) 計画取水量は決定されているか。	特記仕様書 設計指針			
5	使用材料	1) 使用する材料の規格・許容応力度は決定しているか。	設計指針			

発注前確認項目一覧表

No.	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
6	施工上の基本条件(施工条件)	1) 全体工程が明確になっているか。 2) ヤード確保・搬入路の見通しはあるか。				
7	維持管理条件(維持管理)	1) 維持管理の方法は決定しているか。				
8	関連機関との調整	1) 埋蔵文化財の調査が必要か。必要な場合協議を行っているか。 2) 河川(沼)管理者との協議は行ったか。 3) 土砂・資材の搬出入に伴う道路管理者等との協議をしているか。 4) 地元・地権者との調整は済んでいるか。 5) その他の関連機関との協議を行っている	関連機関との協議書等			
9	資料の確認 (既存資料・貸与資料)	1) 測量成果(平面・縦断・横断)があるか。 2) 地質調査報告書があるか。 追加ボーリングの必要はないか。 3) 用地境界が決定しているか。 4) 既設工作物を確認しているか。 5) 交通量に関する資料があるか。	測量成果品 地質調査報告書			
10	環境・景観検討の必要性 (環境保全)	1) 特別に景観を配慮する必要があるか。 2) 景観検討の方針・内容は決定しているか。 3) 検討に必要な資料は整理されているか。				

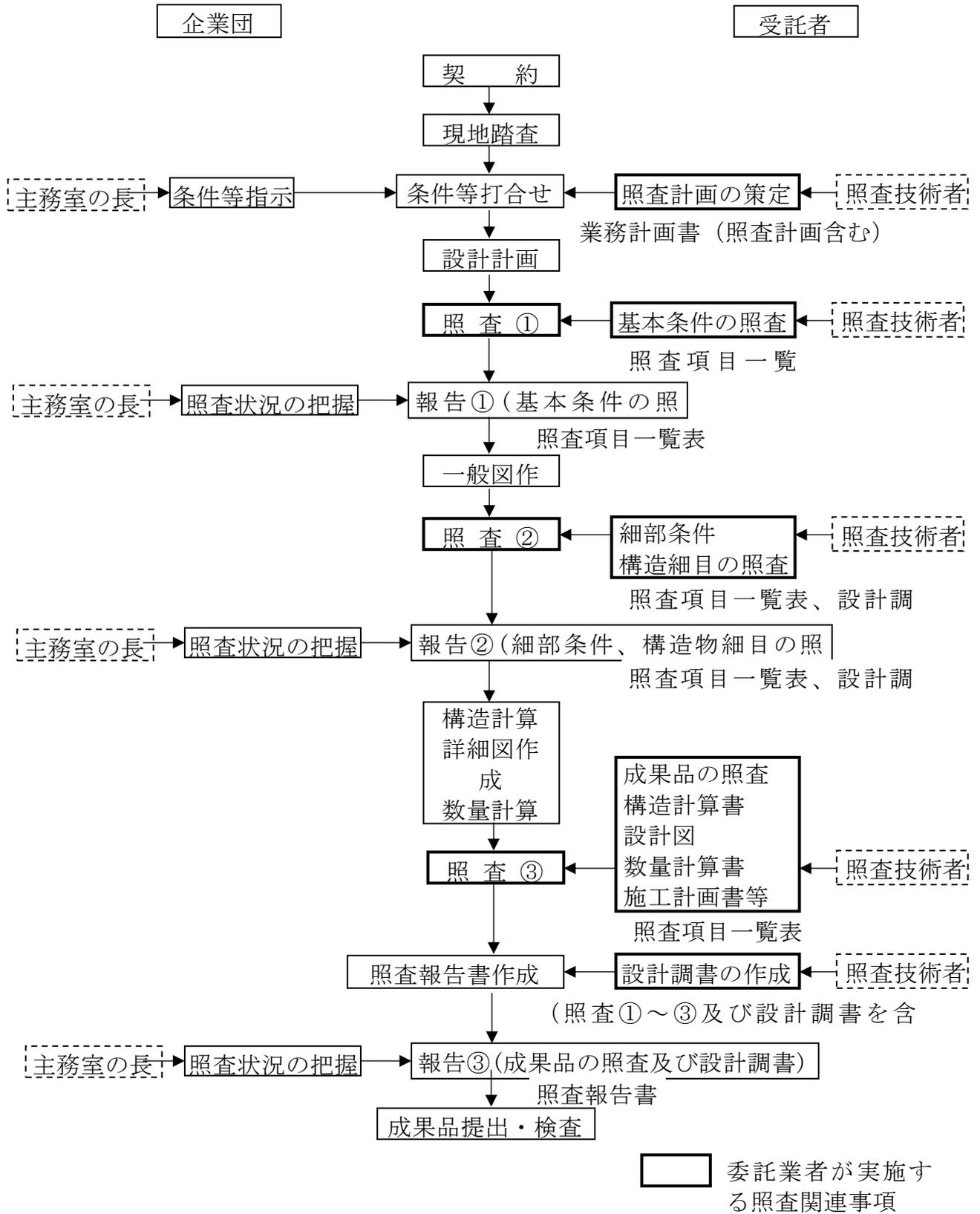
発注前確認項目一覧表

	項 目	主 な 内 容	確認資料	該当対象	確 認	備 考
11	イメージアップの必要性	1) 仮設備、安全施設、営繕施設等でイメージアップを考慮したか。	写 真			
12	現地調査結果	1) 支障物件はあるか。 2) 地下水利用状況を把握しているか。				
13	成果品	1) 成果品の内容(部数・サイズ等)は決定しているか。				
14	その他	1) 他事業との調整はなされているか。				

構造物築造工事（取水場）

実施設計業務委託
照査項目一覧表

実施設計業務委託照査フローチャート



注記 1. 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。
 2. 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務

照査項目一覧表の記載について

- (1) 照査項目一覧表の記載は、項目の順に行い該当対象項目に○印を記入する。
- (2) 各照査段階において、照査の済んだ項目に○印と日付を記入し、照査された項目と照査されない項目が分別できるようにする。
- (3) 照査項目は、業務内容、規模、重要度に応じて追加又は削除することが出来る。
なお、追加する場合は別紙に新たな照査項目を明記する。
- (4) 照査項目一覧表のみでは、照査した内容を説明しにくい場合は、提示資料欄に必要となる検討書、図面等の資料項目を明示し、一覧表に添付して提出する。
- (5) 各段階の照査が完了したときは、照査技術者及び業務主任技術者の確認済みのものを提出する。
照査技術者及び業務主任技術者は各段階の照査完了時に、確認欄に「済」を記入する。

基本条件の照査項目一覧表

(照 査 ①)

業務名：

発注者名：北千葉広域水道企業団

受託者名：

照査の日付：令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
1	設計の目的・設計範囲	1) 設計の目的・設計範囲を理解したか。	業務計画書			
2	仕様書(特記仕様書)	1) 仕様書(特記仕様書)の内容を理解したか。				
3	取水場名 (施設名・設計区間・工事時期)	1) 取水場名は確認したか。 2) 設計区間は確認したか。 3) 工事時期は確認したか。	業務計画書			
4	設計基本条件 計画年次別取水量	1) 基本フローを確認したか。 2) 取水施設の選定は妥当か。 (比較検討を行ったか。) 3) 構造形式は適正か。 4) 位置・高さ(高水位・低水位)は妥当か。 5) 使用する設計荷重及び外力は妥当か。 6) 構造計画に必要な事項を確認したか。 a. 建設位置の状況 b. 将来拡張計画 c. 構造計算ソフト 7) 基礎形式の基本方針は妥当か。 8) 排水の処理方法及び排除方法は適正か。 9) 計画年次別取水量を考慮したか。	設計条件整理 検 討 書			
5	地盤条件・地質条件	1) 地層構成の把握は妥当か。 2) 土質定数の設定は妥当か。 3) 支持力、地盤バネ値の設定は妥当か。	設計条件整理 検 討 書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
6	設計震度・耐震検討	4) 地下水位等の設定は妥当か。 5) 液状化の判定は妥当か。 6) 追加調査の必要性はないか。 1) 設計震度は妥当か。 2) 耐震検討は適正か。	設計条件整理 検 討 書			
7	使用材料	1) 使用材料の規格は妥当か。 a. 鋼材、鉄筋、コンクリート等 2) 使用材料の設計基準強度・許容応力度は妥当か。 3) 荷重の組合せと許容応力度の割増は妥当か。	許容応力度一覧			
8	地形条件(敷地境界面積)	1) 用地境界を確認したか。	地 形 図			
9	施工条件	1) 全体工程を理解したか。 2) 施工ヤード、スペースを確認したか。				
10	関連機関との調整	1) 埋蔵文イヒ財の必要な事項を調査したか。 2) 河川(沼)管理者との協議内容を理解したか。又、必要な事項を調査・確認したか。 3) 道路管理者との協議内容を理解したか又、必要な事項を調査・確認したか。 4) 上記以外関連機関との協議内容を理解したか。又、必要な事項を調査・確認したか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
11	貸与資料の確認・問題点	1) 貸与資料の不足はないか。 2) 貸与資料に追加事項があるか。				
12	環境・景観検討	1) 景観検討の必要性、方針、内容、範囲等が理解されたか。 2) 景観検討の具体的方法、作成すべき資料は明らかとなっているか。				
13	イメージアップの検討	1) 仮設備、安全施設、営繕施設等でイメージアップを検討したか。				
14	現地調査結果	1) 地形、地質、現地状況を把握したか。 2) 交通状況、進入道路等、周辺の道路状況を把握したか。 3) 環境状況(工事における振動、騒音・地下水等)を把握したか。 4) 支障物件の状況を把握したか。 5) 施工時に反映する事項を抽出したか。				

細部条件の照査項目一覧表

(照査②)

業務名：

発注者名：北千葉広域水道企業団

受託者名：

照査の日付：令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
1	取水塔 (1) 位 置	1) 年間を通じて最小水深が2m以上確保できるか。 2) 河川の場合、川底や水深の変動が小さいか。 3) 他の構造物が近くにないか。 4) 河川管理者との協議が合致しているか。	全体平面図			
	(2) 形 状	1) 塔体の横断面は環状で、円形または楕円形か。 2) 楕円形の場合、長軸方向と流向が一致しているか。 3) 環境を考慮したか。	設計図			
	(3) 構 造	1) 塔の内径は、所要の取水口を適切に配置できるか。 2) 拡張水量を考慮したか。 3) 塔体の天端は、計画最高水位よりさらに0.6～2m 高くしたか。 4) 塔上での作業スペースを確保したか。	設計図			
	(4) 設計図	1) 平面図、断面図、構造図、詳細図は妥当か。 (様式－1 設計基本条件との整合性が図られているか) 2) 構造計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 3) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。	設計図			
	(5) 水理計算 (容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L., L. W. L.)	検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(6) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。				
	(7) 本体工	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設定モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を考慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。	設計図、検討書			
	(8) 基礎工	1) 基礎形状は妥当か。(直接基礎、杭、地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等)	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(9) 取水口	<p>4) 井筒沈下工法による場合、その下端に鋼板製のカーブシューが付いているか。また鉄筋コンクリート壁厚を厚くし、配筋鉄筋を十分に挿入したか。</p> <p>5) 支持層への根入れは妥当か。</p> <p>6) 液状化は問題ないか。</p> <p>7) 適用基準は正しいか。</p> <p>8) 設計理論と解析手法は妥当か。</p> <p>9) 施工法は配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等)</p> <p>10) 材料使用区分は妥当か。</p> <p>11) 構造細目(杭頭処理、継手等)は妥当か。</p> <p>12) 埋設物との取合いは問題ないか。</p> <p>13) 地盤改良の必要性を確認したか。</p> <p>1) 計画最低水位でも計画取水量を確保したか。</p> <p>2) 多段式取水を考慮したか。</p> <p>3) 流入速度は、河川の場合 15～30cm/ s、湖沼の場合 1～2 m / s を標準としたか。</p> <p>4) 形状は、制水扉または仕切弁等の形状に合致しているか。</p> <p>5) 制水扉または仕切弁等は河川の場合内側設置、湖沼の場合外側設置にしているか。</p> <p>6) 前面にスクリーンを設けたか。</p> <p>7) スクリーンは 3 ～ 5 cm/ s の格子状にしたか。</p>	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(10) 上 屋	1) 維持管理面を考慮したか。 2) 耐候性を考慮したか。 3) 設備の搬入口を確保したか。	設計図			
	(11) 管理橋	1) 管理橋の下端は、計画最高水位よりさらに0.6～2m高くしたか。 2) 維持管理面を考慮したか。 3) 耐候性を考慮したか。 4) 安全対策を考慮したか。 5) 侵入者の防止対策を考慮したか。 6) 幅員を1m以上確保したか。 7) 河川管理者との協議に合致しているか。	設計図、検討書			
	(12) 付帯設備	1) 照明設備や電気設備を考慮したか。 2) 避雷針設備を考慮したか。 3) 油汚染防止フェンスを考慮したか。 4) 防塵設備を考慮したか。 5) 保安柵を考慮したか。 6) 鉄梯子を考慮したか。 7) タラップを考慮したか。 8) 歩廊を考慮したか。 9) 手摺を考慮したか。 10) 水質監視装置を考慮したか。 11) 水位計を考慮したか。	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
2	(13) 仮設工	1) 仮締切の構造、高さは妥当か。 2) 仮締切設置後の本川に流下能力は考慮されているか。 3) 水の流れに対しての安全性は妥当か。 4) 工事用道路の構造、幅、高さは妥当か。 5) 河川管理者との協議に合致しているか。	設計図、検討書			
	(14) 施工計画	1) 施工手順は妥当か。 2) 作業ヤードは確保されているか。 3) 工事用道路の経路は妥当か。 4) 発生土の処分は妥当か。 5) 安全対策は妥当か。 6) 地元対策を考慮したか。	施工計画書			
	取水門 (1) 位 置	1) 河川管理者との協議に合致しているか。 2) 良質堅固な地盤に設けているか。	全体平面図			
	(2) 構 造	1) ゲート式水門形式にしたか。 2) 流入速度を 1 m / s 以下にしたか。 3) 門柱とゲートまたは角落としとの接触部（戸当たり溝）は、円滑な作動と水密性が保持されているか。 4) スクリーンを設けたか。 5) 油汚染、塵芥対策を考慮したか。	設計図			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(3) 設計図	1) 平面図、断面図、構造図、詳細図等は妥当か。 (様式－1 設計基本条件との整合性が図られているか) 2) 構造計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 3) 場内一般平面図で位置（座標）を確認できるか。	設計図			
	(4) 水理計算 (容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L. , L. W. L.)	検討書			
	(5) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。				
	(6) 本体工	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 基礎工	11) 施工方法を考慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。 1) 基礎形状は妥当か。(直接基礎、杭、地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 適用基準は正しいか。 7) 設計理論と解析手法は妥当か。 8) 施工法は配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード) 9) 材料使用区分は妥当か。 10) 構造細目(杭頭処理、継手等)は妥当か。 11) 埋設物との取合いは問題ないか。 12) 地盤改良の必要性を確認したか。	設計図、検討書			
	(8) ゲート式水門	1) 計画最低水位でも計画取水量を確保しているか。 2) 水密性を保てる構造になっているか。 3) 動力によって開閉する装置の場合には、手動によっても開閉できる構造になっているか。 4) 砂礫が流入する恐れがある場合には、水門の上流に角落としを設けているか。	設計図			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(9) 砂溜り	1) 取水門近くに砂溜りを設置したか。	設計図			
	(10) 護岸工	1))範囲、設置位置、構造等は、河川管理者との協議に合致しているか。	設計図			
	(11) 上 屋	1) 維持管理面を考慮したか。 2) 耐候性を考慮したか。 3) 設備の搬入口を確保したか。	設計図			
	(12) 管理橋	1) 管理橋の下端は、計画最高水位よりさらに0.6～ 2 m 高くしたか。 2) 維持管理面を考慮したか。 3) 耐候性を考慮したか。 4) 安全対策を考慮したか。 5) 侵入者の防止対策を考慮したか。 6) 幅員を1 m以上確保したか。 7) 河川管理者との協議に合致しているか。	設計図、検討書			
	(13) 付帯設備	1) 照明設備や電気設備を考慮したか。 2) 避雷針設備を考慮したか。 3) 油汚染防止フェンスを考慮したか。 4) 除塵設備を考慮したか。 5) 保安柵を考慮したか。 6) 鉄梯子を考慮したか。 7) タラップを考慮したか。	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(14) 仮設工	8) 歩廊を考慮したか。 9) 手摺を考慮しているか。 10) 水質監視装置を考慮したか。 11) 水位計を考慮したか。 1) 仮締切堤の構造、高さは妥当か。 2) 仮締切堤設置後の本川の流下能力は考慮されているか。 3) 水の切り廻しの安全性は妥当か。 4) 工事用道路の構造、幅、高さは妥当か。 5) 河川管理者との協議に合致しているか。	設計図、検討書			
	(15) 施工計画	1) 施工手順は妥当か。 2) 作業ヤードは確保されているか。 3) 工事用道路の経路は妥当か。 4) 発生土の処分は妥当か。 5) 安全対策は妥当か。 6) 地元対策を考慮したか。	施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(5) 本體工	4) 最小部材厚は妥当か。 5) 継手の位置は妥当か。 6) 管渠は、2条以上にしたか。 1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を考慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。	設計図、検討書			
	(6) 基礎工	1) 基礎形状は妥当か。(直接基礎、杭、地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 適用基準は正しいか。	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
		7) 設計理論と解析手法は妥当か。 8) 施工法は配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 9) 材料使用区分は妥当か。 10) 構造細目(杭頭処理、継手等)は妥当か。 11) 埋設物との取合いは問題ないか。 12) 地盤改良の必要性を確認したか。				
	(7) ゲート	1) 計画最低水位でも計画取水量を確保しているか。 2) 水密性を保てる構造になっているか。 3) 動力によって開閉する装置の場合には、手動によっても開閉できる構造になっているか。 4) 砂礫が流入する恐れがある場合には、水門の上流に角落としを設けているか。	設計図			
	(8) 砂溜り	1) 砂溜りは、深さ 30～50c m、長さ 3mを標準とし、排砂作業等のための人孔を設けたか。 2) 砂溜りを高水敷に設ける際、砂溜りの天端は、高水敷と同高とし、人孔を備えた床版構造としたか。	設計図			
	(9) 護岸工	1) 範囲、設置位置、構造等は、河川管理者との協議に合致しているか。	設計図			
	(10) 胸 壁	1) 設置位置 (川表、川裏) 及び構造は妥当か。 2))高さ、長さ、天端巾は妥当か。	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(11) 翼 壁	3) 安全対策を考慮したか。 4) 河川管理者との協議に合致しているか。 1) 構造形式は妥当か。 2) 高さは、計画断面に合致しているか。 3) 範囲は、計画断面以上となっているか。 4) 長さ、天端巾は妥当か。 5) 平面形状の角度は妥当か。 6) 河川管理者との協議に合致しているか。	設計図 検討書			
	(12) 水叩き	1) 範囲は妥当か。 2) 河川管理者との協議に合致しているか。	設計図			
	(13) 護床工	1) 範囲、構造形式は妥当か。 2) 川管理者との協議に合致しているか。	設計図			
	(14) 遮水工	1) 水平方向、鉛直方向の設置か所、設置範囲は妥当か。 2) 高さ、巾、厚さは妥当か。 3) 遮水矢板の型数、長さは妥当か。 4) 水平方向に可とう継手を使用しているか。 5) 河川管理者との協議に合致しているか。	設計図、検討書			
	(15) 付帯設備	1) 保安柵、手摺等を考慮したか。 2) タラップを考慮したか。	設計図			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
4	(16) 仮設工	1) 仮締切堤の構造、高さは妥当か。 2) 仮締切堤設置後の本川の流下能力は考慮されているか。 3) 水の切り廻しの安全性は妥当か。 4) 工事用道路の構造、幅、高さは妥当か。 5) 河川管理者との協議に合致しているか。	設計図、検討書			
	(17) 施工計画	1) 施工手順は妥当か。 2) 作業ヤードは確保されているか。 3) 工事用道路の経路は妥当か。 4) 発生土の処分は妥当か。 5) 安全対策は妥当か。 6) 地元対策を考慮したか。	施工計画書			
	接合井 (1) 位 置	1) 取水口の近くに設置しているか。 2) 沈砂池への水の配分に適当な位置か。	全体平面図			
	(2) 容 量	1) 計画取水量の1.5分以上にしたか。 2) 水深は、3～5mを標準としたか。 3) 水面面積を10㎡以上にしたか。	設計図、検討書			
(3) 構 造	1) 流出管の流出口中心高は、低水位から管径の2倍以上低くしたか。 2) 流入、流出部に弁扉等を設けたか。 3) 底面に排水柵を設けたか。	設計図				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(4) 設計図	1) 平面図、断面図、構造図、詳細図等は妥当か。 (様式－1 設計基本条件との整合性が図られているか) 2) 構造計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 3) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。	設計図			
	(5) 本体工	1) 適用基準は適性か。 2) 設計断面の位置は適性か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を考慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。	設計図、検討書			
	(6) 基礎工	1) 基礎形状は妥当か。(直接基礎、杭、地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 付帯設備	6) 適用基準は正しいか。 7) 設計理論と解析手法は妥当か。 8) 施工法は配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 9) 材料使用区分は妥当か。 10) 構造細目(杭頭処理、継手等)は妥当か。 11) 埋設物との取合いは問題ないか。 12) 地盤改良の必要性を確認したか。 1) 保安柵、手摺等を考慮したか。 2) 人孔を設けたか。 3) タラップを考慮したか。 4) 砂溜りを設けたか。	設計図			
	(8) 仮設工	1) 土留め工の構造、矢板の選定、根入れ長さ等は妥当か。 2) 地下水対策は妥当か。	設計図、検討書			
	(9) 施工計画	1) 施工手順は妥当か。 2) 作業ヤードは確保されているか。 3) 工事用道路の経路は妥当か。 4) 発生土の処分は妥当か。 5) 安全対策は妥当か。 6) 地元対策を考慮したか。	施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
5	沈砂池 (1) 位 置 (2) 形 状 (3) 構 造	<p>1) なるべく取水口に近接した堤内地に設け</p> <p>1) 長方形とし、流入部及び流出部をそれぞれ漸次拡大・縮小させた形としているか。 2) 流入拡大移行部の広がり角は、できるだけ小さくし、40～60° あるいはそれ以上となる場合は、整流を考慮したか。 3) 池数は、2池以上としたか。</p> <p>1) 鉄筋コンクリート構造とし、浮力に対しても安全な構造としたか。 2) 表面負荷率は、200～500mm/min を標準としたか。 3) 滞留時間は、計画取水量の 10 ～20 分を標準としたか。 4) 池内平均流速は、2～7 cm/s を標準としたか。 5) 池の長さは、幅の3～8倍を標準とした 6) 池の高水位は、計画取水量が流入できるように、取水口の計画最低水位以下に定めたか。 7) 池の天端高は、池の高水位より越流設備がない場合には0.6～1m、越流設備がある場合には0.3m程度の余裕高を設けたか。 8) 池の有効水深は、3～4mを標準とし、堆砂深さを0.5～1m見込んだか。</p>	<p>全体平面図</p> <p>設計図</p> <p>設計図、検討書</p>			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(4) 設計図	9) 池底には、排砂のため中央部に溝を設け、縦方向には排水溝に向かって1 / 100、横方向は中央に向かって1 / 50程度の勾配を付けたか。 10) 拡張水量を考慮したか。 1) 平面図、断面図、構造図、詳細図等は妥当か。 (様式-1 設計基本条件との整合性が図られているか) 2) 構造計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 3) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。	設計図			
	(5) 本体工	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材利用、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を考慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(6) 基礎工	1) 基礎形状は妥当か。(直接基礎、杭、地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 適用基準は正しいか。 7) 設計理論と解析手法は妥当か。 8) 施工法は配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 9) 材料使用区分は妥当か。 10) 構造細目(杭頭処理、継手等)は妥当か。 11) 埋設物との取合いは問題ないか。 12) 地盤改良の必要性を確認したか。	設計図、検討書			
	(7) 付帯設備	1) 流入、流出口には、弁扉等を設けているか。 2) 除塵設備として、スクリーン、除塵機及び焼却炉を設けているか。 3) 排砂設備を設けているか。	設計図			
	(8) 仮設工	1) 土留め工の構造、矢板の選定、根入れ長さ等は妥当か。 2) 地下水対策は妥当か。	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
6	(9) 施工計画	1) 施工手順は妥当か。 2) 作業ヤードは確保されているか。 3) 工事用道路の経路は妥当か。 4) 発生土の処分は妥当か。 5) 安全対策は妥当か。 6) 地元対策を考慮したか。	施工計画書			
	ポンプ井 (1) 位 置 (2) 形 状	1) ポンプの据付位置にできるだけ近くに配置したか。 1) 水流の乱れや渦巻きが起りにくい形状になっているか。	全体平面図 設計図			
	(3) 構 造	1) ポンプ室と一体とした場合は、基礎にかかる荷重のバランスを考慮したか。また、分離している場合は、伸縮材等を考慮し 2) 2池以上としたか。 3) 吸込み管径 D に対して吸込み管下端と最低水面とは 1.5D 以上の水深を確保したか。 4) 吸込み管下端とポンプ井とは、1. 0D 以上の水深を確保したか。 5) 取水位の低下を考慮して、ポンプ井の底をさらに 0.5 ～1m 余裕を見込んで下げた 6) 吸込み管と吸込み管との距離は、3. 0D 以上あるか。 7) 吸込み管と周囲の壁との距離は、1. 5D 以上あるか。 8) 底面に排水柵を設けたか。	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(4) 容量	1) 水源と直結されていると考えられる場合は、ポンプ吸込み管の据付け上支障のない容量であるか。 2) 大規模なものでは、5分間以上を確保したか。 3) 小規模なものでは、10～15分間以上を確保したか。	設計図、検討書			
	(5) 設計図	1) 平面図、断面図、構造図、詳細図等は妥当か。 (様式－1 設計基本条件との整合性が図られているか) 2) 構造計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 3) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。	設計図			
	(6) 本体内	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を考慮しているか。	設計図、検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 基礎工	12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。 1) 基礎形状は妥当か。(直接基礎、杭、地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 適用基準は正しいか。 7) 設計理論と解析手法は妥当か。 8) 施工法は配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 9) 材料使用区分は妥当か。 10) 構造細目(杭頭処理、継手等)は妥当か。 11) 埋設物との取合いは問題ないか。 12) 地盤改良の必要性を確認したか。	設計図、検討書			
	(8) 換気装置	1) ポンプ井内の水位の昇降に支障のない空気の入りが確保できる断面積を確保したか。 2) 外部からの小動物等が入らない構造になっているか。	設計図			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(9) 付帯設備	1) 隔壁には連絡管、連絡弁を設けたか。 2) 人孔を設けたか。 3) 鉄梯子、タラップ、手摺等を考慮したか。 4) 水位計を設けたか。 5) 越流管を設けたか。 6) 排水管を設けたか。	設計図			
	(10) 仮設工	1) 土留め工の構造、矢板の選定、根入れ長さ等は妥当か。 2) 地下水対策は妥当か。	設計図、検討書			
	(11) 施工計画	1) 施工手順は妥当か。 2) 作業ヤードは確保されているか。 3) 工事用道路の経路は妥当か。 4) 発生土の処分は妥当か。 5) 安全対策は妥当か。 6) 地元対策を考慮したか。	施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
7	場内連絡管 (1) 配置・構造	1) 緊急時のことを考慮してブロック間の切替えができる構造となっているか。 2) 将来の増設、改造等に備えて、收容スペースに余裕を見込み、作業性の良い配管としておくなどの配慮をしているか。 3) 複数の連絡管や側管を考慮しているか。 また、側管には排水管を設けているか。	設計条件検討書			
	(2) 口径・流速	1) 各系統ごとのろ過池・沈澱池などへ管路の損失水頭が均等になっているか。 2) 使用目的に応じた流速を備え、これが速すぎて摩擦耗したり、遅すぎてスラッジなどが停滞する恐れがないようになっているか。 3) 損失水頭の計算は、摩擦損失頭のほか流入・断面変化・曲がりなど、全ての損失水頭を考慮しているか。	設計条件検討書水 理計算書			
	(3) 管種・配管	1) 管種は、場内連絡管の使用目的を考慮し、内・外圧に対して安全であること、布設場所(環境)に適合していること、及び布設場所に適合した施工性を有していること等から選定されているか。	構造計算書 設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(4) 施工計画	<p>2) 構造物と連絡管との間などに不同沈下・温度変化等に対処するため伸縮可とう管が設置されているか。</p> <p>3) 構造物の壁を貫通する場合などパドルカラーを設け水密性を確保しているか。</p> <p>4) 配管状態を考慮し、空気弁などエア一抜き装置を適宜設置しているか。</p> <p>5) 地震時などに備えて、必要な箇所には緊急遮断弁(扉)の設置を考慮しているか。</p> <p>6) 管のコンクリート貫通部、異種土壌間の布設部及び異種金属間の接続部には、マクロセル腐食が発生しないように、あらかじめ防食上適切な措置を講じているか。</p> <p>1) 構造物築造工事との施工順序・時期などで整合しているか。</p> <p>2) 土留め・仮設道路などの仮設物を共用できるか検討したか。</p> <p>3) 経済性・施工性・安全性から工法の比較選定が行われているか。</p> <p>4) 補助工法(地盤改良等)の必要性を検討しているか。</p>	施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
8	場内整備 (1) 場内排水施設	1) 場内各施設からの排水の種類及び計画水量を確認したか。 2) 種別(雨水・場内排水)による排水処理の方式について、比較検討のうえ選定したか。 3) 排水施設の構造・口径・管種等が建築基準及び指導要綱などを遵守したものとなっているか。 4) 排水施設について監督官庁と協議が整っているか。 5) 生活排水、水質試験水排水は、他の一般排水と個別の配管となっているか。	設計条件検討書 水理計算書 構造計算書			
	(2) 管理用道路	1) 保守管理を要する場内施設及び出入り車両の規模を確認したか。 2) 構造については、道路舗装要綱等技術基準等に基づき決めているか。				
	(3) 外構施設	外構のり面、侵入防止用フェンス、正門及び通用門の構造・仕様等について、関連基準に適合しているか。	設計条件検討書 構造計算書			
	(4) 場内植栽	1) 植栽の種類・規模については、市町村の条例に適合しているか。	設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
9	(5) その他の施設	ケーブル収容施設、収容トラフ類、場内照明設備及び場内排水設備の構造・仕様等について、関連基準に適合しているか。	設計条件検討書 構造計算書			
	(6) 施工計画	1) 構造物築造工事との施工順序・時期などで整合しているか。 2) 土留め・仮設道路などの仮設物の共用できるかを検討したか。 3) 経済性・施工性・安全性から工法の比較選定が行われているか。 4) 補助工法(地盤改良等)の必要性を検討しているか。				
	共 同 溝	1) 各施設間を結ぶ電気・計装ケーブル、薬品注入・サンプリング配管等の収納する種類・規模を整理・確認したか。 2) 共同溝の構造・設備については 建築基準法・消防法等法令に適合しているか。 3) 施工計画 a 構造物築造工事との施工順序・時期などで整合しているか。 b 土留め・仮設道路などの仮設物を共用できるか検討したか。 c 経済性・施工性・安全性から工法の比較選定が行われているか。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
10	仮設構造物 (1) 設計の目的 範囲	<p>d 補助工法(地盤改良等)の必要性を検討しているか。</p> <p>1) 本體工との整合はとれているか。</p> <p>2) 設計の範囲、内容、数量、工程は確認しているか。</p> <p>3) 隣接工区との関係を確認したか。</p>	基本条件検討書			
	(2) 現地調査	<p>1) 地形状況を把握したか。 (おぼれ谷、旧河川等)</p> <p>2) 周辺の状況を把握したか。</p> <p>3) 周辺の構造物との関係を把握したか。 (近接構造物との関係、影響度)</p> <p>4) 環境の状況を把握したか。 (騒音・振動等の配慮)</p> <p>5) ポーリング図は適正か。 (近接工区との関連性等)</p>	基本条件検討書			
	(3) 設計基本条件	<p>1) 設計基準を決定したか。</p> <p>2) 工法の比較検討は適正か。</p> <p>3) 設計荷重は適正か。(一般自動車、特殊車、施工時荷重等)</p> <p>4) 使用材料、材質、強度等の確認を行ったか。 (生材、リース材等)</p>	基本条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(4) 施工上の基本条件	1) 本體工との離れ等の関係は適正か。 2) 運搬路、迂回路の確保の見通しはどうか。 3) 施工時の用地占有及び近接状況の確認がなされているか。 4) 工事時期と工程が明確になっているか。 5) 覆工の必要性の検討はなされているか。	基本条件検討書			
	(5) 関連機関との調整	1) 埋設物の切回し又は仮受け等について関係機関との協議がなされているか。	関連機関との協議書			
	(6) 貸与資料	1) 設計に必要な貸与資料を確認したか。 (地質調査報告書・測量成果品等)	議事録			
	(7) 仮設工法の選定	1) 経済性・施工性・安全性の面から総合的に工法の比較検討が行われているか。 2) 辺の条件、交通処理の方法を考慮しているか。 3) 施設構造物への影響を考慮しているか。 4) 隣接工区と整合は取れているか。 5) 補助工法(地盤改良等)の必要性を検討したか。 6) 覆工の必要性を検討したか。	基本条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(8) 設計計算	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 設計上の条件設定は整理されているか。 (地質条件、土質条件荷重条件、水位、計算方法、隣接工区との条件の整合等) 3) 設計項目は充分か。 (ポイリング、ヒービング等) 4) 指定された規定を満足しているか。 (「建設工事公衆災害防止対策要綱」等) 5) 設計結果は許容範囲内か。 (許容応力度、変位量等) 6) 施工上の配慮がなされているか。 (本体工との離れ、本体工の施工順序との関係、撤去、盛替え等)	設計計算書			

成果品の照査項目一覧表

(照 査 ③)

業務名：

発注者名：北千葉広域水道企業団

受託者名：

照査の日付：令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査③		備 考
				該当対象	照 査	
1	設計報告書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 設計位置、設計適用範囲は適正か。 3) 設計条件、施工条件は適正に運用されているか。又、他の設備(電気・機械・計装)の設計条件と整合がとれているか。 4) 安定計算結果は許容値を満たすか。(安全率、変位量、許容応力度、根入れ長さ) 5) 許容値の取り方は正しいか。	設計計画書 設計計画書 施工計画書 イメージアップ検討等書			
2	設 計 図	1) 縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と整合されているか。 2) 打合せ事項は反映されているか。 3) 必要寸法、部材形状及び寸法等にもれはないか。 4) 全ての図面において平面と縦断面図、あるいは平面図と横断面図等とが整合しているか。 5) 各設計図面がお互いに整合がとれているか。(一般平面図・構造図・配筋図・仮設図・付帯設備等) 6) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。(特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合されているか) 7) 付属金物類が適正に配置されているか、足りないものはないか。又、余分なものはないか。 8) 付帯する設備(電気・機械・計装・場内連絡管等)と整合されているか。	各設計図			

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査③		備 考
				該当対象	照 査	
3	数量計算書	1) 数量計算は適用基準あるいは打合せ事項と整合しているか。(工種区分、単位、有効数字、位取り区分等) 2) 数量計算に用いた数値は、設計図面と一致しているか。 3) 数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打合せと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。 4) 各ブロック毎の数量的バランスは適正か。	数量計算書			
4	設計調書	1) 調書の記入は適正にされているか。 2) マクロ的（他工事区等とオーダー的に比較して）に見て問題はないか。	設計調書			

施設名	(取・浄・送水施設)
(全体平面図)	
(水位高低図)	

施設名	(取・浄・送水施設)	構造物名	
(平面図)			(断面図-1)
			(断面図-2)

施設名		(取・浄・送水施設)		構造物名					
番号	形状寸法	断面力			鉄筋量 (t/m ³)	応力度 (kg/f cm ²)			
		曲げモーメント(tm)	せん断力(t)	軸力(t)		鉄筋引張り	コンクリート曲げ圧縮	コンクリートせん断	
頂版○									
○									
○									
底版○									
○									
○									
導流壁○									
○									
○									
柱 ○									
○									
○									
側壁○									
○									
○									
基礎	直接基礎	常時	支持力 転倒 滑動	< > >	使用材料	コンクリート			
		地震時	支持力 転倒 滑動	< > >		鉄筋			
工	杭基礎	常時	杭反力 杭頭変位	< <		防食工			
		地震時	杭反力 杭頭変位	< <		管類			
							弁類		
杭種						取付金物			
杭径×杭長×本数		m× m× 本、 m× m× 本							

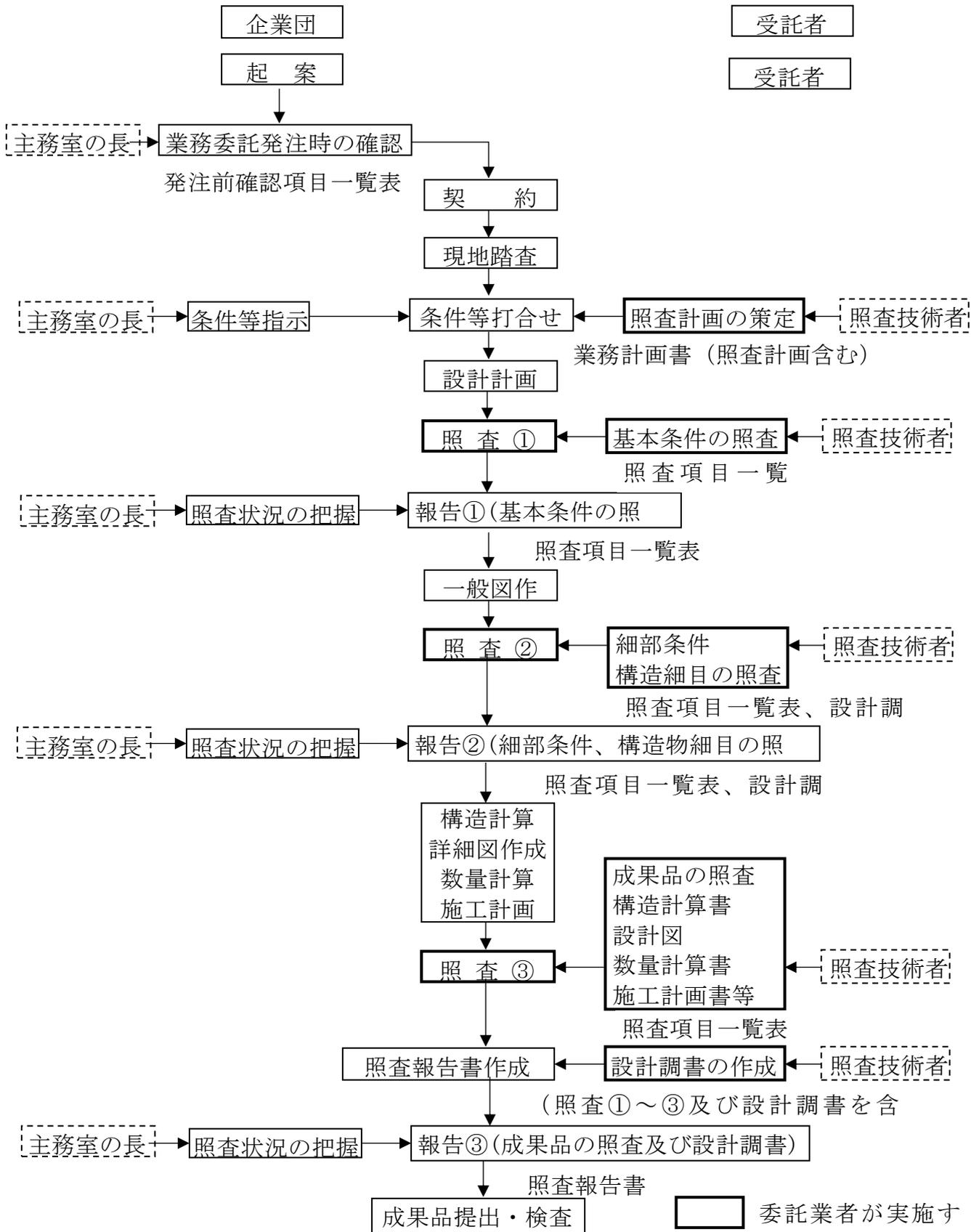
施設名	(取・浄・送水施設)	構造物名								
(平面図)			区分	層厚	N	γ	C	ϕ	種類	(注) 1. 土の種類 ①砂質土 ②粘性土 $N > 5$ ③粘性土 $N \leq 5$ 2. ボーリング図の出典を記入する 3. 水位を明示する
			I							
(断面図)			(ボーリング図)							
			II							
			III							
			IV							
			V							

項 目			設計結果(計算値と使用値)	備 考	
土 留 工	親 杭 方 式	土留杭	根 入 長		
			断 面 寸 法		
			応 力 度		
			支 持 力		
			最 大 変 位		
	土留板	断 面 寸 法			
		応 力 度			
	鋼矢板方式 (連続地中壁)	根 入 長			
		断 面 寸 法			
応 力 度					
最 大 変 位					
支 保 工	腹起し 段目	間 隔		(注) ※1: 次の計算ケースにより決定されたものを選ぶ。 ① 掘削完了時 ② 最下段切梁設置直前 ③ 撤去時 ④ 盛替時 ※2: 次の計算ケースにより決定されたものを選ぶ。 ① (つりあい深さ) XL. 2以上 ② ポイリングに対する必要長 ③ ヒーピングに対する必要長 ④ 30m以上 ※3: 「建設工事公衆災害防止対策要綱」による。	
		断 面 寸 法			
		応力度及び安全度			
	切梁 段目	間 隔			
		断 面 寸 法			
		応力度及び安全度			
	火 打 ち	断 面 寸 法			
		応 力 度			
	中 間 杭	間 隔			
		断 面 寸 法			
支 持 力					
補 助 工 法					

3. 構造物築造工事（浄水場）

実施設計業務委託
照査項目一覧表

実施設計業務委託照査フローチャート



- 注記 1. 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。
 2. 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画提出時に打合せにより設定する。

委託業者が実施する照査関連事項

基本項目一覧表（浄水場）

No. 1

発注前確認	照査①	照査②	照査③
<ol style="list-style-type: none"> 1. 設計の目的・主旨 2. 設計の範囲・内容・数量・工程(工期) 3. 浄水場名 (施設名、施設・構造物名) 設計区間(計画部分) 工事期間 (工事時期、工事発注時期) 4. 設計条件、設計基本条件計画 浄水量 5. 使用材料 6. 施工上の基本条件(施工条件) 7. 維持管理条件(維持管理) 8. 関連機関との調整 9. 資料の確認 (既存資料・貸与資料) 10. 環境・景観検討の必要性 (環境保全) 11. イメージアップの必要性 12. 現地調査結果 13. 成果品 14. その他 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 設計の目的・設計範囲 2. 仕様書(特記仕様書) 3. 浄水場名 (施設名・設計区間・工事時期) 4. 設計基本条件 計画年次別浄水量 5. 地盤条件・地質条件 6. 設計震度・耐震検討 7. 使用材料 8. 地形条件(敷地境界面積) 9. 施工条件 10. 関連機関との調整 11. 貸与資料の確認・問題点 12. 環境・景観検討 13. イメージアップの検討 14. 現地調査結果 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 着水井 <ol style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 2. 急速攪拌池 <ol style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 3. フロック形成池 <ol style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 設計報告書 2. 設計図 3. 数量計算書 4. 設計調書

基本項目一覧表 (浄水場)

No. 2

発注前確認	照査①	照査②	照査③
		<p>4. 薬品沈澱池</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 <p>5. 急速ろ過池</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 <p>6. 浄水池</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 	

発注前確認	照査①	照査②	照査③
		<p>7. ポンプ井</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 <p>8. 塩素混和池</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 <p>9. オゾン接触池</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 	

基本項目一覧表 (浄水場)

No. 4

発注前確認	照査①	照査②	照査③
		<p>10. 活性炭吸着池</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 <p>11. 生物処理設備(ハニコーム方式)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 <p>12. 排水池</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 	

発注前確認	照査①	照査②	照査③
		<p>13. 排泥池</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 <p>14. 濃縮池</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 <p>15. 天日乾燥床</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画 	

発注前確認	照査①	照査②	照査③
		<p>16. 高架水槽 (1) 一般図 (2) 水理計算(容量を含む) (3) 荷重条件 (4) 本体構造物 (5) 基礎構造 (6) 付帯工事及び配管工事 (7) 仮設工 (8) 施工計画</p> <p>17. 場内連絡管 (1) 配置・構造 (2) 口径・流速 (3) 管種・配管 (4) 施工計画</p> <p>18. 場内整備 (1) 場内排水設備 (2) 管理用道路 (3) 外構施設 (4) 場内植栽 (5) その他の施設 (6) 施工計画</p> <p>19. 共同溝</p> <p>20. 仮設構造物 (1) 設計の目的・範囲 (2) 現地調査 (3) 設計基本条件 (4) 施工上の基本条件 (5) 関連機関との調査 (6) 貸与資料 (7) 仮設工法の選定 (8) 設計計算</p>	

発注前確認項目一覧表

業務名：

設計者所属・氏名：

発注前確認項目一覧表

No.	項 目	主 な 内 容	確 認 資 料	該 当 対 象	確 認	備 考
1	設計の目的・主旨	1) 設計の目的・主旨(基本計画・基本設計)は明確になっているか。	特記仕様書			
2	設計の範囲・内容・数量・工程(工期)	1) 設計の範囲、内容、数量、工程(工期)は決定しているか。	特記仕様書			
3	浄水場名 (施設名、施設・構造物名) 設計区間(計画部分) 工事期間 (工事時期、工事発注時期)	1) 浄水場名は決定しているか。 2) 施設・構造物名は決定しているか。 3) 計画区間(部分)は決定しているか。 4) 工事の発注時期及び施工時期は決定しているか。	特記仕様書			
4	設計条件 設計基本条件 計画浄水量	1) 基本フローは決定しているか。 2) 構造・形式は決定しているか。 3) 位置及び高さ(高水位、低水位)は決定しているか。 4) 設計荷重及び外力は決定しているか。 5) 排水の処理方法及び排除方法・排出先の基本方針はあるか。 6) 計画浄水量は決定されているか。	特記仕様書			
5	使用材料	1) 使用する材料の規格・許容応力度は決定しているか。	設計指針			

発注前確認項目一覧表

No.	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
6	施工上の基本条件(施工条件)	1) 全体工程が明確になっているか。 2) ヤード確保・搬入路の見通しはあるか。				
7	維持管理条件(維持管理)	1) 維持管理の方法は決定しているか。				
8	関連機関との調整	1) 埋蔵文化財の調査が必要か。必要な場合協議を行っているか。 2) 河川(沼)管理者との協議は行ったか。 3) 土砂・資材の搬出入に伴う道路管理者等との協議をしているか。 4) 地元・他権者との調整は済んでいるか。 5) その他の関連機関との協議を行っているか。	関連機関との協議書等			
9	資料の確認 (既存資料・貸与資料)	1) 測量成果(平面・縦断・横断)があるか。 2) 地質調査報告書があるか。 追加ボーリングの必要はないか。 3) 用地境界が決定しているか。 4) 既設工作物を確認しているか。 5) 交通量に関する資料があるか。	測量成果品 地質調査報告書			
10	環境・景観検討の必要性 (環境保全)	1) 特別に景観を配慮する必要があるか。 2) 景観検討の方針・内容は決定しているか。 3) 検討に必要な資料は整理されているか。				

発注前確認項目一覧表

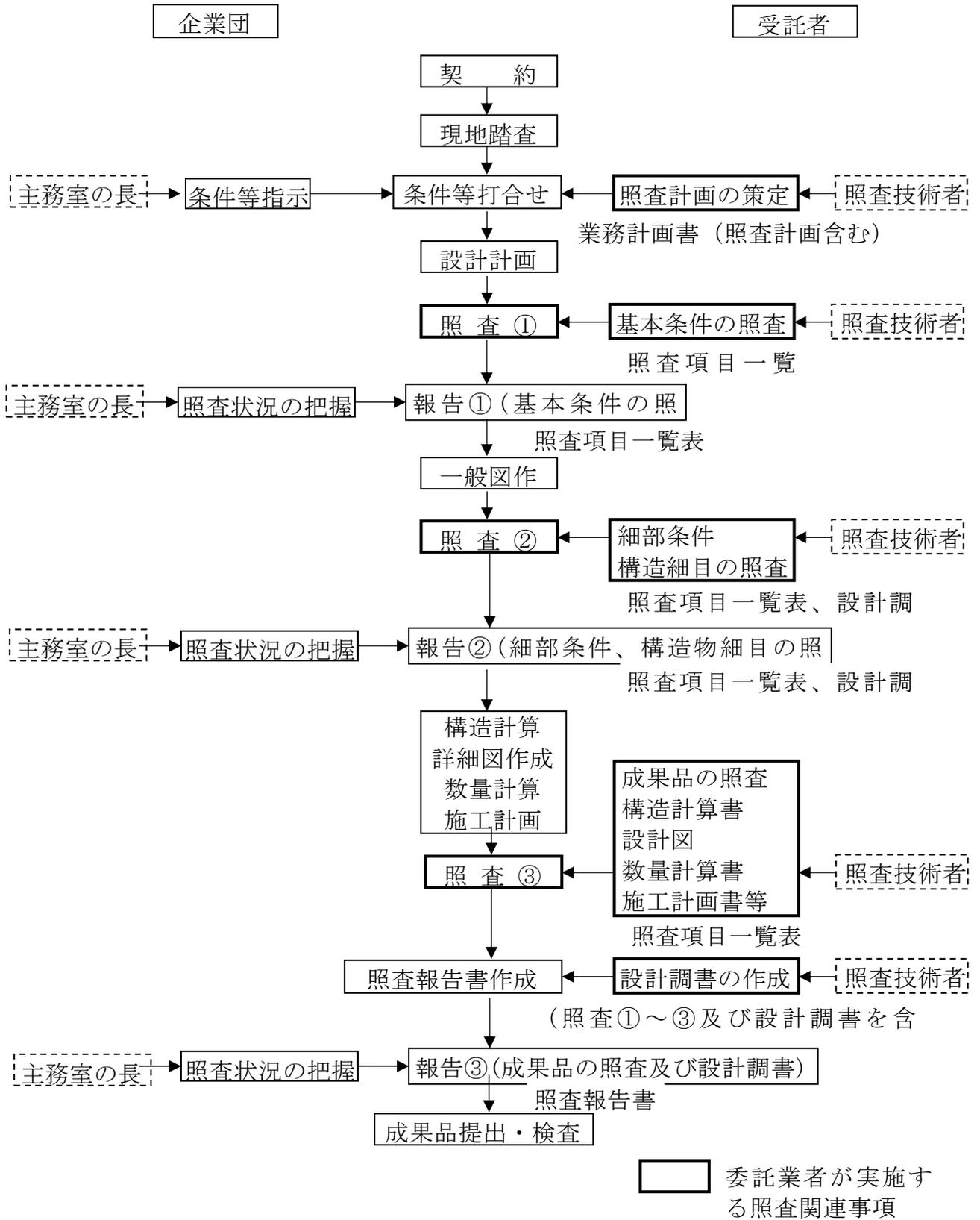
No.	項 目	主 な 内 容	確 認 資 料	該 当 対 象	確 認	備 考
11	イメージアップの必要性	1) 仮設備、安全施設、営繕施設等でイメージアップを考慮したか。	写 真			
12	現地調査結果	1) 支障物件はあるか。 2) 地下水利用状況を把握しているか。				
13	成果品	1) 成果品の内容(部数・サイズ等)は決定しているか。				
14	その他	1) 他事業との調整はなされているか。				

構造物築造工事（浄水場）

実施設計業務委託

照査項目一覧表

実施設計業務委託照査フローチャート



- 注記 1. 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。
 2. 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打合せにより設定する。

照査項目一覧表の記載について

- (1) 照査項目一覧表の記載は、項目の順に行い該当対象項目に○印を記入する。
- (2) 各照査段階において、照査の済んだ項目に○印と日付を記入し、照査された項目と照査されない項目が分別できるようにする。
- (3) 照査項目は、業務内容、規模、重要度に応じて追加又は削除することが出来る。
なお、追加する場合は別紙に新たな照査項目を明記する。
- (4) 照査項目一覧表のみでは、照査した内容を説明しにくい場合は、提示資料欄に必要となる検討書、図面等の資料項目を明示し、一覧表に添付して提出する。
- (5) 各段階の照査が完了したときは、照査技術者及び業務主任技術者の確認済みのものを提出する。
照査技術者及び業務主任技術者は各段階の照査完了時に、確認欄に「済」を記入する。

基本条件の照査項目一覧表

(照 査 ①)

業務名：

発注者名： 北千葉広域水道企業団

受託者名：

照査の日付：令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
1	設計の目的・設計範囲	1) 設計の目的・設計範囲を理解したか。	業務計画書			
2	仕様書(特記仕様書)	1) 仕様書(特記仕様書)の内容を理解したか。				
3	浄水場名 (施設名・設計区間・工事時期)	1) 浄水場名は確認したか。 2) 設計区間は確認したか。 3) 工事時期は確認したか。	業務計画書			
4	設計基本条件 計画年次別浄水量	1) 基本フローを確認したか。 2) 各構造物の形式は適正か。 3) 位置及び高さ(高水位・低水位)は妥当か。 4) 使用する設計荷重及び外力は妥当か。 5) 構造計画に必要な事項を確認したか。 a. 建設位置の状況 b. 将来拡張計画 c. 構造計算ソフト 6) 基礎形式の基本方針は妥当か。 7) 排水の処理方法及び排除方法は適正か。 8) 計画年次別取水量を考慮したか。	設計条件整理 検討書			
5	地盤条件・地質条件	1) 地層構成の把握は妥当か。 2) 土質定数の設定は妥当か。 3) 支持力、地盤バネ値の設定は妥当か。 4) 地下水位等の設定は妥当か。 5) 液状化の判定は妥当か。	設計条件整理 検討書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
6	設計震度・耐震検討	6) 追加調査の必要性はないか。 1) 設計震度は妥当か。 2) 耐震検討は適正か。	設計条件整理 検 討 書			
7	使用材料	1) 使用材料の規格は妥当か。 a. 鋼材、鉄筋、コンクリート等 2) 使用材料の設計基準強度・許容応力度は妥当か。 3) 荷重の組合せと許容応力度の割増は妥当か。	許容応力度一覧			
8	地形条件(敷地境界面積)	1) 用地境界を確認したか。	地 形 図			
9	施工条件	1) 全体工程を理解したか。 2) 施工ヤード、スペースを確認したか。				
10	関連機関との調整	1) 埋蔵文イヒ財の必要な事項を調査したか。 2) 河川(沼)管理者との協議内容を理解したか。又、必要な事項を調査・確認したか。 3) 道路管理者との協議内容を理解したか又、必要な事項を調査・確認したか。 4) 上記以外関連機関との協議内容を理解したか。又、必要な事項を調査・確認したか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
11	貸与資料の確認・問題点	1) 貸与資料の不足はないか。 2) 貸与資料に追加事項があるか。	業務計画書			
12	環境・景観検討	1) 景観検討の必要性、方針、内容、範囲等が理解されたか。 2) 景観検討の具体的方法、作成すべき資料は明らかとなっているか。	検討書			
13	イメージアップの検討	1) 仮設備、安全施設、営繕施設等でイメージアップを検討したか。				
14	現地調査結果	1) 地形、地質、現地状況を把握したか。 2) 交通状況、進入道路等、周辺の道路状況を把握したか。 3) 環境状況(工事における振動、騒音・地下水等)を把握したか。 4) 支障物件の状況を把握したか。 5) 施工時に反映する事項を抽出したか。				

細部条件の照査項目一覧表

(照査②)

業務名：

発注者名： 北千葉広域水道企業団

受託者名：

照査の日付：令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
1	着水井 (1) 一般図	1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式-1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)	設計条件検討書			
	(2) 水理計算 (容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H.W.L., L.W.L.)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(6) 付帯工事及び配管工事	1) 薬品注入設備配管は、検討されているか。 (塩素、苛性ソーダ) 2) 水質試験用採水方法は、検討されているか。 3) 排水及び池洗浄用施設は検討されているか。 4) 排水池返送配管は、検討されているか。 5) 池内及び池外落下防止は、検討されてい 6) 空気弁は、適正に設置されているか。 7) 管防護及び支持方法は適正か。 8) 流入流量及び返送流量の流量計は、適切に配置されて いるか。 9) 着水井の側管の必要性を検討したか。 10) 越流管又は越流堰は設置されているか。 11) 薬品混和方法は検討されているか。	薬注計画書 一般計装計画書 排水処理計画書 一般計装計画書 薬注計画書			
	(7) 仮設工	1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置と なっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。	仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
2	(8) 施工計画	8) 上載荷重の選定及び载荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分（中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め）は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 （ディープウェル、地盤改良等）	設計条件検討書			
	急速攪拌池 (1) 一般図	1) バルブ、管、機械設備、計装設備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。 1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(2) 水理計算 (容量を含む)	2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式－1 設計基本条件との整合性がはかられているか。) 1) 水理計算を確認したか。 (H . W . L . , L . W . L)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を配慮しているか。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(5) 基礎構造	12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。 1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 近接の問題はないか。 7) 適用基準は正しいか。 8) 設計理論と解析手法は妥当か。 9) 施工法は配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 10) 材料使用区分は妥当か。 11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等) 12) 埋設物との取合いは問題ないか。 13) 地盤改良の必要性を確認したか。	全体一般図及び設計条件検討書			
	(6) 付帯工事及び配管工事	1) 薬品注入設備配管は、検討されているか。 (凝集剤)	薬注計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 仮設工	2) 水質試験用採水方法は検討されているか。 3) 排水及び池洗浄用施設は検討されているか。 4) 薬品混和方法及び混和時間は検討されているか。 5) 池内及び池外落下防止は、検討されているか。 6) 空気弁は、適正に設置されているか。 7) 管防護及び支持方法は適正か。 1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。 8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。	一般計装計画書 検討書 仮説検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
3	(8) 施工計画	13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ボイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等)	設計条件検討書			
	フロック形成池	1) バルブ、管、機械設備、計装設備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。				
	(1) 一般図	1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式-1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)				
	(2) 水理計算 (容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L. , L. W. L.)	水理計算			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2))設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を配慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。	設計条件検討書 構造計算書			
	(5) 基礎構造	1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。	全体一般図及び設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
		3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 近接の問題はないか。 7) 適用基準は正しいか。 8) 設計理論と解析手法は妥当か。 9) 施工法は配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 10) 材料使用区分は妥当か。 11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等) 12) 埋設物との取合いは問題ないか。 13) 地盤改良の必要性を確認したか。				
	(6) 付帯工事及び配管工事	1) 攪拌方法(機械方式、迂流方式)は検討されているか。 2) 滞留時間は計算されているか。 3) G 値、GT 値は計算したか。 4) 排泥及び池洗浄用施設は検討されているか。 5) 攪拌強度は検討しているか。 (上流側、下流側) 6) 池内及び池外落下防止は、検討されてい	検討書 検討書 検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 仮設工	7) 機械方式の場合可変速としているか。 8) 機械基礎は検討されているか。 1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。 8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等)	仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
4	(8) 施工計画	1) バルブ、管、機械設備、計装設備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。				
	薬品沈澱池 (1) 一般図	1) 場内一般平面図で位地(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式- 1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)	設計条件検討書			
	(2) 水理計算 (容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H.W.L., L.W.L.)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位地は適正か。	設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(6) 付帯工事及び配管工事	10) 材料使用区分は妥当か。 11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等) 12) 埋設物との取合いは問題ないか。 13) 地盤改良の必要性を確認したか。 1) 表面負荷率、沈降速度、除去率滞留時間は計算されているか。 2) 整流設備は検討されているか。 (流入、流出、中間) 3) 水質試験採水方法は検討されているか。 (沈澱池流出) 4) 排泥及び池洗浄用施設は検討されているか。 (排泥サイクル) 5) 池内及び池外落下防止は、検討されているか。 6) 空気弁は、適正に設置されているか。 7) 管防護及び支持力方法は適正か。 8) 流入流量計は、適切に配置されているか。 9) 地震時の水面上昇の検討はなされているか。 10) 越流管又は越流堰は設置されているか。 11) 堆泥量は計算されているか。 (堆泥濃度の設定) 12) 密度流又は偏流の検討は、なされているか。	検討書 水理計算書 一般計装計画書 排水処理計画書 一般計装計画書 検討書 排水処理計画書 検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 仮設工	13) 排泥設備(汚泥掻寄せ方法)の検討はなされているか。 14) 取出設備の堰負荷計算はあるか。 1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選択は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。 8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。	検討書 計算書 仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
5	(8) 施工計画	16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等) 1) バルブ、管、機械設備、計装設備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。				
	急速ろ過池 (1) 一般図	1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式－1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)	設計条件検討書			
	(2) 水理計算 (容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L. , L. W. L.)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を配慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。	設計条件検討書 構造計算書 検討書			
	(5) 基礎構造	1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 近接の問題はないか。 7) 適用基準は正しいか。	全体一般図及び設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(6) 付帯工事及び配管工事	8) 設計理論と解析手法は妥当か。 9) 施工法は配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 10) 材料使用区分は妥当か。 11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等) 12) 埋設物との取合いは問題ないか。 13) 良の必要性を確認したか。 1) ろ過速度は適切に設定されているか。 2) 予備池は設置されているか。 3) ろ層構成は検討されているか。 4) ろ過継続時間が設定されているか。 (洗浄サイクル) 5) ろ過池数、ろ過面積は適切か。 6) 流量制御方式の検討がされているか。 (流入制御、流出制御) 7) 洗浄方式（表面洗浄、逆流洗浄空気洗浄）の検討はなされているか。 8) 逆流洗浄方式（ポンプ洗浄、自己水洗浄、洗浄タンク）の検討はなされているか。 9) 洗浄時間、洗浄水量及び水圧の検討はなされているか。 10) ろ層の膨張倍率は、検討されているか。 (水温による補正)	検討書 水利計算書 検討書 検討書 一般計装検討書 検討書 検討書 検討書 検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 仮設工	11) 集水渠、浄水渠は設置されているか。	検討書			
		12) 下部集水装置の検討はなされているか。				
		13) ろ層、砂利層、アンスラサイトの仕様は決定しているか。				
		14) 洗浄排水渠、トラフは適正か。				
		15) 水質試験採水方法は検討されているか。 (ろ過池流出)	一般計装計画書			
		16) 池内及び池外落下防止は、検討されているか。				
		17) 空気弁は、適正に設置されているか。				
		18) 管防護及び支持方法は適正か。				
		19) 流出流量計は、適切に配置されているか。 (ろ過流量、総ろ過流量)				
		20) 水位計は適切か。	一般計装計画書			
		21) 水深および余裕高は適切か。				
		22) ろ層負圧防止対策を検討したか。 (総ろ過浄水渠の堰高)	一般計装計画書			
		23) 配管廊及び操作廊は適切か。	検討書			
		24) バルブ操作台は適切か。				
		1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。	仮設検討書 施工計画書			
		2) 適用基準は正しいか。				
		3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について)				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(8) 施工計画	4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。 8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等) 1) バルブ、管、機械設備、計装設備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3))搬入路は確保出来るか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
6	浄水池 (1) 一般図	1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式-1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)	設計条件検討書			
	(2) 水理計算(容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L. , L. W. L.)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(5) 基礎構造	<p>9) 継手の構造形状、材質は適正か。</p> <p>10) 防水防食工の材質は適正か。</p> <p>11) 施工方法を配慮しているか。</p> <p>12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。</p> <p>13) 基礎構造は適正か。</p> <p>1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等)</p> <p>2) 土質常数の設定は妥当か。</p> <p>3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等)</p> <p>4) 支持層への根入れは妥当か。</p> <p>5) 液状化は問題ないか。</p> <p>6) 近接の問題はないか。</p> <p>7) 適切基準は正しいか。</p> <p>8) 設計理論と解析手法は妥当か。</p> <p>9) 施工法を配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等)</p> <p>10) 材料使用区分は妥当か。</p> <p>11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等)</p> <p>12) 埋設物と取合いは問題ないか。</p> <p>13) 地盤改良の必要性を確認したか。</p>	全体一般図及び設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提 示 資 料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(6) 付帯工事及び配管工事	1) 浄水池の有効容量は適切か。 2) 池水の停滞が配慮されているか。 3) 水質試験採水方法は、検討されているか。 4) 排水及び池洗浄用施設は検討されているか。 5) 池内及び池外落下防止は、検討されているか。 6) 空気弁は、適正に設置されているか。 7) 管防護及び支持方法は適正か。 8) 流入流量及び送配流量の流量計は、適切に配置されているか。 9) 換気装置は適切か。 (通気管、防虫網) 10) 越流管又は越流堰は適切か。 (通気管、防虫網) 11) 上部有効利用の荷重条件は適切か。 12) 危機管理対策は、充分か。 (窓、ドア、鍵、通気孔)	計算書 一般計装計画書 一般計装計画書			
	(7) 仮設工	1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。	仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(8) 施工計画	5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。 8) 上載荷重の選定及び载荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等) 1) バルブ、管、機械設備、計装設備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
7	ポンプ井 (1) 一般図	1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式-1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)	設計条件検討書			
	(2) 水理計算(容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L. , L. W. L)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(6) 付帯工事及び配管工事	1) ポンプ井の有効容量は適切か。 2) 隣接ポンプ井との連絡管を考慮しているか。 3) 有効水深は適切か。 4) 水質試験用採水方法は、検討されているか。 5) 排水及び池洗浄用施設は検討されているか。 6) 池内落下防止は、検討されているか。 7) 管防護及び支持方法は適正か。 8) 換気装置は適切か。 (通気管、防虫網) 9) 越流管又は越流堰は適切か。 (通気管、防虫網) 10) 危機管理対策は、充分か。 (窓、ドア、鍵、通気孔)	計算書 ポンプ計画書			
	(7) 仮設工	1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。 8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。	仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
8	(8) 施工計画	9) 覆上板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等)	設計条件検討書			
	塩素混和池 (1) 一般図	1) バルブ、管、機械設備、計装設備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。 1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式－1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(2) 水理計算(容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H . W . L . , L . W . L .)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を配慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(5) 基礎構造	1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 近接の問題はないか。 7) 適用基準は正しいか。 8) 設計理論と解析手法は妥当か。 9) 施工法を配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 10) 材料使用区分は妥当か。 11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等) 12) 埋設物との取合いは問題ないか。 13) 地盤改良の必要性を確認したか。	全体一般図及び設計条件検討書			
	(6) 付帯工事及び配管工事	1) 有効容量(滞留時間)は適切か。 2) バイパス管又は2池以上設置しているか。 3) G値は適切か。 4) う流方式の検討がされているか。 5) 覆がいされているか。 6) 水質試験用採水方法は、検討されているか。	計算書 計算書 一般計装計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 仮設工	<p>7) 排水及び池洗浄用施設は検討されているか。</p> <p>8) 池内落下防止は、検討されているか。</p> <p>9) 管防護及び支持方法は適正か。</p> <p>10) 換気装置は適切か。 (通気管、防虫網)</p> <p>11) 越流管又は越流堰は適切か。</p> <p>12) 危機管理対策は、充分か。 (窓、ドア、鍵、通気孔)</p> <p>1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。</p> <p>2) 適用基準は正しいか。</p> <p>3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について)</p> <p>4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。</p> <p>5) 経済性が配慮されているか。</p> <p>6) 土質条件の設定は適正か。</p> <p>7) 地下水位の設定は適正か。</p> <p>8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。</p> <p>9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。</p> <p>10) 山留め形式の選定は適正か。</p> <p>11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。</p> <p>12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。</p>	仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
9	(8) 施工計画	13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等) 1) バルブ、管、機械設備、計装設備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。				
	オゾン接触池 (1) 一般図	1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式－1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)	設計条件検討書			
	(2) 水理計算(容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L. , L. W. L.)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。	構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(4) 本体構造物	3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。 1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を配慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。	設計条件検討書 構造計算書 検討書			
	(5) 基礎構造	1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等)	全体一般図及び設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(6) 付帯工事及び配管工事	4) 支持層への根入れは妥当か。				
		5) 液状化は問題ないか。				
		6) 近接の問題はないか。				
		7) 適用基準は正しいか。				
		8) 設計理論と解析手法は妥当か。				
		9) 施工法を配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等)				
		10) 材料使用区分は妥当か。				
		11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等)				
		12) 埋設物との取合いは問題ないか。				
		13) 地盤改良の必要性を確認したか。				
		1) 有効容量(接触時間)は適切か。	計算書			
		2) バイパス管又は2池以上設置しているか。				
		3) リサイクルの接触池が設置されているか。 (段数の決定)	検討書			
	4) 排オゾン設備が検討されているか。 (段数の決定)	検討書				
	5) 散気管設置方法が検討されているか。	検討書				
	6) 吸収効率が計算されているか。	計算書				
	7) ガス空塔速度は適切か。					
	8) 気液比は適切か。	計算書				
	9) 排オゾン設備(プローア)は騒音対策が実施されているか。	検討書				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 仮設工	10) 注入は気液向流となっているか。 11) 密閉式となっているか。 12) 接触状態を確認できる覗き窓が設置されているか。 13) オゾン濃度計の設置位置は検討されているか。 14) 水質試験用採水方法は、検討されているか。 15) 排水及び池洗浄用施設は検討されているか。 16) 池内落下防止は、検討されているか。 17) 管防護及び支持方法は適正か。 18) 越流堰は適切か。 19) 危機管理及び安全対策は充分か。 (窓、ドア、鍵) 20) 配管材質は適切か。(sus材) 21) バルブ材質は適切か。(scs材)	一般計装計画書			
		1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。	仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
10	(8) 施工計画	8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等)	設計条件検討書			
	(1) 一般図	1) バルブ、管、機械設備、計装装備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。 1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式－1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(2) 水理計算(容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H . W . L . , L . W . L .)	水理計算主			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を配慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(5) 基礎構造	1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 近接の問題はないか。 7) 適用基準は正しいか。 8) 設計理論と解析手法は妥当か。 9) 施工法は配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 10) 材料使用区分は妥当か。 11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等) 12) 埋設物との取合いは問題ないか。 13) 地盤改良の必要性を確認したか。	全体一般図及び設計条件検討書			
	(6) 付帯工事及び配管工事	1) 処理方式を確認したか。 (固定床方式、流動方式) 2) 活性炭の選定を確認したか。 3) 処理方式を確認したか。 (GAC方式、BAC方式) 4) 除去対象物を確認したか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
		5) 実験結果及び既設吸着池のデータを確認したか。 6) 活性炭破過曲線を確認したか。 7) 破過日数を確認したか。 8) 活性炭再生頻度は適正か。 (吸着継続時間) 9) 活性炭通水倍量を確認したか。 10) 活性炭張込み、引抜き、移送方法を検討したか。 11) 接触時間、線速度、空間速度炭層厚は適切か。 12) 通水抵抗は適切か。 13) 初期損失水頭は適切か。 14) ろ層構成は検討されているか。 15) 洗浄サイクルは適切か。 16) 吸着池数、吸着池面積は適切か。 17) 予備池は設置されているか。 18) 流量制御方式の検討がなされているか。 19) 洗浄方式(表面洗浄、逆流洗浄空気洗浄) の検討はなされているか。 20) 逆流洗浄方式(ポンプ洗浄、自己水洗浄、洗浄タンク)の検討はなされているか。 21) 洗浄時間、洗浄水量及び水圧の検討はなされているか。	検討書 計算書 検討書 検討書 検討書 検討書 検討書 検討書 計算書 検討書 検討書 検討書 検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
		22) ろ層の膨張倍率は、検討されているか。 23) 集水渠、浄水渠は設置されているか。 24) 下部集水装置の検討がなされているか。 25) 砂利層の仕様は決定しているか。 26) 洗浄排水渠、トラフは適切か。 27) 覆がいされているか。 28) 活性炭の状態(洗浄時)を確認できる覗き窓が設置されているか。 29) 水質試験用採水方法は、検討されているか。 30) 排水及び池洗浄用施設は検討されているか。 31) 池内落下防止は、検討されているか。 32) 管防護及び支持方法は適正か。 33) 越流堰は適切か。 34) 危機管理及び安全対策は充分か。 (窓、ドア、鍵) 35) 配管材質は適切か。(電食磨耗対策) (s u s 材) 36) バルブ材質は適切か。 (電食磨耗対策) (s c s 材)	検討書 検討書 一般計装計画書			
	(7) 仮設工	1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について)	仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(8) 施工計画	4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。 8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等) 1) バルブ、管、機械設備、計装設備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
11	生物処理設備 (ハニコーム) (1) 一般図	1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式－1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)	設計条件検討書			
	(2) 水理計算(容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L. , L. W. L.)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 仮設工	<p>13) 短絡流による効率低下についての対策を検討したか。</p> <p>14) 遮光対策を検討したか。</p> <p>15) 陰イオン界面活性剤の対応策を検討したか。</p> <p>16) 池内落下防止は、検討されているか。</p> <p>17) 水質試験用採水方法は、検討されているか。</p> <p>18) 排水及び池洗浄用施設は検討されているか。</p> <p>19) 池内落下防止は、検討されているか。</p> <p>20) 管防護及び支持方法は適正か。</p> <p>21) 越流堰は適切か。</p> <p>22) 危機管理及び安全対策は充分か。 (窓、ドア、鍵)</p> <p>1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。</p> <p>2) 適用基準は正しいか。</p> <p>3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について)</p> <p>4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。</p> <p>5) 経済性が配慮されているか。</p> <p>6) 土質条件の設定は適正か。</p> <p>7) 地下水位の設定は適正か。</p> <p>8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。</p>	<p>検討書</p> <p>検討書</p> <p>一般計装計画書</p> <p>仮設検討書</p> <p>施工計画書</p>			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
12	(8) 施工計画	9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等)				
	排水池 (1) 一般図	1) バルブ、管、機械設備、計装設備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。 1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式－1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(2) 水理計算(容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L. , L. W. L.)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 荷重の設定は正しいか。 5) 荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を配慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(5) 基礎構造	1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか 6) 近接の問題はないか。 7) 適用基準は正しいか。 8) 設計理論と解析手法は妥当か。 9) 施工法を配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 10) 材料使用区分は妥当か。 11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等) 12) 埋設物との取合いは問題ないか。 13) 地盤改良の必要性を確認したか。	全体一般図及び設計条件検討書			
	(6) 付帯工事及び配管工事	1) クローズドシステムとして計画されているか。 2) 沈降分離を計画しているか。 (連続式、回分式) 3) 受入量を確認したか。 (ろ過池洗浄水量、吸着池洗浄水量、濃縮槽上澄水、サンプリングポンプ余剰水、天日乾燥床ろ過水、機械脱水ろ過水)	排水処理計画書 排水処理計画書 排水処理計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 仮設工	4) 受入サイクル計画書があるか。 5) 流入スラッジ量を計算したか。 (ろ過池、吸着池等) 6) 返送流量サイクルを検討したか。 7) 沈降スラッジ掻寄せ装置を検討したか。 8) スラッジの返送(排泥池)が可能か。 9) 可動集水装置を検討したか。 10) 池底勾配を設けたか。 11) 水質試験用採水方法は、検討されているか。 12) 排水及び池洗用施設は検討されているか。 13) 池内落下防止は、検討されているか。 14) 管防護及び支持方法は適正か。 15) 危機管理及び安全対策は充分か。 (窓、ドア、鍵) 1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しい。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。	計画書 計画書 検討書 検討書 検討書 検討書 一般計装計画書 仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(8) 施工計画	6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。 8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等) 1) バルブ、管、機械設備、計装装備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
13	排泥池 (1) 一般図	1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式-1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)	設計条件検討書			
	(2) 水理計算(容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H.W.L., L.W.L.)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(5) 基礎構造	9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を配慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。 1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 近接の問題はないか。 7) 適用基準は正しいか。 8) 設計理論と解析手法は妥当か。 9) 施工法を配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 10) 材料使用区分は妥当か。 11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等) 12) 埋設物との取合いは問題ないか。 13) 地盤改良の必要性を確認したか。	全体一般図及び設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(6) 付帯工事及び配管工事	1) クローズドシステムとして計画されているか。 2) お泥攪拌装置を検討したか。 3) 受入量を確認したか。 (沈澱池排泥量、排水池排泥量等) 4) 受入サイクル計画書があるか。 5) 返送流量サイクルを検討したか。 6) 池底勾配を設けたか。 7) お泥試験用採泥方法は、検討されているか。 8) 排水及び池洗浄用施設は検討されているか。 9) 池内落下防止は、検討されているか。 10) 管防護及び支持方法は適正か。 11) 危機管理及び安全対策は充分か。 (窓、ドア、鍵)	排水処理計画書 排水処理計画書排 水処理計画書 計画書 計画書 一般計装計画書			
	(7) 仮設工	1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な 配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定し適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。	仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
14	(8) 施工計画	8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等)	設計条件検討書			
	濃縮槽 (1) 一般図	1) バルブ、管、機械設備、計装装備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。 1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(2) 水理計算(容量を含む)	2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式－1 設計基本条件との整合性がはかられているか。) 1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L. , L. W. L.)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を配慮しているか。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(5) 基礎構造	12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。 1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 近接の問題はないか。 7) 適用基準は正しいか。 8) 設計理論と解析手法は妥当か。 9) 施工法を配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 10) 材料使用区分は妥当か。 11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等) 12) 埋設物との取合いは問題ないか。 13) 地盤改良の必要性を確認したか。	全体一般図及び設計条件検討書			
	(6) 付帯工事及び配管工事	1) クローズドシステムとして計画されてい	排水処理計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
		2) 計画処理固形物量が計算されているか。 (夏期、冬期、洪水時)	排水処理計画書			
		3) 粉末活性炭が考慮されているか。	排水処理計画書			
		4) 沈澱池に貯留機能があるか。	計画書			
		5) シリンダーテスト(沈降濃縮特性)は実施されているか。 (夏期、冬期、洪水時)	検討書			
		6) 同一取水源のデータを比較したか。	検討書			
		7) リーフテスト、モデルプラントにより脱水性を確認したか。 (同一取水源のデータと比較)	検討書			
		8) 後続の脱水工程の設備との関係を確認したか。	排水処理計画書			
		9) アルミニウムの添加比(A L / T比)を確認したか。				
		10) 滞留時間、固形物負荷は適切か。				
		11) 清澄条件、濃縮条件の面積を算定したか。 (安全率確認のこと)	計算書			
		12) 受入量サイクルを検討したか。	検討書			
		13) 連続式濃縮槽として検討しているか。	検討書			
		14) 堰負荷率は適正か。	計算書			
		15) 池底勾配を設けたか。				
		16) お泥試験用採泥方法は検討されているか。	一般計装計画書			
		17) 排水及び池洗浄用施設は検討されているか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 仮設工	18) 池内落下防止は、検討されているか。 19) 管防護及び支持方法は適正か。 20) 危機管理及び安全対策は充分か。 (窓、ドア、鍵) 1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定し適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。 8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ボイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。	仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
15	(8) 施工計画	16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等) 1) バルブ、管、機械設備、計装装備等の搬入口はあるか。 2) ホイスト、クレーン、フック等は検討されているか。 3) 搬入路は確保出来るか。				
	天日乾燥床 (1) 一般図	1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式-1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)	設計条件検討書			
	(2) 水理計算(容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L. , L. W. L.)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を配慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13) 基礎構造は適正か。	設計条件検討書 構造計算書			
	(5) 基礎構造	1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 近接の問題はないか。 7) 適用基準は正しいか	全体一般図及び設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(6) 付帯工事及び配管工事	8) 設計理論と解析手法は妥当か。 9) 施工法を配慮しているか。 (運搬路、施工方法と順序、施工ヤード等) 10) 材料使用区分は妥当か。 11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等) 12) 埋設物との取合いは問題ないか。 13) 地盤改良の必要性を確認したか。 1) 目標含水率は適正か。 2) スラッジ負荷は適正か。 (実験又は他都市との比較) 3) 張込みサイクルは適正か。 (排泥頻度、乾燥所要日数、スラッジ量の変動) 4) 有効水深は適切か。 5) 貯留機能が確保できるか。 6) ケーキ搬出方法を検討したか。 7) 上澄水取り出し装置は適切か。 (可動堰、ゲート、角落し) 8) 下部集水装置は適切か。 (ろ床、集水管、逆洗管、空気吹込み装置) 9) 張込み分散方法が適切か。 10) 池底勾配を設けたか。	排水処理計画書 排水処理計画書 排水処理計画書 検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 仮設工	11) 池洗浄用施設は検討されているか。 12) 管防護及び支持方法は適正か。 1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。 8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等)	仮設検討書 施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
16	(8) 施工計画	1) バルブ、管、機械設備、計装設備等の搬入口はあるか。 2) 搬入路は確保出来るか。				
	高架水槽 (1) 一般図	1) 場内一般平面図で位置(座標)を確認できるか。 2) 平面図、断面図の作成枚数は適正か。 (様式－1 設計基本条件との整合性がはかられているか。)	設計条件検討書			
	(2) 水理計算(容量を含む)	1) 水理計算を確認したか。 (H. W. L. , L. W. L.)	水理計算書			
	(3) 荷重条件	1) 地下水位の設定は適正か。 2) 各単位重量及び各荷重は適正か。 3) 静止土圧係数は適正か。 4) 鉛直荷重の設定は正しいか。 5) 水平荷重の設定は正しいか。 6) 特殊荷重は考慮されているか。	構造計算書			
	(4) 本体構造物	1) 適用基準は適正か。 2) 設計断面の位置は適正か。 3) 設計モデルは適正か。 4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。	設計条件検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(5) 基礎構造	5) 仮設時を考慮しているか。 6) 使用材料、許容応力度は適正か。 7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 8) 材料使用区分は適正か。 9) 継手の構造形状、材質は適正か。 10) 防水防食工の材質は適正か。 11) 施工方法を配慮しているか。 12) 耐震設計(縦断方向、浮き上がり)は考慮されているか。 13))基礎構造は適正か。 1) 基礎形状は妥当か。 (直接基礎・杭・地盤改良等) 2) 土質常数の設定は妥当か。 3) 形式、寸法は妥当か。 (杭であれば、杭種、杭径等) 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 液状化は問題ないか。 6) 近接の問題はないか。 7) 適用基準は正しいか。 8) 設計理論と解析手法は妥当か。 9) 施工法を配慮しているか。 (運搬工方法と順序、施工ヤード等) 10) 材料使用区分は妥当か。	全体一般図及び設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(6) 付帯工事及び配管工事	11) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、段落し等) 12) 埋設物との取合いは問題ないか。 13) 地盤改良の必要性を確認したか。 1) 使用目的を確認したか。 a.ろ過池、吸着池の洗浄用 b.場内給水用 c.薬注設備(特に塩素設備) d.場内調圧(水槽と兼用) 2) 使用目的による高さ(水圧は)適切か。 3) 形式は決定されているか。 (鉄筋コンクリート製、プレストレストコンクリート製、鋼製) 4) 地震時の水面動揺による影響を検討しているか。(構造、水位) 5) 管廊部結露防止対策を実施しているか。(特に鋼製) 6) 電食防止対策を実施しているか。(特に鋼製) 7) 越流、排水設備は適切か。 8) 換気装置、人孔は適切か。 9) 電波障害の有無を確認したか。 10) 建築基準法に適合しているか。 11) 管防護及び支持方法は適切か。	基本条件検討書 計算書 基本条件検討書 検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(7) 仮設工	1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 材料の選定は適正か。 (リース材、生材等について) 4) 切梁、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配置となっているか。 5) 経済性が配慮されているか。 6) 土質条件の設定は適正か。 7) 地下水位の設定は適正か。 8) 上載荷重の選定及び載荷状態は適正か。 9) 覆工板の材質及び形状寸法は適正か。 10) 山留め形式の選定は適正か。 11) 山留め区分(中規模土留め、中規模仕切り、大規模山留め)は適正か。 12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 13) 中間杭の位置、ピッチは適正か。 14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているか。 15) ポイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 16) 補助工法の選定、範囲は適正か。 (ディープウェル、地盤改良等)	仮設検討書 施工計画書			
	(8) 施工計画	1) バルブ、管、計装装備等の搬入口はあるか。 2) 搬入路は確保出来るか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
17	場内連絡管 (1) 配置・構造	1) 緊急時のことを考慮してブロック間の切替えができる構造となっているか。 2) 将来の増設、改造等に備えて、収容スペースに余裕を見込み、作業性の良い配管としておくなどの配慮をしているか。 3) 複数の連絡管や側管を考慮しているか。 また、側管には排水管を設けているか。	設計条件検討書			
	(2) 口径・流速	1) 各系統ごとのろ過池・沈澱池などへ管路の損失水頭が均等になっているか。 2))使用目的に応じた流速を備え、これが速すぎて磨耗したり、遅すぎてスラッジなどが停滞する恐れがないようになっているか。 3) 損失水頭の計算は、摩耗損失水頭のほか流入・断面変化・曲がりなど、全ての損失水頭を考慮しているか。	設計条件検討書 水理計算書			
	(3) 管種・配管	1) 管種は、場内連絡管の使用目的を考慮し、内・外圧に対して安全であること、布設場所(環境)に適合していること及び布設場所に適合した施工性を有していること等から選定されているか。	構造計算書 設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(4) 施工計画	<p>2) 構造物と連絡管との間などに不同沈下・温度変化等に対処するため伸縮可とう管を設置されているか。</p> <p>3) 構造物の壁を貫通する場合などパドルカラーを設け水密性を確保しているか。</p> <p>4) 配管状態を考慮し、空気弁などエア－抜き装置を適宜設置しているか。</p> <p>5) 地震時などに備えて、必要な箇所には緊急遮断弁(扉)の設置を考慮しているか。</p> <p>6) 管のコンクリート貫通部、異種土壌間の布設部及び異種金属間の接続部には、マクロセル腐食が発生しないように、あらかじめ腐食上適切な措置を講じているか。</p> <p>1) 構造物築造工事との施工順序・時期などで整合しているか。</p> <p>2) 留め・仮設道路などの仮設物を共用できるか検討したか。</p> <p>3) 経済性・施工性・安全性から工法の比較選定が行われているか。</p> <p>4) 補助工法(地盤改良等)の必要性を検討しているか。</p>				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
18	<p>場内整備</p> <p>(1) 場内排水施設</p> <p>(2) 管理用道路</p> <p>(3) 外構施設</p>	<p>1) 場内各施設からの排水の種類及び計画水量を確認したか。</p> <p>2) 種別(雨水・場内排水)による排水処理の方式について、比較検討のうえ選定し</p> <p>3) 排水施設の構造・口径・管種等が建築基準及び指導要綱などを遵守したものとなっているか。</p> <p>4) 排水施設について監督官庁と協議が整っているか。</p> <p>5) 生活排水、水質試験水排水は、他の一般排水と個別の配管となっているか。</p> <p>1) 保守管理を要する場内施設及び出入り車両の規模を確認したか。</p> <p>2) 構造については、道路舗装要綱等技術基準に基づき決めているか。</p> <p>外構のり面、侵入防止用フェンス、正門及び通用門の構造・仕様等について、関連基準に適合しているか。</p>	<p>設計条件検討書</p> <p>水理計算書</p> <p>構造計算書</p> <p>設計条件検討書</p> <p>構造計算書</p>			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(4) 場内植栽	1) 植栽の種類・規模については、市町村の条例に適合しているか。	設計条約検討書			
	(5) その他の施設	ケーブル収容施設、収容トラフ類、場内照明設備及び場内排水設備の構造・仕様等について、関連基準に適合しているか。	設計条件検討書 構造計算書			
	(6) 施工計画	1) 構造物築造工事との施工順序・時期などで整合しているか。 2) 土留め・仮設道路などの仮設物の共用できるかを検討したか。 3) 経済性・施工性・安全性から工法の比較選定が行われているか。 4) 工法(地盤改良等)の必要性を検討しているか。				
19	共同溝	1) 各施設間を結ぶ電気・計装ケーブル、薬品注入・サンプリング配管等の収納する種類・規模を整理・確認したか。 2) 共同溝の構造・設備については建築基準法・消防法等法令に適合しているか。 3) 施工計画 a 構造物築造工事と施工順序・時期などで整合しているか。	設計条約検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
20	仮設構造物 （１）設計の目的・範囲	<p>b 土留め・仮設道路などの仮設物を共用できるか検討したか。</p> <p>c 経済お政・施工性・安全性から工法の比較W選定が行われていおるか。</p> <p>d 補助工法（地盤改良等）の必要性を検討しているか。</p> <p>1) 本體工との整合はとれているか。</p> <p>2) 設計の範囲、内容、数量、工程は確認しているか。</p> <p>3) 隣接工区との関係を確認したか。</p>	基本条件検討書			
	（２）現地調査	<p>1) 地形状況を把握したか。 （おぼれ谷、旧河川等）</p> <p>2) 周辺の状況を把握したか。</p> <p>3) 周辺の構造物との関係を把握したか。 （近接構造物との関係、影響度）</p> <p>4) 環境の状況を把握したか。 （騒音、振動等の配慮）</p> <p>5) ボーリング図は適正か。 （近接工区との関連性等）</p>	基本条件検討書			
	（３）設計基本条件	<p>1) 設計基準を決定したか。</p> <p>2) 工法の比較検討は適正か。</p>	基本条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(4) 施工上の基本条件	3) 設計荷重は適正か。(一般自動車、特殊車、施工時荷重等) 4) 使用材料、材質、強度等の確認を行ったか。(生材、リース材等) 1) 本體工との離れ等の関係は適正か。 2) 運搬路、迂回路の確保の見通しはどうか。 3) 施工時の用地占有及び近接状況の確認がなされているか。 4) 工事時期と工程が明確になっているか。 5) 覆工の必要性の検討はなされてるか。	基本条件検討書			
	(5) 関連機関との調整	埋設物の切回し又は仮受け等について関係機関との協議がなされているか。	関連機関との協議書 議事録			
	(6) 貸与資料	設計に必要な貸与資料を確認したか。 (地質調査報告書・測量成果品等)				
	(7) 仮設工法の選定	1) 経済性・施工性・安全性の面から総合的に工法の比較検討が行われているか。 2) 周辺の条件、交通処理の方法を考慮しているか。 3) 施設構造物への影響を考慮しているか。 4) 隣接工区と整合は取れているか。	基本条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
	(8) 設計計算	5) 補助工法(地盤改良等)の必要性を検討したか。 6) 覆工の必要性を検討したか。 1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 設計上の条件設定は整理されているか。 (地質条件、土質条件荷重条件、水位、計算方法、隣接工区との条件の整合等) 3) 設計項目は充分か。 (ポイリング、ヒービング等) 4) 指定された規定を満足しているか。 (「建設工事公衆災害防止対策要綱」等) 5) 設計結果は許容範囲内か。 (許容応力度、変位量等) 6) 施工上の配慮がなされているか。 (本体工との離れ、本体工の施工順序との関係、撤去、盛替え等)	設計計算書			

成果品の照査項目一覧表

(照査③)

業務名：

発注者名： 北千葉広域水道企業団

受託者名：

照査の日付：令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査③		備 考
				該当対象	照 査	
1	設計報告書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 設計位置、設計適用範囲は適正か。 3) 設計条件、施工条件は適正に運用されているか。又、他の設備(電気・機械・計装)の設計条件と整合がとれているか。 4) 安定計算結果は許容値を満たすか。 (安全率、変位量、許容応力度、根入れ長さ) 5) 許容値の取り方は正しいか。	設計計画書 設計計画書 施工計画書 イメージアップ検討等書			
2	設 計 図	1) 縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と整合されているか。 2) 打合せ事項は反映されているか。 3) 必要寸法、部材形状及び寸法等にもれはないか。 4) 全ての図面において平面と縦断面図、あるいは平面図と横断面図等とが整合しているか。 5) 各設計図面がお互いに整合がとれているか。(一般平面図・構造図・配筋図・仮設図・付帯設備等) 6) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。(特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合されているか) 7) 付属金物類が適正に配置されているか、足りないものはないか。又、余分なものはないか。 8) 付帯する設備(電気・機械・計装・場内連絡管等)と整合されているか。	各設計図			

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査③		備 考
				該当対象	照 査	
3	数量計算書	1) 数量計算は適用基準あるいは打合せ事項と整合しているか。(工種区分、単位、有効数字、位取り区分等) 2) 数量計算に用いた数値は、設計図面と一致しているか。 3) 数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打合せと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。 4) 各ブロック毎の数量的バランスは適正か。	数量計算書			
4	設計調書	1) 調書の記入は適正にされているか。 2) マクロ的（他工事区等とオーダー的に比較して）に見て問題はないか。	設計調書			

施設名	(取・浄・送水施設)
(全体平面図)	
(水位高低図)	

施設名	(取・浄・送水施設)	構造物名	
(平面図)			(断面図-1)
			(断面図-2)

施設名		(取・浄・送水施設)		構造物名					
番号	形状寸法	断面力			鉄筋量 (t/m ³)	応力度 (kg/f cm ²)			
		曲げモーメント(tm)	せん断力(t)	軸力(t)		鉄筋引張り	コンクリート曲げ圧縮	コンクリートせん断	
頂版○									
○									
○									
底版○									
○									
○									
導流壁○									
○									
○									
柱 ○									
○									
○									
側壁○									
○									
○									
基礎	直接基礎	常時	支持力 転倒 滑動	< > >	使用材料	コンクリート			
		地震時	支持力 転倒 滑動	< > >		鉄筋			
	杭基礎	常時	杭反力 杭頭変位	< <		防食工			
		地震時	杭反力 杭頭変位	< <		管類			
	杭種						弁類		
	杭径×杭長×本数		m× m× 本、	m× m× 本			取付金物		

施設名	(取・浄・送水施設)	構造物名									
(平面図)			区分	層厚	N	γ	C	ϕ	種類	(注) 1. 土の種類 ①砂質土 ②粘性土 $N > 5$ ③粘性土 $N \leq 5$ 2. ボーリング図の出典を記入する 3. 水位を明示する	
			I								
(断面図)			II								
			III								
			IV								
			V								
			(ボーリング図)								

項 目			設 計 結 果 (計 算 値 と 使 用 値)	備 考	
土 留 工	親 杭 方 式	土 留 杭	根 入 長		
			断 面 寸 法		
			応 力 度		
			支 持 力		
			最 大 変 位		
	鋼矢板方式 (連続 地中壁)	土 留 板	断 面 寸 法		
			応 力 度		
	支 保 工	腹起し段目	根 入 長		
			断 面 寸 法		
			応 力 度 及 び 安 全 度		
		切梁 段目	間 隔		
断 面 寸 法					
応 力 度 及 び 安 全 度					
火 打 ち		断 面 寸 法			
		応 力 度			
中 間 杭		間 隔			
		断 面 寸 法			
		支 持 力			
補 助 工 法					

(注)

※1：次の計算ケースにより決定されたものを選ぶ。

- ① 掘削完了時
- ② 最下段切梁設置直前
- ③ 撤去時
- ④ 盛替時

※2：次の計算ケースにより決定されたものを選ぶ。

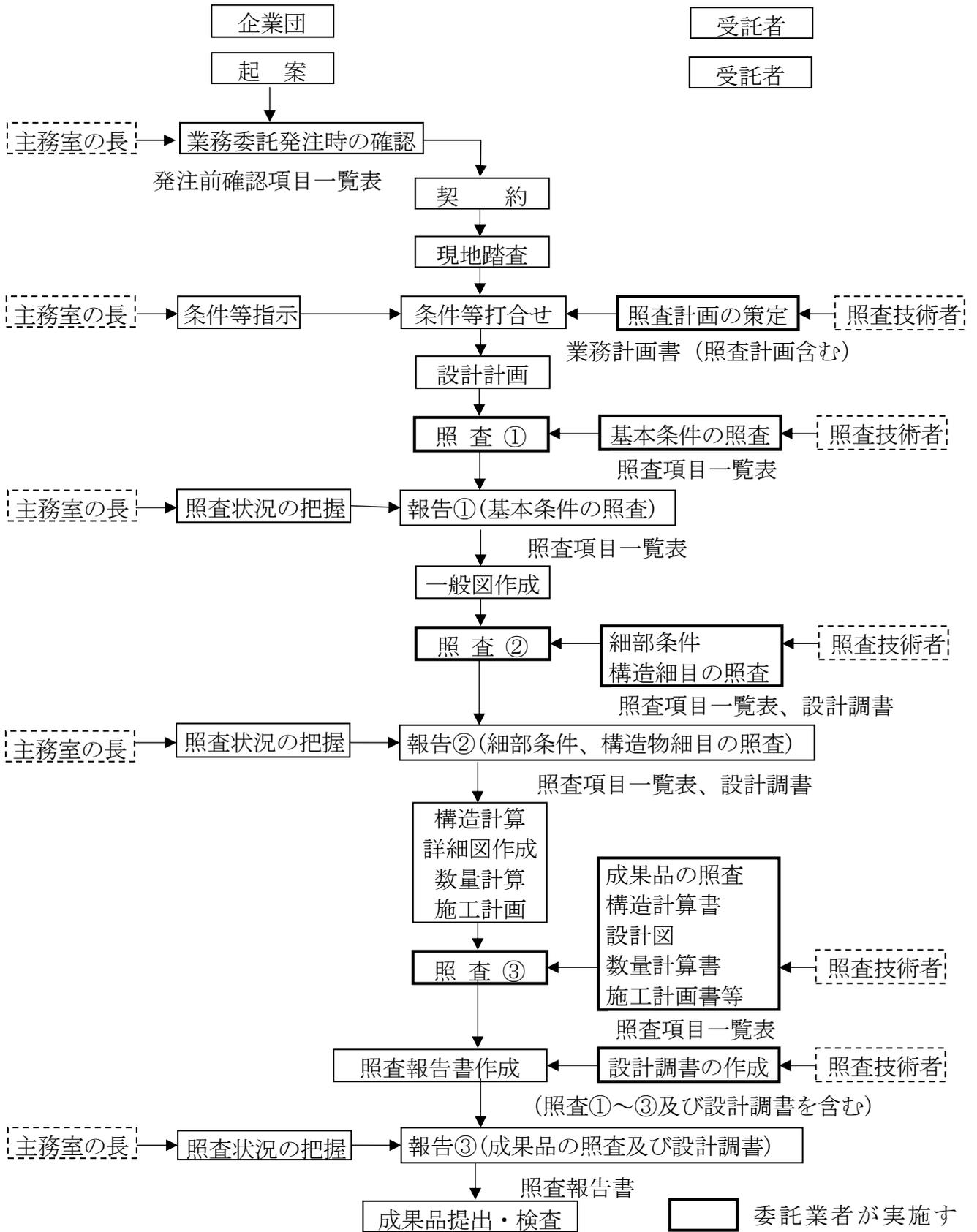
- ① (つりあい深さ) XL. 2以上
- ② ポイリングに対する必要長
- ③ ヒービングに対する必要長
- ④ 30m以上

※3：「建設工事公衆災害防止対策要綱」による。

4. 設備工事（電気・機械・計装）

実施設計業務委託
照査項目一覧表

実施設計業務委託照査フローチャート



- 注記
1. 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。
 2. 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画提出時に打合せにより設定する。

基本項目一覧表（設備工事）

No. 1

発注前確認	照査①	照査②	照査③
<p>「共通事項」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業の計画条件の整理と設計目的 2. 設計条件及び設計の基本条件 3. 基本システムの検討 4. 設備設計に関する全体工程の検討 5. 成果品内容 	<p>「共通事項」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 設計条件・方針に基づく基本システムの構築 2. 設備設計に伴う関連条件の整理・検討 3. 実施設計用の仕様書の作成準備 4. 安全対策の検討 5. 試験・試運転の検討 6. 施設管理方法の検討 <p>「各工種別事項」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受変電設備 2. 自家発電設備 3. 電気設備(負荷設備) 4. 計装設備 5. 監視制御設備 6. 遠隔監視制御設備 7. 無線設備 8. 工業用テレビ設備 9. ポンプ設備 10. 薬品注入設備(塩素設備) 11. 薬品注入設備(PAC・バンド・苛性ソーダ設備) 12. 薬品注入設備(次亜塩素ナトリウム設備) 	<p>「共通事項」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築・土木構造物との整合 2. 設備設計に伴う詳細項目の整理 3. 各機器の基本仕様確認 4. 設備の操作方法の決定 5. 安全対策 <p>「各工種別事項」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受変電設備 2. 自家発電設備 3. 電気設備(負荷設備) 4. 計装設備 5. 監視制御設備 6. 遠隔監視制御設備 7. 無線設備 8. 工業用テレビ設備 9. ポンプ設備 10. 薬品注入設備(塩素設備) 11. 薬品注入設備(PAC・バンド・苛性ソーダ設備) 12. 次亜塩素ナトリウム注入設備 13. オゾン注入設備 14. 活性炭注入設備 15. 排水処理設備 16. 各種機械設備 	<p>「共通事項」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 設備設計最終段階における詳細項目の確認 2. 概算予算の把握 3. 充水・洗浄の計画 <p>「各工種別事項」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受変電設備 2. 自家発電設備 3. 電気設備(負荷設備) 4. 計装設備 5. 監視制御設備 6. 遠隔監視制御設備 7. 無線設備 8. 工業用テレビ設備 9. ポンプ設備 10. 塩素注入設備 11. 薬品注入設備(PAC・バンド・生ソーダ設備) 12. 次亜塩素ナトリウム設備 13. オゾン注入設備 14. 活性炭注入設備 15. 排水処理設備 16. 各種機械設備

基本項目一覧表（設備工事）

No. 2

発注前確認	照査①	照査②	照査③
	13. オゾン注入設備 14. 活性炭注入設備 15. 排水処理設備 16. 各種機械設備 「諸官庁等の手続事項」 1. 東京電力(株) 2. 消防関係 3. 通商産業省(関東通商産業局) 4. 郵政省(関東電気通信管理局) 5. 県保安課 6. 市町村 7. 労働基準監督署	「諸官庁等の手続事項」 1. 東京電力(株) 2. 消防関係 3. 通商産業省(関東通商産業局) 4. 郵政省(関東電気通信管理局) 5. 県保安課 6. 市町村 7. 労働基準監督署	「諸官庁等の手続事項」 1. 東京電力(株) 2. 消防関係 3. 通商産業省(関東通商産業局) 4. 郵政省(関東電気通信管理局) 5. その他

発注前確認項目一覧表

業務名：

設計者所属・氏名：

発注前確認項目一覧表

No.	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
1	「共通事項」 事業の計画条件の整理と設計目的	1) 設計目的は明確になっているか。	特記仕様書			
2	設計条件及び設計の基本条件	1) 計画水量、時間最大最小水量の確認はしたか。 2) 地域条件・環境条件への配慮はしたか。 a. 付近の施設、住居道路の状況、電力線等の状況 b. 塩害、ほこり等の状況 3) 水質状況の確認はしたか。 a. 特殊処理等の必要性 4) 将来計画の確認はしたか。 a. 予備・増設への配慮 b. 年次別水量等 5) 経済性への配慮はしたか。 a. 省エネ、省力化・費用 6) 施設の管理体制の確認はしたか。 a. 有人機場か、遠隔制御される機場か。	特記仕様書			
3	基本システムの検討	1) 基本システムフローの確認はしたか。 2) 設備構成の検討はしたか。 a. 受変電設備 b. 自家発電設備 c. 電気設備(負荷設備) d. 計装設備 e. 監視制御設備	特記仕様書			

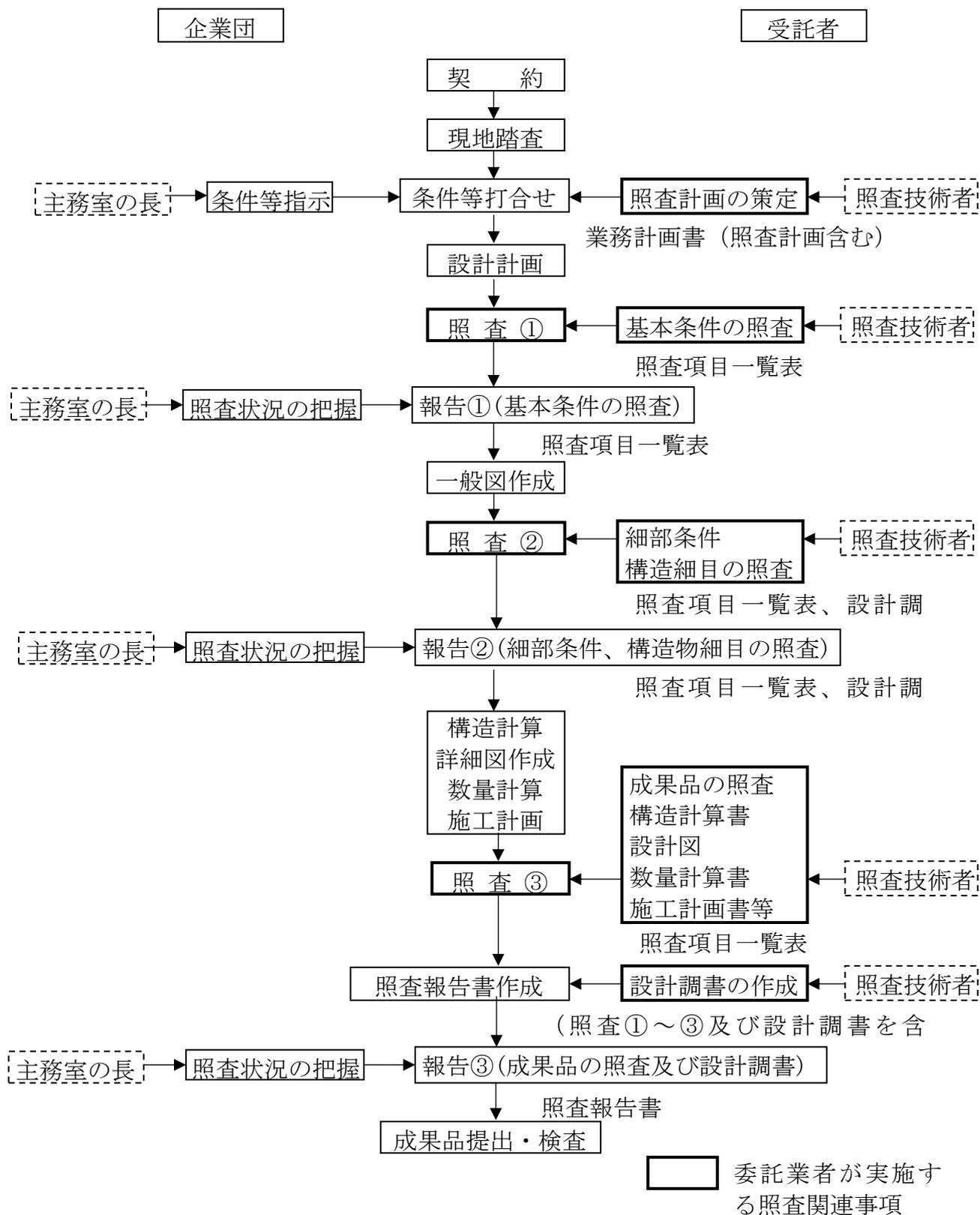
発注前確認項目一覧表

No.	項 目	主 な 内 容	確 認 資 料	該 当 対 象	確 認	備 考
		f. 遠隔監視制御設備 g. 無線設備 h. 工業用テレビ設備 i. ポンプ設備 j. 薬品注入設備(塩素設備) k. 薬品注入設備(PAC・バンド・苛性ソーダ設備) l. オゾン注入設備 m. 活性炭注入設備 n. 排水処理設備 o. 各種機械設備				
4	設備設計に関する全体工程の検討	1) 設備設計に関する全体工程の確認はしたか。	特記仕様書			
5	成果品内容	1) 成果品の提出書類の確認はしたか。 a. 設備計画検討書 b. 実施作業内容フローシート c. 打ち合わせ図 d. 決定図 e. 各計算書 f. 金抜設計書 g. 概算工事費計算書 h. 製造可能メーカー一覧表 i. 関連官庁手続等一覧表 j. 原図 k. 図面製本	特記仕様書			

設備工事実施設計業務委託

照査項目一覧表

実施設計業務委託照査フローチャート



注記 1. 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。
 2. 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打合せにより設定する。

照査項目一覧表の記載について

- (1) 照査項目一覧表の記載は、項目の順に行い該当対象項目に○印を記入する。
- (2) 各照査段階において、照査の済んだ項目に○印と日付を記入し、照査された項目と照査されない項目が分別できるようにする。
- (3) 照査項目は、業務内容、規模、重要度に応じて追加又は削除することが出来る。
なお、追加する場合は別紙に新たな照査項目を明記する。
- (4) 照査項目一覧表のみでは、照査した内容を説明しにくい場合は、提示資料欄に必要となる検討書、図面等の資料項目を明示し、一覧表に添付して提出する。
- (5) 各段階の照査が完了したときは、照査技術者及び業務主任技術者の確認済みのものを提出する。
照査技術者及び業務主任技術者は各段階の照査完了時に、確認欄に「済」を記入する。

基本条件の照査項目一覧表

(照 査 ①)

業務名：

発注者名： 北千葉広域水道企業団

受託者名：

照査の日付：令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
1	「共通事項」 設計条件・方針に基づく、基本システムの構築	1) 設備計画に伴う、建築・土木構造物への対応は、考慮したか。 a. 建築物床耐荷重・部屋毎の条件検討 b. 搬入道路、室内への搬入方法の検討 c. 建物の防火区画について d. 仮設方法、仮設作業区域等の検討 e. 建物内の通路の検討 2) 設備方式の比較検討 3) 関係官庁との折衝・手続き等の確認は行ったか。 4) 関連規格の整理・検討 5) 使用する積算基準・仕様書の確認 6) 監視制御方法の基本についての検討 7) 基本設計に基づく、基本浄水フロー・制御フローの作成 8) 工事区分の計画	設備計画書			耐震基準のある設備（塩素設備等）
2	設備設計に伴う関連条件の整理・検討	1) 各工事間のインターフェースの基本について 2) 各機器間のインターロックについて 3) 接地系統の基本について 4) 耐震設計について 5) 停電・復電の処理について 6) 保護方式・保護協調について 7) 監視制御の制御電源について 8) 浄水フロー・制御フローの作成	設備計画書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
3	実施設計用の仕様書の作成準備	1) 共通仕様書との照合をしたか。 2) 厚生省設計指針との整合の検討はしたか。	設備計画書			
4	安全対策の検討	1) 安全対策への配慮はなされたか。				
5	試験・試運転について	1) 試運転等の検討はなされたか。				
6	施設管理方法の検討	1) 施設管理方法の検討はなされたか。				
1	「各工種別事項」 受変電設備	1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 契約電力の算定 b. 設備方式案の作成 c. 関係官庁との折衝 d. 設備方式の決定 e. 容量及び電圧の決定 f. 保護方式の決定 g. インターロックの決定 h. 力率調製装置の決定 i. 受電設備の安全対策について	設備計画書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
2	自家発電設備	1)以下の項目の検討はなされたか。 a. 自家発対象負荷(消防対象負荷を含む) についての検討 b. 容量の決定 c. エンジンの決定 d. 運転時間(燃料油量)の決定 e. 関係官庁との折衝 f. 保護協調の決定 g. 消防関連設備(消火設備・危険物等) の条件整理 h. 排気設備の建築物との工事区分	設備計画書			
3	電気設備(負荷設備)	1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 二重化の検討 b. 配電方式の決定 c. 関係官庁との折衝 d. 保護方式の決定 e. 直流電源設備・無停電電源装置の検討 f. インターロックの決定 g. 力率調整装置の決定	設備計画書			
4	計装設備	1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 監視制御方式の決定 b. 計装機器の選定の検討	設備計画書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
5	監視制御設備	c. 無停電化の検討 d. 検出装置の設置位置及び箇所 の検討 1) CPUの機能を考慮した、システム設計の検討はなされたか。 2) 電気設備、計装設備との施工区分の検討はなされたか。				
6	遠隔監視制御設備	1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 二重化の検討 b. 制御時間応答の検討 c. 切替時の安全性についての検討 (バンプレス等)	設備計画書			
7	無線設備	1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 二重化の検討 b. 関係官庁との折衝 c. 鉄塔が重要無線の指定区域内でないことの確認 d. 無停電化の検討 e. 有線方式との比較検討	設備計画書			
8	工業用テレビ設備	1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 利用方法の検討	設備計画書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
9	ポンプ設備	b. 設備方式の検討 監視制御方式の検討 1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 計画水量、時間最大最小水量の決定 b. 予備機の検討 c. 台数の決定 d. 全揚程の決定 e. ポンプ形式の決定 f. 制御方式の検討 g. ポンプ性能曲線の作成 h. 電動機容量等の決定 i. 管路条件の検討 j. キャビテーションの検討 k. 水撃作用(ウォーターハンマ)の検討	設備計画書			
10	薬品注入設備(塩素設備)	1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 現在の水質状況の確認 b. 薬品の種類についての多方面からの比較検討 c. 注入方式の比較検討 d. 運転管理費用の比較検討 e. 維持管理の比較検討 f. 注入量・処理量に対する最大値・最小値の検討	設備計画書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
11	薬品注入設備（PAC・ノバンド・苛性ソーダ設備）	<p>g. 保安についての検討 h. 制御方法についての検討 i. 耐震設計について関係官公庁等の折衝 j. 排液設備の検討</p> <p>1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 現在の水質状況の確認 b. 薬品の種類についての多方面からの比較検討 c. 注入方式の比較検討 d. 運転管理費用の比較検討 e. 維持管理の比較検討 f. 注入量・処理量に対する最大値・最小値の検討 g. 貯蔵方式の検討 h. 保安についての検討 i. 制御方法についての検討 j. 排液設備の検討</p>	設備計画書			
12	薬品注入設備（次亜塩素ナトリウム設備）	<p>1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 現在の水質状況の確認 b. 薬品の種類についての多方面からの比較検討（市販、生成次亜） c. 注入方式の比較検討</p>	設備計画書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
13	オゾン注入設備	<ul style="list-style-type: none"> d. 運転管理費用の比較検討 e. 維持管理の比較検討 f. 注入量・処理量に対する最大値・最小値の検討 g. 保安についての検討 h. 制御方法についての検討 i. 排液設備の検討 <p>1) 以下の項目の検討はなされたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 現在の水質状況の確認 b. 注入方式の比較検討 c. 注入量・処理量に対する最大値・最小値の検討、台数の決定 d. 運転管理費用の比較検討 e. 維持管理の比較検討 f. 保安についての検討 g. 制御方法についての検討 h. 接触時間の検討 i. 排ガス処理方式の検討 	設備計画書			
14	活性炭注入設備	<p>1) 以下の項目の検討はなされたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 現在の水質状況の確認 b. 注入方式の比較検討 c. 注入量・処理量に対する最大値・最小値の検討、台数の決定 	設備計画書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
15	排水処理設備	d. 運転管理費用の比較検討 e. 維持管理の比較検討 f. 制御方法についての検討 1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 現在の水質状況の確認 b. 処理方式の比較検討 c. 運転管理費用の比較検討 d. 維持管理の比較検討	設備計画書			
16	各種機械設備	1) 以下の項目の検討はなされたか。 a. 各種機器についての多方面からの比較 b. 運転管理費用の比較検討 c. 維持管理の比較検討 d. 制御方法についての検討	設備計画書			
1	「諸官庁等の手続事項」 東京電力(株)	1) 東京電力(株)の事前協議は済んでいるか。 a. 特高自家用受変電設備設計についてのお願いについて b. 図面協議確認シートについて c. 66KV幹線提供における保護装置工事マニュアルについて	事前協議資料			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
		<ul style="list-style-type: none"> d. 保安電話について e. P C Tへのパルス発信器取付及び出力パルス数の確認について 2) 契約電力の協議 3) 受電方式の協議及び検討 <ul style="list-style-type: none"> a. 受電設備機器の名称の決定 <ul style="list-style-type: none"> ①電源側に向かい右側から I (DS)、01 (CB)、RI (DS) ②電源側に向かい左側から 2 (DS)、02 (CB)、R2 (DS) b. 特高東電ケーブル耐圧試験用ブッシング取付スペース c. 地中引込の場合のピット・埋込金具等の協議・引込管路の協議 (地中引込ピットに当団設備が設置される場合、東京電力(株)と協議) d. リレーの整定に関する協議 e. 操作ロックに関する協議 4) 受電予定日の協議 5) 工事費負担金の協議 6) その他の協議 <ul style="list-style-type: none"> a. 検針日の確認(できるだけ毎月1日を希望する) b. 取引用計器(P C T)、計量器及び収納箱の手配について 				

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
2	消防関係	<p>c. 運用申合書の協議・初加圧手順の協議、実施細目の協議</p> <p>d. 受電状態自動伝達装置設置に関する協議</p> <p>e. 受電ルートに関する協議(施工区分の確認)</p> <p>f. 東電工事工程に関する協議</p> <p>g. 相確認に関する協議</p> <p>1) 以下の消防設備について協議は済んでいるか。 (一般消防設備)</p> <p>a. 消火器</p> <p>b. 屋内消火栓設備</p> <p>c. スプリンクラー設備</p> <p>d. 水噴霧消火設備</p> <p>e. 屋外消火栓設備</p> <p>f. 動力消防ポンプ設備</p> <p>g. 自動火災報知設備</p> <p>h. ガス漏れ火災警報設備</p> <p>i. 漏電火災警報設備</p> <p>j. 消防機関へ通報する火災報知設備</p> <p>k. 非常警報器具又は非常警報設備</p> <p>l. 避難器具</p> <p>m. 誘導灯及び誘導標識</p> <p>n. 排煙設備</p>	事前協議資料			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査①		備 考
				該当対象	照 査	
3	通商産業省(関東通商産業局)	<ul style="list-style-type: none"> o. 連結散水設備 p. 連結送水管 q. 非常コンセント設備 r. 基準の特例 2) 危険物計画により、該当の有無を検討 <ul style="list-style-type: none"> a. 危険物貯蔵所・取扱所設置 b. 小量危険物貯蔵・取扱届 c. 該当なしのもの 	検討書			
		1) 以下の協議は済んでいるか。 <ul style="list-style-type: none"> a. 受電方式・配電方式の協議 b. 監視制御方式の協議(特高変電所の遠隔制御についての協議) 	事前協議資料			
4	郵政省(関東電気通信監理局)	1) 無線回線の協議は済んでいるか。 <ul style="list-style-type: none"> a. 工事計画書(任意提出)の作成について 	事前協議資料			
5	県保安課	1) 以下の協議は済んでいるか。 <ul style="list-style-type: none"> a. 高圧ガス等 	事前協議資料			
6	市町村	1) 特定施設の協議は済んでいるか。	事前協議資料			
7	労働基準監督署	1) クレーン、エレベータ等の協議は済んでいるか。	事前協議資料			

細部条件の照査項目一覧表

(照 査 ②)

業務名：

発注者名：北千葉広域水道企業団

受託者名：

照査の日付：令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
1	「共通事項」 建築・土木構造物との 整合	1) 以下の項目は確認しているか。 a. 建築物床耐荷重・部屋毎の換気空調条件の決定 b. 搬入道路・室内への搬入方法の決定 c. 建物の防火区画についての決定 d. 仮設方法、仮設作業区域等の決定 e. ケーブル貫通等の防火区画処理の検討 f. 雨水等の進入防止対策の検討 g. 機器のメンテナンススペースの検討	検討書			
2	設備設計に伴う詳細項 目の整理	1) 以下の項目は確認されているか。 a. 各計算書等の作成に当たっての条件 (室内発熱量、耐震、電流容量、短絡容量、遮断容 量、アンカー強度)の確認 b. 数量計算書作成について c. 負荷番号の設定について d. 単位の考え方について e. インターフェースの決定について f. 接地種別の決定 g. 始動方式の検討 h. 制御方式の検討	検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
3	各機器の基本仕様確認	1) 以下の項目は確認されているか。 a. 盤の形式・構造の決定 b. 盤番号の設定 c. 盤名称の設定 d. 把手、盤内照明、コンセント、スペースヒータ等の器具について e. チャンネルベース f. 表示用ランプ g. リレー、ヒューズ類 h. 盤面取付け操作SW・保護リレー等の決定 i. 内収納機器の決定 j. 蓄電池の種類・形式の決定 k. 停電補償時間の決定	検討書			
4	設備の操作方法の決定	1) 以下の項目は決定されているか。 a. 停電時及び復電時処理について b. 操作場所の切替について c. 操作モードの切替について d. 操作の切替機器について e. 機器の選択操作について f. 警報停止について g. 表示復帰について h. 非常停止について	検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
5	安全対策	i. 起動(始動)方式について j. シーケンスについて k. 保護継電器類について l. 表示用計器について 1) 以下の安全対策が確認されているか。 a. フェイルセーフ機能 b. インターロック機能	検討書			
1	「各工種別事項」 受変電設備	1) 以下の項目は決定・検討されているか。 a. 停電・復電時の自動・手動操作の検討 ① 自家発電設備の対応 ② 常用線、予備線の対応 ③ 消防負荷の対応 b. 機器の確認 ① 機器操作順序の検討 ② インターロック ③ 単線結線図 c. 配置についての検討 d. 配線方式の決定 e. 保護方式の検討 f. 監視制御方式の確認 g. メンテナンスが安全に容易にできるか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
2	自家発電設備	1) 以下の項目は決定・検討されているか。 a. 補機電源 b. 単線結線図 c. 機器系統フロー d. 消防設備(危険物取扱所・少量危険物取扱所等の別) e. 騒音(用途地域)・振動の検討 f. 始動方式の決定 g. 配置についての検討 h. 発電機室内の換気の検討	検討書			
3	電気設備(負荷設備)	1) 以下の項目は決定・検討されているか。 a. 接地種別 b. 単線結線図 c. 配置について d. 電気室内発熱量及び換気量 e. 高調波の発生の有無及び対策	検討書			
4	計装設備	1) 以下の項目は決定・検討されているか。 a. 監視制御方法 b. 計装機器の選定 c. 計装フロー d. 無停電化の検討(計装機器の電源) e. 配置について	検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
5	監視制御設備	1) 以下の項目は決定・確認されているか。 a. CPUの機能を考慮した、システム設計 b. 監視制御フロー c. 各現場機器 d. 現場側監視制御設備 e. 中央監視制御(CRT)設備 f. 設定値の設定方法 g. 配置について h. 操作性について	検討書			
6	遠隔監視制御設備	1) 以下の項目は決定・確認されているか。 a. 二重化の決定 b. 監視制御フロー・機器系統フロー c. 伝送容量 d. 制御応答時間 e. インターフェース f. 配置について g. 接地場所の環境	検討書			
7	無線設備	1) 以下の項目は決定・確認されているか。 a. 無線鉄塔の仕様決定・及び鉄塔基礎の検討及び設計 b. 配置について c. 無線鉄塔の建築確認の有無	検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
8	工業用テレビ設備	d. 回線設計の検討 e. 設置場所の環境 1) 以下の項目は決定・確認されているか。 a. 配置について b. 最低被写体照度 c. 設備方式	検討書			
9	ポンプ設備	1) 以下の項目は決定・確認されているか。 a. 水撃作用(ウォーターハンマ)の検討による負圧防止対策 b. 配置について c. 電動機の形式 d. 騒音レベルの確認	検討書			
10	薬品注入設備(塩素設備)	1) 以下の項目は決定・確認されているか。 a. 関係官公庁との協議 b. 薬品注入計装フロー c. 監視制御フロー d. 配置について e. 制御方法について f. 稼働後の薬品搬入方法及び輸送経路 g. 予備品及び安全用具 h. 安全性及び除外設備 i. 材質	検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
11	薬品注入設備（PAC・ ノバンド・苛性ソーダ 設備）	<ul style="list-style-type: none"> j. 耐震 k. 保安物件に対する距離 l. 保安電力 m. 貯槽の容量 n. 各塩素設備室 o. 気化器・ガス溜の最大能力、容量 p. 注入機の容量 <p>1) 以下の項目は決定・確認されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 薬品注入計装フロー b. 監視制御フロー c. 配置について d. 制御方法について e. 稼働後の薬品搬入方法及び輸送経路 f. 予備品及び安全用具 g. 材質 h. 貯蔵量 i. 注入機の最大最小注入量 	検討書			
12	次亜塩素酸ナトリウム 注入設備	<p>1) 以下の項目は決定・確認されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 薬品注入計装フロー b. 監視制御フロー c. 配置について d. 制御方法について 	検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
13	オゾン注入設備	<ul style="list-style-type: none"> e. 稼働後の薬品搬入方法及び輸送経路 f. 予備品及び安全用具 g. 材質 h. 設置場所の環境の検討 i. 排液槽の検討 j. 貯蔵量 k. 注入機の最大最小注入量 <p>1) 以下の項目は決定・確認されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 薬品注入計装フロー b. 監視制御フロー c. 配置について d. 制御方法について e. 耐オゾン性 f. 排オゾンの環境基準 	検討書			
14	活性炭注入設備	<p>1) 以下の項目は決定・確認されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 薬品注入計装フロー b. 監視制御フロー c. 配置について d. 制御方法について e. 稼働後の薬品搬入方法及び輸送経路 f. 注入方式 g. 最大・最小注入量 h. 貯蔵量 	検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
15	排水処理設備	1) 以下の項目は決定・確認されているか。 a. 監視制御フロー b. 処理方式 c. 配置について d. 制御方法について e. 安全性について	検討書			
16	各種機械設備	1) 以下の項目は決定・確認されているか。 a. 監視制御フロー b. 材質 c. 配置について d. 制御方法について e. 安全性について	検討書			
1	「諸官庁等の手続事項」 東京電力(株)	1) 以下の協議はされているか。 a. 事前協議資料について ① システムの協議 ② 図面の協議 b. 契約手続き	検討書			
2	消防関係	1) 以下の協議はされているか。 a. 消火設備・危険物計画の決定 b. 申請手続き ① 工事の届出	検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査②		備 考
				該当対象	照 査	
		② 防火対象物使用開始届 ③ 消防用設備の種類 ④ 電気設備の設置届 ・ 高圧又は特別高圧の変電設備 （全出力 50KW 以下を除く） ・ 内燃機関による発電設備 （固定して用いるものに限る） ・ 屋内に設置する蓄電池設備 c. 危険物届け出・申請				
3	通商産業省(関東通商産業局)	1) 以下の協議はされているか。 a. 工事計画届について	検討書			
4	郵政省(関東電気通信監理局)	1) 以下の協議はされているか。 a. 工事計画届について	検討書			
5	県保安課	1) 以下の協議はされているか。 a. 高圧ガス製造について	検討書			
6	市町村	1) 以下の協議はされているか。 a. 特定施設(騒音)について	検討書			
7	労働基準監督署	1) 以下の協議はされているか。 a. ボイラー及び第1種圧力容器について b. クレーン・エレベータ設置について	検討書			

成果品の照査項目一覧表

(照 査 ③)

業 務 名 :

発注者名 : 北千葉広域水道企業団

受託者名 :

照査の日付 : 令和 年 月 日

	氏 名	確認欄
照査技術者		
業務主任技術者		

※照査完了後、照査技術者及び業務主任技術者は、確認欄に、「済」を記入。

成果品の照査項目一覧表（様式-3）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査③		備 考
				該当対象	照 査	
1	「共通事項」 設備設計最終段階における詳細項目の確認	1) 各計算書相互間の確認はしたか。 a. 数量計算書 b. 設計計算書 c. 電流容量、短絡容量、遮断容量、計算書 d. 耐震、アンカー強度計算書 e. 運転操作・監視計測項目表 f. 特記仕様書 2) 各提出図面の確認はしたか。 a. 案内図・構内図 b. 単線結線図 c. 盤外形図 d. 運転操作フローシート e. 監視計測フローシート f. 幹線・制御電源・接地線系統図 g. 配置(平面図・断面図)・配線図 h. 配線表	各計算書 各提出図面			
2	概算予算の把握	1) 概算設計書の作成はしたか。	概算設計書			
3	充水・洗浄の計画	1) 充水・洗浄・排水等の概略計画については、概略計画書を作成したか。 2) 機器試運転を含めた概略工程については、概略工程表を作成したか。	充水洗浄試運転 概要計画書			

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査③		備 考
				該当対象	照 査	
1	「各工種別事項」 受変電設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
2	自家発電設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
3	電気設備(負荷設備)	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
4	計装設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
5	監視制御設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
6	遠隔監視制御設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
7	無線設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
8	工業用テレビ設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査③		備 考
				該当対象	照 査	
9	ポンプ設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
10	塩素注入設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
11	薬品注入設備 (PAC・バンド・苛性ソーダ設備)	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
12	次亜塩素酸ナトリウム注入設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
13	オゾン注入設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。	設計調書			
14	活性炭注入設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。				
15	排水処理設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。				
16	各種機械設備	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注仕様として適切か。				

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	項 目	主 な 内 容	提示資料	照査③		備 考
				該当対象	照 査	
1	「諸官庁等の手続事項」 東京電力(株)	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注時以降の手順に影響を与えないか。	検討書			
2	消防関係	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注時以降の手順に影響を与えないか。	検討書			
3	通商産業省(関東通商産業局)	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注時以降の手順に影響を与えないか。	検討書			
4	郵政省(関東電気通信監理局)	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注時以降の手順に影響を与えないか。	検討書			
5	その他	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 工事発注時以降の手順に影響を与えないか。	検討書			

設 計 調 書

業 務 名 :

発注者名 : 北千葉広域水道企業団

受託者名 :

作成年月日 : 令和 年 月 日

	氏 名
照査技術者	
業務主任技術者	

受変電設備設計調書（1）

業務名		所属名		遮断器	種類		電圧	V	電流	A	
施設名		受託者名			遮断容量	KA	個数				
所在地											
完成年月日	令和 年 月 日	稼働年月日	令和 年 月 日	断路器	種類		電圧	V	個数		
計画水量	全体計画	m ³ /日	今回計画		m ³ /日	操作方法					
受電電圧	KV	契約電力	KW								
東京電力	変電所から受電			コンデンサ	容量	KVA	電圧	V	個数		
消防設備					結線法						
通産関連				その他	計器用変圧器	形式		個数			
騒音規制	騒音規制区域第	種	(dB)敷地境界		変流器	形式		個数			
制御方式											
受電	受電電圧	KV	受電方式	備考							
	変圧器バンク数		絶縁階級								
	取引用変成器		絶縁方式								
変圧器	容量	KVA	個数								台
	構造		形式								
	定格電圧	V / V	結線法								
	絶縁種別		相数								

受変電設備設計調書（2）

単線結線図等

自家発電設備設計調書（1）

業務名				所属名				遮断機	種類		定格電圧	V	定格電流	A	
施設名				受託者名					遮断容量	KV					
所在地									インターロック						
完成年月日	令和 年 月 日	稼働年月日	令和 年 月 日	燃料関係	燃料移送ポンプ	容量	ℓ/min× KW	台数	台						
計画水量	全体計画	m ³ /日	今回計画		m ³ /日	燃料小出槽	容量	ℓ	槽数	基					
受電電圧	KV	契約電力	KW		周波数	Hz	地下燃料貯留槽	容量	ℓ	槽数	基				
東京電力	変電所から受電							最大運転可能時間	時間						
消防設備								騒音関係	消音器	騒音値(消音器出口 1mにて)			dB		
通産関連								その他							
騒音規制	騒音規制区域第 種 (dB)敷地境界														
制御方式															
使用形能				形式						備考					
容量				KVA	台数										
発電機	定格電圧	V	定格周波数	Hz	定格回転数	min ⁻¹									
	保護方式	励磁方式			並列運転	有・無									
電動機	形式														
電動機	定格出力	PS	出力電圧	V	使用燃料										
	燃料消費率	始動方式			冷却方式										

自家発電設備設計調書（2）

単線結線図等



電気設備(負荷設備)設計調書(1)

業務名				所属名				配電設備	無停電電源装置	形式		数量	面	
施設名				受託者名					出力	交流入力	入力電圧	V		
所在地							蓄電池容量			電圧	AH	容量	KVA	
完成年月日	令和 年 月 日	稼働年月日	令和 年 月 日							バックアップ時間	分間			セル数
計画水量	全体計画	m ³ /日	今回計画	m ³ /日										
受電電圧	KV		契約電力	KW					その他					
消防設備														
通産関連									コントロールセンタ	定格電圧	V	面	形式	
騒音規制	騒音規制区域第	種(dB)	敷地境界	dB						継電器盤	設備	面	設備	面
制御方式									現場操作盤		設備	面	設備	面
配電設備	高圧盤	定格電圧	V	面数	面						その他	設備	面	設備
	低圧盤	定格電圧	V	面数	面				現場操作盤	設備		面	設備	面
	変圧器盤	定格電圧	V / V	面数	面					現場操作盤	設備	面	設備	面
	その他								現場操作盤		設備	面	設備	面
	低圧動力用変圧器	二次電圧	V	容量	KVA					その他				
		形式		数量	台									
	照明用変圧器	二次電圧	V	容量	KVA				その他					
		形式		数量	台									
	電力用コンデンサ	定格電圧	V							備考				
		数量	KVA×	台	KVA×	台								
KVA×			台	KVA×	台									
直流電源装置	数量								備考					
	蓄電池	形式		電圧	V									
		容量	AH	セル数	セル									
	整流器	入力電圧	V	出力電圧	V									

電気設備（負荷設備）設計調書（2）

単線結線図等

計装設備設計調書 (1)

業務名		所属名		区分		形式	台数	液体名	主要部材料	計画レンジ		
施設名		受託者名		計装機器		圧力計測						
所在地												
完成年月日		令和 年 月 日	稼働年月日								令和 年 月 日	
計画水量		全体計画 m ³ /日									今回計画 m ³ /日	
設置環境		温度 屋内 0~40℃、屋外 -10~50℃										
湿度		屋内 20~85%RH										
基本仕様	計装電源		供給電源 <input type="checkbox"/> AC V、 <input type="checkbox"/> DC V、 <input type="checkbox"/> 無停電		水質計測							
	計器電源		<input type="checkbox"/> AC V、 <input type="checkbox"/> DC V、 <input type="checkbox"/> 無停電									
	装用空気		供給圧力 <input type="checkbox"/> 0.137 MPa <input type="checkbox"/> その他 ()									
			信号圧力 <input type="checkbox"/> 20~100 KPa <input type="checkbox"/> その他 ()									
	制御・出力信号		電子式 <input type="checkbox"/> DC 4~20mA、 <input type="checkbox"/> DC 1~5V									
	復電自動復帰機能		<input type="checkbox"/> 有、 <input type="checkbox"/> 無									
計装機器	区分	形式	台数	液体名	主要部材料	計画レンジ	その他の計測					
	流量計測											
	液位計測											
				計装盤関係		盤名称	面数	形式	用途	停電対策		
						1				<input type="checkbox"/> 有、 <input type="checkbox"/> 無		
						2				<input type="checkbox"/> 有、 <input type="checkbox"/> 無		
						3				<input type="checkbox"/> 有、 <input type="checkbox"/> 無		
						4				<input type="checkbox"/> 有、 <input type="checkbox"/> 無		
						5				<input type="checkbox"/> 有、 <input type="checkbox"/> 無		
						6				<input type="checkbox"/> 有、 <input type="checkbox"/> 無		
						7				<input type="checkbox"/> 有、 <input type="checkbox"/> 無		
						8				<input type="checkbox"/> 有、 <input type="checkbox"/> 無		

計装設備設計調書（2）

<p>基本監視制御方式</p> <p>〈中央〉</p>	<p>計装フロー図</p> <p>〈中央〉</p>
<p>〈地区〉</p>	<p>〈地区〉</p>
<p>〈現場〉</p>	<p>〈現場〉</p>

監視制御設備設計調書（1）

業務名		所属名		監視制御システム区 〈中央〉		
施設名		受託者名				
所在地						
作成年月日	令和 年 月 日	稼働年月日	令和 年 月 日			
計画水量	全体計画 m ³ /日	今回計画	m ³ /日			
ハード基本仕様	設置環境	温度	屋内 0~40℃、屋外 -10~50℃			
		湿度	屋内 20~85%RH			
	電源	供給電源	<input type="checkbox"/> AC V、 <input type="checkbox"/> DC V、 <input type="checkbox"/> 無停電			
		計器電源	<input type="checkbox"/> AC V、 <input type="checkbox"/> DC V、 <input type="checkbox"/> 無停電			
	操作器	供給圧力	<input type="checkbox"/> 0.137 MPa <input type="checkbox"/> その他（ ）			
		信号圧力	<input type="checkbox"/> 20~100 KPa <input type="checkbox"/> その他（ ）			
表示器	電子式	<input type="checkbox"/> DC 4~20mA、 <input type="checkbox"/> DC 1~5V				
	空気式	<input type="checkbox"/> 20~100 KPa <input type="checkbox"/> その他（ ）				
伝送器	中央	<input type="checkbox"/> 光ケーブル、 <input type="checkbox"/> 電線ケーブル、 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
	現場	<input type="checkbox"/> 光ケーブル、 <input type="checkbox"/> 電線ケーブル、 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
監視制御用機器	区分	名称	形式	数量	用途等	
	中央					
	地区					
	現場					
					〈地区〉	
					〈現場〉	

監視制御設備設計調書（2）

基本監視制御方式

監視制御項目表

遠方監視制御設備設計調書（1）

業務名		所属名		設備の構成	C R T の 台 数			
施設名		受託者名			制 御 装 置 の 台 数			
所在地					ア ラ ー ム 用 プ リ ン タ			
作成年月日	令和 年 月 日	稼働年月日	令和 年 月 日		ロ グ イ ン グ 用 プ リ ン タ			
計画水量	全体計画	m ³ /日	今回計画		m ³ /日	ハ ー ド コ ピ ー 装 置		
受電電圧		KV	周波数			H z	ワ ー ク ス テ ー シ ョ ン	
消防設備					通 信 制 御 装 置			
騒音規制	騒音規制区域第 種(dB) 敷地境界 dB			そ の 他 の 装 置				
設置目的				ソフトウエア	操 作 フ ロ ー 図 の 作 成			
					自 動 制 御 方 式 の 検 討			
					機 器 操 作 方 法 の 検 討			
					グ ラ フ ィ ッ ク 表 示 の 検 討			
親局	機場名		所在地		ト	デ ー タ 収 集 処 理		
子局	機場名		所在地		ウ	デ ー タ 検 討 処 理		
基本仕様の決定	伝送方式				エ	フ ェ イ ル 処 理		
	システムの形態				ア	運 転 記 録		
	伝送回線					帳 票 作 成 及 び 処 理		
	伝送速度							
	制御応答時間				備考			
	二重化の検討							
	インターフェース仕様							
	無停電電源装置の検討							
拡張性の検討								

遠方監視制御設備設計調書（2）

概要図（フロー図・配置図等）縮小版貼付で可

無線設備設計調書（1）

業務名		所属名		設備の構成	親局	中継局	子局
施設名		受託者名			多重無線装置		
所在地					複合端局装置		
作成年月日	令和 年 月 日	稼働年月日	令和 年 月 日		無線用監視装置		
計画水量	全体計画	m ³ /日	今回計画		乾燥空気充填装置		
受電電圧		KV	周波数		空中線		
消防設備					同上用鉄塔等		
騒音規制	騒音規制区域第	種(dB)	敷地境界		導波管		
設置目的					その他の装置		
親局	機場名		所在地		操作フロー図の作成		
中継局	機場名		所在地	自動切替方法の検討			
子局	機場名		所在地	鉄塔設計条件等の検討及び結果			
基本仕様の決定	見通図の作成						
	周波数帯の決定	MHz 帯	通信路容量	c H	関東電気通信監理局との協議経過		
	二重化の検討						
	回線設計						
	空中線設置高さ						
	親局 建屋高	m	鉄塔高	m	合計地上高	m (YP+ m)	
	中継局 建屋高	m	鉄塔高	m	合計地上高	m (YP+ m)	
子局 建屋高	m	鉄塔高	m	合計地上高	m (YP+ m)		
	インターフェース仕様						
	無停電電源装置の検討						
	備考						

無線設備設計調書（2）

概要図（フロー図・配置図等）縮小版貼付で可

工業用テレビ設備設計調書（1）

業務名		所属名		区分	項目				設計内容					
施設名		受託者名			カ メ ラ	撮像素子	撮像管	白黒CCD	カラーCCD	その他				
所在地						最低被写体照度	Lx	Lx	Lx	Lx				
完成年月日		令和年月日	稼働年月日			令和年月日	水平解像度	本	本	本	本			
計画水量		全体計画				mi/日	今回計画	mi/日						
装置環境		温度 屋内 0~40℃、屋外 -10~50℃		屋 外 カ メ ラ ケ ー ス		垂直解像度	本	本	本	本				
電源		□AC V、 □DC V			走査方式									
規格		□NTSC規格 □その他 ()			台数	台	台	台	台	台				
システム		□白黒 □動画、 □準動画、 □静止画			使用の有無	□有(台)、 □無								
伝送方法		□カラー □動画、 □準動画、 □静止画			保護構造	□防塵形 □防滴形 □その他 ()								
制御方式		□同軸ケーブル、 □自営電話線、 □公衆回線		材質	□耐食アルミニウム合金、 □その他 ()									
		□マイクロ回線、 □光ファイバーケーブル		デフロスタ	□有 □無									
		□直接制御、 □リレー制御、 □時分割多重制御		ワイパー	□有 □無									
				ヒーター	□有 □無									
				電動ズームレンズ	使用の有無	□有(台)、 □無								
				焦点距離	~ mm									
				ズーム比										
				明るさ	F=									
				絞り	□手動 □自動 □その他 ()									
				フォーカス	□手動 □自動 □その他 ()									
				電動雲台	使用の有無	□有(台)、 □無								
				左右回転角度	度									
				上下回転角度	上方 度、下方 度									
				補助照明	□有 (W× 台)、 □無									
				電動ズームレンズ	使用の有無	□有(台)、 □無								
				焦点距離	~ mm									
				ズーム比										
				明るさ	F=									
				絞り	□手動 □自動 □その他 ()									
				フォーカス	□手動 □自動 □その他 ()									
				電動雲台	使用の有無	□有(台)、 □無								
				左右回転角度	度									
				上下回転角度	上方 度、下方 度									
				補助照明	□有 (W× 台)、 □無									
				モニタ	形式	□白黒 (インチ× 台)、 □カラー (インチ× 台)								
				水平解像度	本									
				垂直解像度	本									
				操作卓等	形式	□操作卓、 □自立操作卓								
				概略寸法	W× H× D									
				ビデオ記録装置	□有 (台)、 □無									

工業用テレビ設備設計調書（2）

システム構成図



ポンプ設備設計調書（1）

業務名				所属名				水撃作用の検討			
施設名				受託者名				サージタンクの有無			
所在地							フライホイールの有無				
作成年月日	令和 年 月 日	稼働年月日	令和 年 月 日				空気弁等の状況				
計画水量	全体計画	m ³ /日	今回計画	m ³ /日					ハードコピー装置		
受電電圧	KV		周波数	Hz			Q-H曲線の作成				
消防設備							キャビテーション領域の検討				
騒音規制	騒音規制区域第 種(dB) 敷地境界 dB						ポンプ材質の検討				
ポンプ用途	・取水 ・送水 ・その他()						ケーシング	羽根車			
水量	日最大配水量	m ³ /日					主軸	スリーブ			
	時間最大配水量	m ³ /hr	時間最小水量	m ³ /hr					ライナーリング		
	時間係数							その他主要部			
揚程	実揚程	m	管路損失	m							
	ポンプ廻り損失	m	その他損失	m		満水検知器・小配管等の検討					
	全揚程	m									
予備機を含む全台数	台						弁・主配管の検討				
1台当たりの仕様	ポンプ水量	m ³ /日	m ³ /hr	m ³ /min							
	ポンプ揚程	m						騒音・振動の検討			
	ポンプ形式										
	ポンプ回転数	min ⁻¹	保証効率	%以上		塗装の検討					
	電動機容量	KW	速度変動範囲	~ %							
	回転数制御方式							備考			
	締切圧力概略値	m	Nsの概略値								
	吸込口径	mm									
小水量時のポンプ運転方法の検討											

ポンプ設備設計調書（2）

概要図（フロー図・配置図等）縮小版貼付で可

薬品注入設備（塩素設備）設計調書（1）

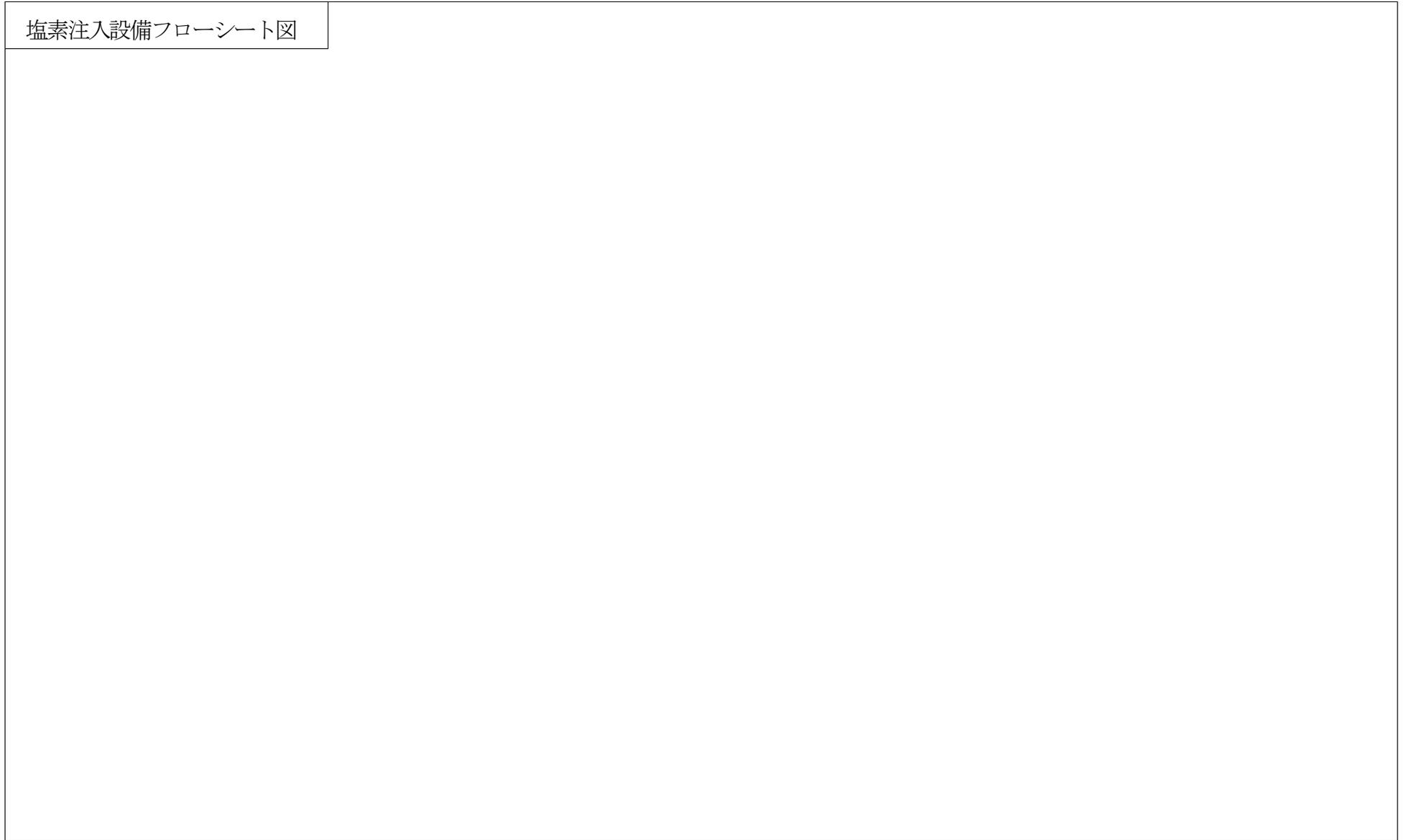
業務名		所属名		後 塩 素	最大注入率	mg/l		注入機容量	台数		
施設名		受託者名			最大注入量	kg		kg/h			
所在地					最小注入率	mg/l					
完成年月日	令和 年 月 日	稼働年月日	令和 年 月 日		最小注入量	kg					
処理水量	全体計画	m ³ /日	今回計画		m ³ /日	平均注入率	mg/l				
前 塩 素	最大注入率	mg/l		注入機容量	台数	平均注入量	kg				
	最大注入量	kg		kg/h		ポンプ本数	タンク容量	貯蔵量	耐震基準		
	最小注入率	mg/l				tonポンプ	ton基				
	最小注入量	kg									
	平均注入率	mg/l									
中 塩 素	最大注入率	mg/l		注入機容量	台数	受入設備					
	最大注入量	kg		kg/h			容量	kg/h	除害設備	除害能力	中和用苛性ソーダ貯槽
	最小注入率	mg/l					台数			容量	
	最小注入量	kg					材質			漏洩検知器台数	材質
	平均注入率	mg/l					容量	m ³		数量	
	平均注入量	kg					台数		検知方法	排風機容量	
注入点の検討(前、中、後)						材質		m ³ /h	kw		
					その他			台数			

薬品注入設備（塩素設備）設計調書（2）

配管		受入配管	取り出し	気 塩	排 気	計	塩素設備フローシート図	
	口 径							
	材 質							
排液設備	排 液 ポ ン プ			排 液 貯 槽		配 管		
	容 量		口 径		容量		口径	
	材 質				材質		材質	
法令の遵守	高圧ガス取締法、 大気汚染防止法、 労働安全衛生法、 その他条例							
	県保安課協議							
震災対策								
その他								

薬品注入設備（塩素設備）設計調書（3）

塩素注入設備フローシート図



薬品注入設備（PAC・バンド）設計調書

業務名		所属名		その他	
施設名		受託者名			
所在地					
完成年月日	令和 年 月 日	稼働年月日	令和 年 月 日	PAC注入設備フローシート図	
処理水量	全体計画	m ³ /日	今回計画	m ³ /日	
注入点の検討					
注入設備	最大注入率	m g / ℓ	注入機容量	台数	
	最大注入量	k g	kg/h		
	最小注入率	m g / ℓ			
	最小注入量	k g	注入ポンプ容量	台数	
	平均注入率	m g / ℓ			
	平均注入量	k g			
受入設備		受入配管	注入配管	口径	
	材質			材質	
	口径			流量計	
貯蔵設備	基	貯槽	貯槽廻配管		付属設備等
	容量		口径		
	材質		材質		
			液位計	ドレン等	
			材質		

薬品注入設備（次亜塩素酸ナトリウム設備）設計調書

業務名		所属名		次亜生成設備			
施設名		受託者名					
所在地							
完成年月日	令和 年 月 日	稼働年月日	令和 年 月 日				
処理水量	全体計画	m ³ /日	今回計画	m ³ /日	次亜注入設備フローシート図		
注入点の検討							
注入設備	最大注入率	m g / ℓ		注入機容量	台数		
	最大注入量	k g		kg/h			
	最小注入率	m g / ℓ					
	最小注入量	k g		注入ポンプ容量	台数		
	平均注入率	m g / ℓ					
	平均注入量	k g					
受入設備		受入配管	注入配管	口径			
	材質			材質			
	口径			流量計			
貯蔵設備	基	貯槽	貯槽廻配管		付属設備等	液位計	ドレン等
	容量		口径			材質	
	材質		材質				

オゾン注入設備設計調書（1）

業務名		所属名		オゾン発生器	発生量	冷却方法	排オゾン処理施設	ブロワー容量	材質		
施設名		受託者名									
所在地						冷却肺肝		台数			
完成年月日	令和 年 月 日	稼働年月日	令和 年 月 日								
処理水量	全体計画	m ³ /日	今回計画		m ³ /日	材質		口径	排オゾン処理		
中オゾン注入量	最大注入率	mg/ℓ		空気源設備	風量	圧力	材質				
	最大注入量	kg								容量	
	最小注入率	mg/ℓ						台数	付属設備(スレナ等)		
	最小注入量	kg				その他特記		基数			
	平均注入率	mg/ℓ		空気冷却装置	処理量	設計温度	材質	散気管口径、数量、材質			
	平均注入量	kg									
後オゾン注入量	最大注入率	mg/ℓ		空気乾燥装置	台数						
	最大注入量	kg						流量計・調節弁等			
	最小注入率	mg/ℓ		空気乾燥装置	処理量	設計温度	材質				
	最小注入量	kg									
	平均注入率	mg/ℓ		空気乾燥装置	台数						
	平均注入量	kg									
残オゾン計			環境オゾン計								

オゾン注入設備設計調書（2）

オゾン注入設備フローシート図

